出来形管理基準及び規格値

令和2年10月改定令和3年10月改定令和4年10月改定令和5年10月改定令和6年10月改定

【第1編 共通編】

1/13 ± ///// // // // // // // // // // // /		1		
章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第2章 土工				
	2-3-2掘削工	掘削工		1
土工・砂防土工		掘削工(面管理の場合)		1
		掘削工 (水中部) (面管理の 場合)		2
	2-3-3盛土工	盛土工		2
		盛土工(面管理の場合)		3
	2-3-4盛土補強工	補強土 (テールアルメ) 壁工 法		4
		多数アンカー式補強土工法		4
		ジオテキスタイルを用いた 補強土工法		4
	2-3-5法面整形工	盛土部		4
	2-3-6堤防天端工			4
第 4 節 道路土工	2-4-2掘削工	掘削工		4
		掘削工(面管理の場合)		5
	2-4-3路体盛土工	路体盛土工		6
		路体盛土工 (面管理の場合)		6
	2-4-4路床盛土工	路床盛土工		6
		路床盛土工 (面管理の場合)		6
	2-4-5法面整形工	盛土部		7
第3章 無筋、鉄筋コンク	リート			
第 5 節 鉄筋工	3-7-4組立て			7

^{※「}準用する出来形管理基準」は準用先を示す。空白部は「条」の欄に準用先を示す。

【第3編 十木工事共通編】

	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第2章	一般施工				
第3節	共通的工種	2-3-4 矢板工(指定仮	鋼矢板		8
	<u>_</u>	設・任意仮設は除く)	軽量鋼矢板		8
			コンクリート矢板		8
			広幅鋼矢板		8
			可とう鋼矢板		8
		2-3-5縁石工	縁石・アスカーブ		8
		2-3-6小型標識工			8
		2-3-7防止柵工	立入防止柵		9
			転落(横断)防止柵		9
			車止めポスト		9
		2-3-8路側防護柵工	ガードレール		9
			ガードケーブル		9
		2-3-9区画線工	A My Div		-
		2-3-9区國際工	視線誘導標		10
		2 0 10 但 6 円 偶 初 上	距離標		10
		2-3-11コンクリート面塗装			10
		工 コーローファップト回座表			10
		$\frac{2}{2-3-127}$ レテンション桁製	けた橋		10
		作工 (購入工)	スラブ桁		11
		2-3-13ポストテンション桁製			11
		作工	プレキャストセグメント製作工(購入		
			工)		12
		$2 - 3 - 147^{\circ} \nu$			12
		主桁組立工			12
		2-3-15PCホロ-スラブ製作工			12
		2-3-16 PC箱桁製作工	PC箱桁製作工		13
			PC押出し箱桁製作工		13
		2-3-17根固めブロッ			
		ク			14
		2-3-18沈床工			14
		2-3-19捨石工			14
		2-3-22階段工			15
		2-3-24伸縮装置工	ゴムジョイント		15
			鋼製フィンガージョイント		15
			埋設型ジョイント		16
		2-3-26 多自然型護岸	巨石張り、巨石積み		16
			かごマット		16
		2-3-27羽口工	じゃかご		16
			ふとんかご、かご枠		17
		2-3-28プレキャスト	プレキャストボックス工		17
		カルバート工	プレキャストパイプ工		17
		2-3-29側溝工	プレキャストU型側溝		17
			L型側溝		17
			自由勾配側溝		17
			管渠		17
			場所打水路工		18
			暗渠工		18
		2-3-30集水桝工	-H-/N-2		18
1		2-3-31現場塗装工			19
		- 5 51加重級工	l .		1)

【第3編 十木工事共通編】

章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第 4 節 基礎工	2-4-1-般事項	切込砂利		19
		砕石基礎工		19
		割ぐり石基礎工		19
		均しコンクリート		19
	2-4-3基礎工(護岸)	現場打		19
		プレキャスト		20
	2-4-4既製杭工	既製コンクリート杭		20
		鋼管杭		20
		H鋼杭		20
		鋼管ソイルセメント杭		20
	2-4-5場所打杭工			20
	2-4-6深礎工			21
	2-4-7オープンケー ソン基礎工			21
	2-4-8ニューマチッ クケーソン基礎工			21
	2-4-9鋼管矢板基礎工			22
第 5 節 石・ブロック積	2-5-3コンクリート	コンクリートブロック積		22
(張)工	ブロック工	コンクリートブロック張り		22
		連節ブロック張り		22
		天端保護ブロック		23
	2-5-4緑化ブロック			23
	工 2-5-5石積(張)工			23
第 6 節 一般舗装工	2-6-7アスファルト	下層路盤工		24
	舗装工	下層路盤工 (面管理の場合)		25
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		26
		上層路盤工(粒度調整路盤 工) (面管理の場合)		27
		上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		28
		上層路盤工(セメント (石灰)安定処理工) (面管理の場合)		29
		加熱アスファルト安定処理工		30
		加熱アスファルト安定処理 工 (面管理の場合)		31
		基層工		32
		基層工(面管理の場合)		33
		表層工		34
		表層工 (面管理の場合)		35
	2-6-8半たわみ性舗 装工	下層路盤工		36
		下層路盤工(面管理の場 合)		37
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		38
		上層路盤工(粒度調整路盤 工)(面管理の場合)		38
		上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		39
		上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)(面管理 の場合)		39
		加熱アスファルト安定処 理工		40

【第3編 十木工事共通編】

	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第6節	一般舗装工	2-6-8半たわみ性舗 装工	加熱アスファルト安定処 理工 (面管理の場合)		40
		表上 	基層工		41
			基層工(面管理の場合)		42
			表層工		43
			表層工 (面管理の場合)		43
		2-6-9排水性舗装	下層路盤工		44
		工	下層路盤工 (面管理の場合)		45
			上層路盤工(粒度調整路盤工)		46
			上層路盤工(粒度調整路盤 工)(面管理の場合)		46
			上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		47
			上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)(面管理の場合)		47
			加熱アスファルト安定処理工		48
			加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)		49
			基層工 基層工 (面管理の場合)		49
			表層工(画音座の場合)		50
			表層工(面管理の場合)		50 51
		2-6-10透水性舗装工	路盤工		51
		= 0 10X2/1/1 Hill & L	路盤工(面管理の場合)		52
			表層工		53
			表層工(面管理の場合)		54
		2-6-11グースアスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処 理工		55
			加熱アスファルト安定処理 工(面管理の場合)		56
			基層工		56
			基層工(面管理の場合)		57
			表層工		57
			表層工(面管理の場合)		58
		2-6-12コンクリート 舗装工	下層路盤工		59
		mix -	下層路盤工 (面管理の場合) 粒度調整路盤工		60
			粒度調整路盤工(面管理の		61
			場合) セメント(石灰・瀝青)安定		62
			処理工 セメント (石灰・瀝青)		63
			安定処理工 (面管理の場合)		64
			アスファルト中間層		65
			アスファルト中間層(面管理の場合)		66
			コンクリート舗装版工		67
			コンクリート舗装版工 (面管理の場合)		68
			転圧コンクリート版工(下 層路盤工)		69
			転圧コンクリート版工 (下層路盤工)(面管理の場合)		70
			転圧コンクリート版工(粒 度調整路盤工)		70

【第3編 土木工事共通編】

	編 工不工事共1 章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第6節	一般舗装工	2-6-12コンクリート 舗装工	転圧コンクリート版工 (粒度調整路盤工)(面管理 の場合)		71
			転圧コンクリート版工(セメント (石灰・瀝青) 安定処理工)		72
			転圧コンクリート版工 (セメント (石灰・瀝青) 安 定処理工) (面管理の場合)		73
			転圧コンクリート版工(ア スファルト中間層)		74
			転圧コンクリート版工 (アスファルト中間層) (面管理の場合)		75
			転圧コンクリート版工		76
			転圧コンクリート版工 (面管理の場合)		77
		2-6-13薄層カラー舗	下層路盤工		77
		装工	上層路盤工(粒度調整路盤工)		78
			上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		78
			加熱アスファルト安定処理工.		79
			基層工		80
		2-6-14ブロック舗装	下層路盤工		80
		工	上層路盤工(粒度調整路盤工)		81
			上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		81
			加熱アスファルト安定処理 工		81
			基層工		81
		2-6-15路面切削工	路面切削工 路面切削工(面管理の場合)		82 82
		<u>−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−</u>	四回97月7工(四百年》/勿口/		82
		2-6-17オーバーレイ エ	オーバーレイエ		82
			オーバーレイエ(面管理の場合)		83
第7節	地盤改良工	2-7-2路床安定処理 工			84
		2-7-3置換工			84
		2-7-4表層安定処理 T.	サンドマット海上 ICT施工の場合		85
		2-7-5パイルネット	101/地上 0 2 3 3 日		85 85
		ユ 2-7-6サンドマット			86
		工 2-7-7バーチカルド	井とははい一とエ		
		レーンエ	ペーパードレーンエ		86 86
			袋詰式サンドドレーンエ		86
		2-7-8締固め改良工	サンドコンパクションパ イルエ		86
		2-7-9固結工	粉末噴射撹拌工	_	87
			高圧噴射撹拌工		87
			スラリー撹拌工		87
			生石灰パイル工		87

【第3編 土木工事共通編】

	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第7節	地盤改良工	2-7-9固結工	スラリー撹拌工 「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)第 8編 固結工(スラリー撹 拌工)編」による管理の場		87
		- 1 5- 1-1-1-	中層混合処理		88
第10節	仮設工	2-10-5 土留・仮締切工			88
			鋼矢板		88
			アンカー工 連節ブロック張り工		88
			締切盛土		88
			中詰盛土		89 89
		2-10-9地中連続壁工	1.44		
		(壁式)			89
		2-10-10地中連続壁工 (柱列式)			89
		2-10-22法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	103
第11節	軽量盛土工	2-11-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第12節	工場製作工(共通)	2-12-1一般事項	鋳造費(金属支承工)		90
			鋳造費(大型ゴム支承工)		91
			仮設材製作工		91
		0.12.0 好制化工	刃口金物製作工 ケギュ なお まままます		91
		2-12-3桁製作工	仮組立検査を実施する場 合		92
			シミュレーション仮組検 査を実施する場合		92
			仮組立検査を実施しない 場合		94
			鋼製堰堤製作工(仮組立時)		95
		2-12-4検査路製作工			97
		2-12-5鋼製伸縮継手 製作工			97
		2-12-6落橋防止装置 製作工			97
		2-12-7橋梁用防護柵 製作工			97
		2-12-8アンカーフレ ーム製作工			98
		2-12-9プレビーム用 桁製作工			98
		2-12-10鋼製排水管製作工			99
		2-12-11工場 塗装工			99
第13節	橋梁架設工	2-13架設工(鋼橋)	クレーン架設		100
			ケーブルクレーン架設		100
			ケーブルエレクション架 設		100
			架設桁架設		100
			送出し架設		100
		9_12加乳子 (ランタリ	トラベラークレーン架設		100
		2-13架設工(コンクリート橋)	クレーン架設 架設桁架設		101
		2一13架設工支保工	(米設 10 10 10 10 10 10 10 1		101
			<u> </u>		101
		2-13架設桁架設	片持架設		101
			押出し架設		101

【第3編 十木工事共通編】

【 男 3			++ -亚.	米田トフリナル然田甘 郷	
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第14節	法面工 (共通)	2-14-2植生工	種子散布工	1	
			張芝工		
			筋芝工		
			市松芝工		
			植生シート工		101
			植生マット工		
			植生筋工		
			人口張芝工		
			植生穴工	1	
			植生基材吹付工	1	100
			客土吹付工		102
		2-14-3吹付工(仮設	コンクリート		103
		を含む)	モルタル		103
		2-14-4法枠工	現場打法枠工		104
			現場吹付法枠工		104
			プレキャスト法枠工		104
		2-14-6アンカーエ			105
第15節	擁 壁 工 (共通)	2-15-1-般事項	場所打擁壁工		105
		2-15-2プレキャスト			106
		擁壁工			100
		2-15-3補強土壁工	補強土(テールアルメ)壁		106
			工法		100
			多数アンカー式補強土工		106
			法		100
			ジオテキスタイルを用い		106
			た補強土工法		100
		2-15-4井桁ブロック			107
第16節	浚渫工(共通)	工 2-16-3 浚渫船運転工	ポンプ浚渫船		100
第10即	<i>夜</i> ,床土(六进)	∠ -10-3 仮保航運転上	グラブ浚渫船、バックホ		108
			クラノ液深船、ハツクホ ウ浚渫船		108
			バックホウ浚渫船		
			(面管理の場合)		108
第18節	床版工	2-18-2床版工			109

^{※「}準用する出来形管理基準」は準用先を示す。空白部は「条」の欄に準用先を示す。

【第6	編 河川編】				
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第1章	築堤・護岸				
第 3 節	軽量盛土工	1-3-2軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 4 節	地盤改良工	1-4-2表層安定処理工		第3編2-7-4 表層安定処理工	85
		1-4-3パイルネット工		第3編2-7-5パイルネットエ	85
		1-4-4バーチカルドレ		第3編2-7-7バーチカルドレー	0.0
		ーンエ		ンエ	86
		1-4-5締固め改良工		第3編2-7-8締固め改良工	86
		1-4-6固結工		第 3 編2-7-9固結工	87
第 5 節	護岸基礎工	1-5-3基礎工		第3編2-4-3基礎工(護岸)	19
		1-5-4矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
第6節	矢板護岸工	1-6-3笠コンクリート		第3編2-4-3基礎工(護岸)	19
				the over a series	
## - ##	计	1-6-4矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
第7節	法覆護岸工	1-7-3コンクリートブロックエ		第3編2-5-3コンクリートブロック工	22
		1-7-4護岸付属物工		<u></u>	110
		1-7-5緑化ブロックエ		第3編2-5-4緑化ブロックエ	23
		1-7-6環境護岸ブロッ		第3編2-5-3コンクリートブロック	
		クエ		工	22
		1-7-7石積(張)工		第3編2-5-5石積(張)工	23
		1-7-8法枠工		第 3 編2-14-4法枠工	104
		1-7-9多自然型護岸工	巨石張り	第3編2-3-26多自然型護岸工	16
			巨石積み	第3編2-3-26多自然型護岸工	16
			かごマット	第3編2-3-26多自然型護岸工	16
		1-7-10吹付工		第 3 編2-14-3吹付工	103
		1-7-11植生工		第 3 編2-14-2植生工	101
		1-7-12覆土工	,	第1編2-3-5法面整形工	4
		1-7-13羽口工	じゃかご	第 3 編2 — 3 — 27羽口工	16
			ふとんかご かご枠	第3編2-3-27羽口工 第3編2-3-27羽口工	17 17
			連節ブロック張り	第3編2-5-3コンクリートブロ	
				ック工(連節ブロック張り)	22
第 8 節	擁壁護岸工	1-8-3場所打擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		1-8-4プレキャスト擁		第3編2-15-2プレキャスト擁壁	106
## 0 ##	お田みて	壁工		工 	100
男 9 即	根固め工	1-9-3根固めブロック		第3編2-3-17根固めブロック	14
		1-9-5沈床工		第 3 編2-3-18沈床工	14
		1-9-6 捨石工		第 3 編2-3-19捨石工	14
		1-9-7かごエ	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
			ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
第10節	水制工	1-10-3沈床工		第3編2-3-18沈床工	14
		1-10-4 捨石工		第3編2-3-19捨石工	14
		1 -10- 5 かごエ	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
			ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
		1-10-8杭出し水制工			110
第11節	付帯道路工	1-11-3路側防護柵工		第3編2-3-8路側防護柵工	9
		1-11-5アスファルト舗		第3編2-6-7アスファルト舗装	24
		<u>装工</u> 1-11-6コンクリート舗		上 第3編2-6-12コンクリート舗装	
		装工		工	59
		1-11-7薄層カラー舗装		第3編2-6-13薄層カラー舗装工	77
		I		http://www.same.com	
		1-11-8ブロック舗装工		第3編2-6-14ブロック舗装工	80
		1-11-9側溝工		第 3 編2 - 3 - 29 側溝工	17
第11節	付帯道路工	1-11-10集水桝工		第3編2-3-30集水桝工	18
		1-11-11縁石工		第3編2-3-5縁石工	8
		1-11-12区画線工		第3編2-3-9区画線工	10
第12節	付帯道路施設	1-12-3道路付属物工		第3編2-3-10道路付属物工	10
	エ	1-12-4標識工		第3編2-3-6小型標識工	8
				•	

おり	編 刊川編】				
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第13節		1-13-3配管工			110
	管工	1-13-4ハンドホール工			111
第2章	浚渫 (川)				
第3節		2-3-2浚渫船運転工(民船・官船)		第3編2-16-3浚渫船運転工	108
第4節	- 次 浚渫エ(グラブ 浚渫船)	2-4-2浚渫船運転工		第3編2-16-3浚渫船運転工	108
第 5 節		2-5-2浚渫船運転工		第3編2-16-3浚渫船運転工	108
	ホウ浚渫船)		浚渫船運転工 (面管理の場合)	第3編2-16-3浚渫船運転工	108
 第3章	樋門・樋管				
第3節	軽量盛土工	3-3-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第4節	地盤改良工	3-4-2固結工		第 3 編 2 - 7 - 9 固結工	87
第5節	樋門·樋管本体	3-5-3既製杭工		第 3 編 2 一 4 一 4 既 製 杭 工	20
, O M	工	3-5-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		3-5-5矢板工		第 3 編 2 一 3 一 4 矢 板 工	
		3-5-6 函渠工	本体工	A1 O IMHA - 3 サハ1X 工	8
		3-3-0 图朱上	ヒューム管		112
			PC管		
			コルゲートパイプ		112
			ダクタイル鋳鉄管		112
				数の何なってのプレナ 、フトカッ	112
		70.04	PC函渠	第3編2-3-28プレキャストカル バートエ	17
		3-5-7翼壁工			113
		3-5-8水叩工			113
第6節	護床工	3-6-3根固めブロック工		第3編2-3-17根固めブロックエ	14
		3-6-5沈床工		第 3 編2-3-18沈床工	14
		3-6-6 捨石工		第3編2-3-19捨石工	14
		3-6-7カごエ	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
空 フ 空	水路工	3-7-3側溝工	ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
第7節	小岭工	3-7-3 順傳工 3-7-4集水桝工		第3編2-3-29側溝工 第3編2-3-30集水桝工	17
					18
		3-7-5暗渠工 3-7-6樋門接続暗渠工		第3編2-3-29暗渠工 第3編2-3-28プレキャストカル	18
		3-7-0 個門接続暗呆工		バートエ	17
第 8 節	付属物設置工	3-8-3防止柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
		3-8-7階段工		第3編2-3-22階段工	15
第4章	水門				
第3節	工場製作工	4-3-3桁製作工		第3編2-12-3桁製作工	92
		4-3-4鋼製伸縮継手製作工		第3編2-12-5鋼製伸縮継手製作工	97
		4-3-5落橋防止装置製作工		第3編2-12-6落橋防止装置製作工	97
		4-3-6鋼製排水管製作 工		第3編2-12-10鋼製排水管製作工	99
		4-3-7橋梁用防護柵製 作工		第3編2-12-7橋梁用防護柵製作工	97
		4-3-9仮設材製作工		第3編2-12-1仮設材製作工	91
		4-3-10工場塗装工		第3編2-12-11工場塗装工	99
第 5 節	軽量盛土工	4-5-2軽量盛土		第1編2-4-3路体盛土	6
第6節	水門本体工	4-6-4 既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		4-6-5場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		4-6-6矢板工(遮水矢		第 3 編2-3-4矢板工	
		板)			8

	桶 刊川桶』		11		
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第6節	水門本体工	4-6-7床版工			113
		4-6-8堰柱工			113
		4-6-9門柱工			113
		4-6-10ゲート操作台工			113
		4-6-11胸壁工			113
		4-6-12翼壁工		第6編3-5-7翼壁工	113
		4-6-13水叩工		第6編3-5-8水叩工	113
第7節	護床工	4-7-3根固めブロック 工		第3編2-3-17根固めブロックエ	14
		4-7-5沈床工		第3編2-3-18沈床工	14
		4-7-6 捨石工		第3編2-3-19捨石工	14
		4-7-7かごエ	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
			ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
第8節	付属物設置工	4-8-3防止柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
		4-8-8階段工		第3編2-3-22階段工	15
第9節	鋼管理橋上部 工	4-9-4架設工(クレーン 架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-9-5架設工(ケーブルクレーン架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-9-6架設工(ケーブルエレクション架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-9-7架設工(架設桁架 設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-9-8架設工(送出し架 設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-9-9架設工(トラベラ ークレーン架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-9-10支承工		第10編4-5-10支承工	146
第 10 節	橋梁現場塗装	4-10-2現場塗装工		第3編2-3-31現場塗装工	19
第11節	床版工	4-11-2床版工		第3編2-18-2床版工	109
第 12 節	橋梁付属物工	4-12-2伸縮装置工		第3編2-3-24伸縮装置工	15
	(鋼管理橋)	4-12-4地覆工		第10編4-8-5地覆工	147
		4-12-5橋梁用防護柵工		第10編4-8-6橋梁用防護柵工	147
		4-12-6橋梁用高欄工		第10編4-8-7橋梁用高欄工	147
		4-12-7検査路工		第10編4-8-8検査路工	148
第14節		4-14-2プレテンション 桁製作工(購入工)		第3編2-3-12プレテンション桁 製作工(購入工)	10
		4-14-3ポストテンション桁製作工		第3編2-3-13ポストテンション 桁製作工	11
		4-14-4プレキャストセ グメント製作工 (購入工)		第3編2-3-14プレキャストセグ メント製作工(購入工)	12
		4-14-5プレキャストセ グメント主桁組立工		第3編2-3-14プレキャストセグ メント主桁組立工	12
		4-14-6支承工		第10編4-5-10支承工	146
		4-14-7架設工(クレーン 架設)		第3編2-13架設工 (コンクリート橋)	101
		4-14-8架設工(架設桁架 設)		第3編2-13架設工 (コンクリート橋)	101
		4-14-9床版·横組工		第 3 編2-18-2床版工	109
		4-14-10落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
第15節	コンクリート管理橋上部工	4-15-3支承工		第10編4-5-10支承工	146
	官理備工部工 (PCホロース	4-15-4落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
	ラブ橋)	4-15-4 俗情的工表直工 4-15-5 P C ホロースラ		第3編2-3-15PCホロースラブ	
		ブ製作工		製作工	12

	W. E. J
章、節 条 枝番	
第16節 橋梁付属物工 4-16-2伸縮装置工	第 3 編2-3-24伸縮装置工 15
(コンクリート管 4-16-4地覆工	第10編4-8-5地覆工 147
理橋) 4-16-5橋梁用防護柵工	第10編4-8-6橋梁用防護柵工 147
4-16-6橋梁用高欄工	第10編4-8-7橋梁用高欄工 147
4-16-7検査路工	第10編4-8-8検査路工 148
第18節 舗装工 4-18-5アスファルト舗 装工	第3編2-6-7アスファルト舗装工 24
4-18-6半たわみ性舗装 エ	第3編2-6-8半たわみ性舗装工 36
4-18-7 排水性舗装工	第 3 編2-6-9排水性舗装工 44
4-18-8 透水性舗装工	第 3 編2-6-10透水性舗装工 51
4-18-9グースアスファ ルト舗装工	第3編2-6-11グースアスファル ト舗装工 55
4-18-10コンクリート舗 装工	第3編2-6-12コンクリート舗装工 59
4-18-11薄層カラー舗装 工	第 3 編2-6-13薄層カラー舗装工 77
4-18-12ブロック舗装工	第3編2-6-14ブロック舗装工 80
第5章 堰	
第3節 工場製作工 5-3-3刃口金物製作工	第3編2-12-1刃口金物製作工 91
5-3-4桁製作工	第 3 編2-12-3桁製作工 92
5-3-5検査路製作工	第 3 編2-12-4検査路製作工 97
5-3-6鋼製伸縮継手製 作工	第 3 編2-12-5鋼製伸縮継手製作 工 97
5-3-7落橋防止装置製 作工	第3編2-12-6落橋防止装置製作 工
5-3-8鋼製排水管製作 T.	第 3 編 2 - 12 - 10 鋼製排水管製作 T. 99
5-3-9プレビーム用桁 製作工	第 3 編2-12-9プレビーム用桁製 作工 98
5-3-10橋梁用防護柵製 作工	第 3 編2-12-7橋梁用防護柵製作 77
5-3-12アンカーフレー ム製作工	第3編2-12-8アンカーフレーム 製作工 98
5-3-13仮設材製作工	第 3 編2-12-1仮設材製作工 91
5-3-14工場塗装工	第 3 編2-12-11工場塗装工 99
第5節 軽量盛土工 5-5-2軽量盛土工	第 1 編2-4-3路体盛土工 6
第6節 可動堰本体工 5-6-3 既製杭工	第 3 編2-4-4 既製杭工 20
5-6-4場所打杭工	第 3 編2-4-5場所打杭工 20
5-6-5オープンケーソ ン基礎工	第3編2-4-7オープンケーソン基礎 工 21
5-6-6ニューマチック ケーソン基礎工	第3編2-4-8ニューマチックケーソ ン基礎工 21
5-6-7 矢板工	第3編2-3-4矢板工 8
5-6-8床版工	第6編4-6-7床版工 113
5-6-9堰柱工	第6編4-6-8堰柱工 113
5-6-10門柱工	第6編4-6-9門柱工 113
5-6-11ゲート操作台工	第6編4-6-10ゲート操作台工 113
5-6-12水叩工	第6編3-5-8水叩工 113
5-6-13閘門工	113
5-6-14 土砂 吐工	113
5-6-15取付擁壁工	第 3 編 2 - 15 - 1 場所打擁壁工 105
第7節 固定堰本体工 5-7-3 既製杭工	第 3 編 2 一 4 一 4 既製杭工 20
5-7-4場所打杭工	第 3 編 2 一 4 一 5 場所打杭工 20
5-7-5オープンケーソ	
ン基礎工	基礎工 21

【第6編 河川編】	,			
章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第7節 固定堰本体工	5-7-6ニューマチック ケーソン基礎工		第3編2-4-8ニューマチック ケーソン基礎工	21
	5-7-7矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
	5-7-8堰本体工			113
	5-7-9水叩工			113
	5-7-10土砂吐工			113
hh - hh - h - SM	5-7-11取付擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
第8節 魚道工	5-8-3魚道本体工			114
第9節 管理橋下部工 第10節 鋼管理橋上部工	5-9-2管理橋橋台工 5-10-4架設工(クレーン		 第 3 編2-13架設工(鋼橋)	114
第10則 瀬官理橋工部工	架設)			100
	5-10-5架設工(ケーブル クレーン架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
	5-10-6架設工 (ケーブル エレクション架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
	5-10-7架設工(架設桁架 設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
	5-10-8架設工(送出し架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
	5-10-9架設工(トラベラ ークレーン架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
	5-10-10支承工		第10編4-5-10支承工	146
第11節 橋梁現場塗装工	5-11-2現場塗装工		第3編2-3-31現場塗装工	19
第12節 床版工	5-12-2床版工		第3編2-18-2床版工	109
第13節 橋梁付属物工	5-13-2伸縮装置工		第3編2-3-24伸縮装置工	15
(鋼管理橋)	5-13-4地覆工		第10編4-8-5地覆工	147
	5-13-5橋梁用防護柵工		第10編4-8-6橋梁用防護柵工	147
	5-13-6橋梁用高欄工		第10編4-8-7橋梁用高欄工	147
	5-13-7検査路工		第10編4-8-8検査路工	148
第15節 コンクリート管 理橋上部工 (PC橋)	5 -15- 2 プレテンション 桁製作工(購入工)		第3編2-3-12プレテンション 桁製作工(購入工)	10
	5-15-3ポストテンション桁製作工		第3編2-3-13ポストテンション桁製作工	11
	5-15-4プレキャストセ グメント製作工(購入工)		第3編2-3-14プレキャストセ グメント製作工(購入工)	12
	5-15-5プレキャストセ グメント主桁組立工		第3編2-3-14プレキャストセ グメント主桁組立工	12
	5-15-6支承工		第10編4-5-10支承工	146
	5-15-7架設工 (クレーン 架設)		第3編2-13架設工(コンク リート橋)	101
	5-15-8架設工(架設桁架 設)		第3編2-13架設工 (コンク リート橋)	101
	5-15-9床版・横組工		第3編2-18-2床版工	109
	5-15-10落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
 第16節 コンクリート管 理橋上部工(PC橋ホロー	5-16-3支承工		第10編4-5-10支承工	146
スラブ橋)	5-16-4落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
	5-16-5 P C ホロースラ ブ製作工		第3編2-3-15PCホロースラ ブ製作工	12
第17節 コンクリート管	5-17-3支承工		第10編4-5-10支承工	146
理橋上部工(PC箱桁橋)	5-17-4 P C箱桁製作工		第3編2-3-16PC箱桁製作工	13
	5-17-5落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
第18 節橋梁付属物工(コ			第3編2-3-24伸縮装置工	15
ンクリート管理橋)	5-18-4地覆工		第10編4-8-5地覆工	147
	5-18-5橋梁用防護柵工		第10編4-8-6橋梁用防護柵工	147
	5-18-6橋梁用高欄工		第10編4-8-7橋梁用高欄工	147
	5-18-7検査路工		第10編4-8-8検査路工	148
	1			1-10

190	編刊川編』	Az	LLT	NATIONAL AND	T 1
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第20節	付属物設置工	5-20-3防止柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
		5-20-7階段工		第3編2-3-22階段工	15
第6章	排水機場				
第 3 節	軽量盛土工	6-3-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第 4 節	機場本体工	6-4-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		6-4-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		6-4-5矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
		6-4-6本体工			115
		6-4-7燃料貯油槽工			115
第5節	沈砂池工	6-5-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
210 - 24-	.,,,,,,	6-5-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		6-5-5矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
		6-5-6場所打擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		6-5-7コンクリート床版		对 5 的 13 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	103
		I			115
		6-5-8ブロック床版工		第3編2-3-17根固めブロック	14
		6-5-9場所打水路工		第3編2-3-29場所打水路工	
第6節	吐出水槽工	6-6-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		6-6-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		6-6-5矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
		6-6-6本体工		第6編6-4-6本体工	115
第7章	床止め・床固め				
第3節	軽量盛土工	7-3-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第4節	床止め工	7-4-4既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		7-4-5矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
		7-4-6本体工	床固め本体工		116
			植石張り	第3編2-5-5石積(張)工	23
			根固めブロック	第3編2-3-17根固めブロック	14
		7-4-7取付擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		7-4-8水叩工	水叩工		116
			巨石張り	第3編2-3-26多自然型護岸工	16
55 = 55	÷0.4 =		根固めブロック	第 3 編2 - 3 - 17根固めブロック	14
第5節	床固めエ	7-5-4本堤工		第 6 編7-4-6本体工	116
		7-5-5垂直壁工		第6編7-4-6本体工	116
		7-5-6側壁工		the section of the se	116
** - **		7-5-7水叩工		第6編7-4-8水叩工	116
第6節	山留擁壁工	7-6-3コンクリート 擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		7-6-4ブロック積		第3編2-5-3コンクリートブ	
		擁壁工		ロックエ	22
		7-6-5石積擁壁工		第3編2-5-5石積(張)工	23
		7-6-6山留擁壁基礎工		第3編2-4-3基礎工(護岸)	19
第8章	河川維持				
第7節	路面補修工	8-7-3不陸整正工		第1編2-3-6堤防天端工	4
		8-7-4コンクリート舗装		第3編2-6-12コンクリート舗	59
		補修工 8-7-5アスファルト舗装		装工 第3編2-6-7アスファルト舗	
		補修工		第3編2-6-77 ヘクテルド舗装工	24
第 8 節	付属物復旧工	8-8-2付属物復旧工		第3編2-3-8路側防護柵工	9
第9節	付属物設置工	8-9-3防護柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
		8-9-5付属物設置工		第3編2-3-10道路付属物工	
				TO TO THE TOTAL PARTY OF THE PA	10
第10節		8-10-3配管工		第6編1-13-3配管工	110
	エ	8-10-4ハンドホール工		第6編1-13-4ハンドホール工	111
第12節	植栽維持工	8-12-3樹木・芝生管理工		第3編2-14-2植生工	101

<u> </u>	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1				
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第9章	河川修繕				
第 3 節	軽量盛土工	9-3-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第 4 節	腹付工	9-4-2 覆土工		第1編2-3-5法面整形工	7
		9-4-3植生工		第3編2-14-2植生工	101
第 5 節	側帯工	9-5-2縁切工	じゃかご工	第3編2-3-27羽口工	16
			連節ブロック張り	第3編2-5-3コンクリートブ ロックエ(連結ブロック張り)	22
			コンクリートブロッ ク張り	第3編2-5-3コンクリートブ ロックエ	22
		9-5-2縁切工	石張工	第3編2-5-5石積(張)工	23
		9-5-3植生工		第3編2-14-2植生工	101
第 6 節	堤脚保護工	9-6-3石積工		第3編2-5-5石積(張)工	23
		9-6-4コンクリートブロックエ		第3編2-5-3コンクリートブ ロックエ	22
第 7 節	管理用通路工	9-7-2防護柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
		9-7-4路面切削工		第3編2-6-15路面切削工	82
		9-7-5舗装打換え工		第3編2-6-16舗装打換え工	82
		9-7-6オーバーレイエ		第3編2-6-17オーバーレイエ	82
		9-7-7排水構造物工	プレキャストU型側 溝・管(函)渠	第 3 編2-3-29側溝工	17
			集水桝工	第3編2-3-30集水桝工	18
		9-7-8道路付属物工	歩車道境界ブロック	第3編2-3-5縁石工	8
第 8 節	現場塗装工	9-8-3付属物塗装工		第3編2-3-31現場塗装工	19
		9-8-4コンクリート面塗 装工		第3編2-3-11コンクリート面 塗装工	10

^{※「}準用する出来形管理基準」は準用先を示す。空白部は「条」の欄に準用先を示す。

【第7編 河川海岸編】

	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第1章	堤防・護岸	八	- K-B	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	
第3節	<u> </u>	1-3-2軽量盛土工		第 1 編2-4-3路体盛土工	
第4節		1-4-2表層安定処理工		第3編2-7-4表層安定処理工	6 85
77 T I	地盖以及工	1-4-3パイルネットエ		第3編2 7 48/首女足及程工 第3編2-7-5パイルネットエ	85
		1-4-4バーチカルドレ		第3編2 7 3 5 7 7 7 7 7 1 上 第3編2 - 7 - 7 バーチカルドレー	
		ーンエ		以 工	86
		1-4-5締固め改良工		第3編2-7-8締固め改良工	86
		1-4-6 固結工		第3編2-7-9固結工	87
第 5 節	護岸基礎工	1-5-4 捨石工		第3編2-3-19捨石工	14
		1-5-5場所打コンクリー トエ			117
		1-5-6海岸コンクリート ブロックエ			117
		1-5-7笠コンクリート工		第3編2-4-3基礎工(護岸)	19
		1-5-8基礎工		第3編2-4-3基礎工(護岸)	19
		1-5-9矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
第6節	護岸工	1-6-3石積(張)工		第3編2-5-5石積(張)工	23
		1-6-4海岸コンクリート ブロックエ			117
		1-6-5コンクリート被覆 工			118
第7節	擁壁工	1-7-3場所打擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
第 8 節	天端被覆工	1-8-2コンクリート被覆 工			118
第9節	波返工	1-9-3波返工			118
第10節	裏法被覆工	1-10-2石積(張)工		第3編2-5-5石積(張)工	23
		1-10-3コンクリートブロックエ		第3編2-5-3コンクリートブ ロックエ	22
		1-10-4コンクリート被覆 工		第7編1-6-5コンクリート被 覆工	
		1-10-5法枠工		第3編2-14-4法枠工	104
第11節	カルバートエ	1−11−3プレキャストカル バートエ		第3編2-3-28プレキャストカルバートエ	17
第12節	排水構造物工	1-12-3側溝工		第 3 編2-3-29側溝工	17
		1-12-4集水桝工		第3編2-3-30集水桝工	18
		1-12-5管渠工	プレキャストパイプ	第3編2-3-29暗渠工	18
			プレキャストボック ス	第3編2-3-29暗渠工	18
			コルゲートパイプ	第 3 編2-3-29暗渠工	18
			タグタイル鋳鉄管	第3編2-3-29暗渠工	18
		1-12-6場所打水路工		第3編2-3-29場所打水路工	18
第13節	付属物設置工	1-13-3防止柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
		1-13-6階段工		第3編2-3-22階段工	15
第14節	付帯道路工	1-14-3路側防護柵工		第3編2-3-8路側防護柵工	9
		1-14-5アスファルト舗装 工		第3編2-6-7アスファルト舗装 工	24
		1-14-6コンクリート舗装 工		第3編2-6-12コンクリート舗装工	59
		1-14-7薄層カラー舗装工		第3編2-6-13薄層カラー舗装 工	77
		1-14-8側溝工		第3編2-3-29側溝工	17
		1-14-9集水桝工		第3編2-3-30集水桝工	18
		1-14-10縁石工		第3編2-3-5縁石工	8
		1-14-11区画線工		第3編2-3-9区画線工	10
第15節	付帯道路施設工	1-15-3道路付属物工		第3編2-3-10道路付属物工	10
		1-15-4小型標識工		第3編2-3-6小型標識工	8

【第7編 河川海岸編】

		fr.	11	Mr. Ed. D. and Mr. L. and Bath. and Adv. Not.	_
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第2章	突堤・人工岬				
第 3 節	軽量盛土工	2-3-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第 4 節	突堤基礎工	2-4-4捨石工			119
		2-4-5吸出し防止工			119
第 5 節	突堤本体工	2-5-2捨石工			119
		2-5-5海岸コンクリート ブロックエ			120
		2-5-6 既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
第5節	突堤本体工	2-5-7詰杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		2-5-8矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
		2-5-9石枠工			120
		2-5-10場所打コンクリー			120
		下工	hul II		
		2-5-11ケーソンエ	ケーソン工製作		121
			ケーソン工据付 突堤上部工		121
			矢堤上部工 (場所打コンクリー		
			F)		121
			(海岸コンクリート ブロック)		
		2-5-12セルラーエ	セルラー工製作		122
			セルラー工据付		122
			突堤上部工		122
			(場所打コンクリー		
			ト) (海岸コンクリート		
			ブロック)		
第6節	根固め工	2-6-2 捨石工			122
		2-6-3根固めブロック工			123
第7節	消波工	2-7-2捨石工		第3編2-3-19捨石工	14
		2-7-3消波ブロックエ			123
I		リーフ、離岸堤、潜堤)			
第3節	海域堤基礎工	3-3-3 捨石工			123
第4節	海提坦士伏士	3-3-4吸出し防止工		第7編2-4-5吸出し防止工 第3編2-3-19捨石工	119
赤 4 即	海域堤本体工	3-4-2捨石工 3-4-3海岸コンクリート		第 7 編2-5-5海岸コンクリー	14
		ブロック工		トブロック工	120
		3-4-4ケーソンエ		第7編2-5-11ケーソンエ	121
		3-4-5セルラーエ		第7編2-5-12セルラーエ	122
		3-4-6場所打コンクリー		第7編2-5-10場所打コンク	120
生 4 辛	海洲 (海県)	卜工		リートエ	
第4章 第3節	浚渫(海岸)	4-3-2浚渫船運転工		第 3 編2-16-3浚渫船運転工	
カス 即浚渫船)	皮(木工(ハノノ	4 3 4 依休加埋料上		カロ/柵4 10 3後休加)	108
第 4 節船)	浚渫工(グラブ	4-4-2浚渫船運転工		第3編2-16-3浚渫船運転工	108
第5章	養浜				
第 3 節	軽量盛土工	5-3-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第 4 節	砂止工	5-4-2根固めブロック工		第7編2-6-3根固めブロック	123
				<u>L</u>	

^{※「}準用する出来形管理基準」は準用先を示す。空白部は「条」の欄に準用先を示す。

【第8編 砂防編】

I NO	が用 45万万州		-		
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第1章	砂防堰堤				
第 3 節	工場製作工	1-3-3鋼製堰堤製作工		第3編2-12-3-3桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮組立時))	95
		1-3-4鋼製堰堤仮設材 製作工			124
		1-3-5工場塗装工		第3編2-12-11工場塗装工	99
第 5 節	軽量盛土工	1-5-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第6節	法面工	1-6-2植生工		第3編2-14-2植生工	101
		1-6-3法面吹付け工		第3編2-14-3吹付工	103
		1-6-4法枠工		第3編2-14-4法枠工	104
		1-6-6アンカー工		第3編2-14-6アンカーエ	105
		1-6-7かご工	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
			ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
第 8 節	コンクリート 堰堤エ	1-8-4コンクリート堰 堤本体工			124
		1-8-5コンクリート副 堰堤工		第8編1-8-4コンクリート堰 堤本体工	124
		1-8-6コンクリート側壁工			124
- · ·	ADI (-1)	1-8-8水叩工			125
第9節	鋼製堰堤工	1-9-5鋼製堰堤本体工	不透過型		125
		handled to the fi	透過型		126
		1-9-6鋼製側壁工		Mr. o. lo	128
		1-9-7コンクリート側 壁工		第8編1-8-6コンクリート側 壁工	124
		1-9-9水叩工		第8編1-8-8水叩工	125
		1-9-10現場塗装工		第3編2-3-31現場塗装工	19
第10節	護床工・根固 めエ	1-10-4根固めブロック 工		第 3 編2-3-17根固めブロック	14
		1-10-6 沈床工		第3編2-3-18沈床工	14
		1-10-7かごエ	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
75 1 1 55	N. K. IE II / I E K.	1 11 OP-1 m-	ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
第11節	設置工	1-11-3防止柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
第12節	付帯道路工	1-12-3路側防護柵工		第3編2-3-8路側防護柵工	9
		1-12-5アスファルト舗 装工		第3編2-6-7アスファルト舗装 工	24
		1-12-6コンクリート舗装工		第3編2-6-12コンクリート舗 装工	59
		1-12-7薄層カラー舗装工		第3編2-6-13薄層カラー舗装 工	77
		1-12-8側溝工		第3編2-3-29場所打水路工	18
		1-12-9集水桝工		第3編2-3-30集水桝工	18
		1-12-10縁石工		第3編2-3-5縁石工	8
77 10 mm	/_ +#+> /	1-12-11区画線工		第3編2-3-9区画線工	10
第13節	付帝追路施設工	1-13-3道路付属物工		第3編2-3-10道路付属物工	10
生の辛	本 敗	1-13-4小型標識工		第3編2-3-6小型標識工	8
第2章 第3節		2 _ 2 _ 2 赵县成上下		第 1 短 2 A 2 取 休 成 上 工	-
第4節	<u>軽量盛土工</u> 流路護岸工	2-3-2軽量盛土工 2-4-4基礎工(護岸)		第1編2-4-3路体盛土工 第3編2-4-3基礎工(護岸)	6 19
יש די תג	加 帕皮什 二	2-4-5コンクリート擁 壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		<u> </u>		第3編2-5-3コンクリートブロックエ	22
		<u>2-4-7石積擁壁工</u>		第3編2-5-5石積(張)工	23
		2-4-8護岸付属物工		第6編1-7-4護岸付属物工	110
		2-4-9植生工		第3編2-14-2植生工	101
第 5 節	床固め工	2-5-4床固め本体工		第8編1-8-4コンクリート堰堤 本体工	124
		•	-		

【第8編 砂防編】

	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第 5 節	床固め工	2-5-5垂直壁工		第8編1-8-4コンクリート堰堤 本体工	124
		2-5-6側壁工		第8編1-8-6コンクリート側壁 工	124
		2-5-7水叩工		第8編1-8-8水叩工	125
		2-5-8魚道工			128
第6節	根固め・水制工	2-6-4根固めブロック 工		第3編2-3-17根固めブロック	14
		2-6-6 捨石工		第3編2-3-19捨石工	14
		2-6-7かご工	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
			ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
// - //	ᅔᇟᄼᅼᄝᆇᇌᄝ	0 7 0 PH CD. T	かごマット	第3編2-3-26多自然型護岸工	16
第 7 節 工	流路付属物設直	2-7-2階段工		第 3 編 2 — 3 — 2 2 階段工	15
		2-7-3防止柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
-	斜面対策				
第 3 節	軽量盛土工	3-3-2軽量盛土工		第 1 編2-4-3路体盛土工	6
第 4 節	法面工	3-4-2植生工		第3編2-14-2植生工	101
		3-4-3吹付工		第3編2-14-3吹付工	103
		3-4-4法枠工		第3編2-14-4法枠工	104
		3-4-5かご工	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
			ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
		3-4-6アンカーエ(プ レキャストコンクリート板)		第3編2-14-6アンカー工	105
		3-4-7抑止アンカー工		第3編2-14-6アンカーエ	105
第 5 節	擁壁工	3-5-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		3-5-4場所打擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		3-5-5プレキャスト擁 壁工		第3編2-15-2プレキャスト擁 壁工	106
		3-5-6補強土壁工		第3編2-15-3補強土壁工	106
		3-5-7井桁ブロックエ		第3編2-15-4井桁ブロックエ	107
		3-5-8落石防護工		第10編1-11-5落石防護柵工	135
第6節	山腹水路工	3-6-3山腹集水路・排水路工		第3編2-3-29場所打水路工	18
		3-6-4山腹水路工			128
		3-6-5山腹暗渠工		第3編2-3-29暗渠工	18
		3-6-6現場打水路工		第3編2-3-29場所打水路工	18
		3-6-7集水桝工		第3編2-3-30集水桝工	18
第7節	地下水排除工	3-7-4集排水ボーリン グエ			129
		3-7-5集水井工			129
第8節	地下水遮断工	3-8-3場所打擁壁工	1	第3編2-15-1場所打擁壁工	105
	_ ,	3-8-4固結工		第3編2-7-9固結工	87
		3-8-5矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
第9節		3-9-3既製杭工		第 3 編 2 一 4 一 4 既製杭工	20
ום ט הגן	151-77-170-7-	3-9-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	
		3-9-5シャフトエ (深		第 3 編 2 一 4 一 6 深礎工	20
		礎工)		+	
		3-9-6合成杭工			129

^{※「}準用する出来形管理基準」は準用先を示す。空白部は「条」の欄に準用先を示す。

【第9編 ダム編】

	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
	コンクリートタ	Т Д			
第4節	ダムコンクリー トエ	1-4コンクリートダム工 (本体)			130
		1 — 4 コンクリートダム工 (水叩)			130
		1-4コンクリートダム工 (副ダム)			131
		1 – 4 コンクリーダム工 (導流壁)			132
第2章	フィルダム				
第 4 節	盛立工	2-4-5コアの盛立			133
		2-4-6フィルターの盛 立			133
		2-4-7ロックの盛立			133
		2フィルダム (洪水吐)			134
第3章	基礎グラウチン	グ			
第 3 節	ボーリングエ	3-3ボーリング工	_		134

^{※「}準用する出来形管理基準」は準用先を示す。空白部は「条」の欄に準用先を示す。

【弗10	編 道路編】				
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
	道路改良				
第3節	工場製作工	1-3-2遮音壁支柱製作	遮音壁支柱製作工		135
		工	工場塗装工	第3編2-12-11工場塗装工	99
第 4 節	地盤改良工	1-4-2路床安定処理工		第3編2-7-2路床安定処理工	84
		1-4-3置換工		第3編2-7-3置換工	84
		1-4-4サンドマット工		第3編2-7-6サンドマット工	86
		1-4-5バーチカルドレ		第3編2-7-7バーチカルドレーン	86
		ーンエ		工 数 2	
		1-4-6締固め改良工		第3編2-7-8締固め改良工	86
		1-4-7固結工		第3編2-7-9固結工	87
第5節	法面工	1-5-2植生工		第3編2-14-2植生工	101
		1-5-3法面吹付工		第3編2-14-3吹付工	103
		1-5-4法枠工		第3編2-14-4法枠工	104
		1-5-6アンカーエ		第3編2-14-6アンカー工	105
		1-5-7かごエ	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
			ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
第6節	軽量盛土工	1-6-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第7節	擁壁工	1-7-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		1-7-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		1-7-5場所打擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		1-7-6プレキャスト擁		第3編2-15-2プレキャスト擁	106
		壁工	1470 1 /2	壁工	
		1-7-7補強土壁工	補強土(テールアル メ)壁工法	第 3 編2-15-3補強土壁工	106
			多数アンカー式補強 土工法	第 3 編2-15-3補強土壁工	106
			ジオテキスタイルを 用いた補強土工法	第 3 編2-15-3補強土壁工	106
		1-7-8井桁ブロックエ		第3編2-15-4井桁ブロックエ	107
第 8 節	石・ブロック積 (張)エ	1-8-3コンクリートブ ロック工		第3編2-5-3コンクリートブ ロックエ	22
		1-8-4石積(張)工		第3編2-5-5石積(張)工	23
第9節	カルバートエ	1-9-4既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		1-9-5場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		1-9-6場所打函渠工			135
		1-9-7プレキャストカ ルバートエ		第3編2-3-28プレキャストカ ルバートエ	17
第10節	排水構造物工	1-10-3側溝工		第 3 編2-3-29 側溝工	17
	(小型水路工)	1-10-4管渠工		第 3 編 2 一 3 一 2 9 側 溝 工	17
		1-10-5集水桝・マン		第3編2-3-30集水桝工	
		ホールエ		510 - Anno-	18
		1-10-6地下排水工		第3編2-3-29暗渠工	18
		1-10-7場所打水路工		第3編2-3-29場所打水路工	18
		1-10-8排水工(小段排水・縦排水)		第 3 編2-3-29側溝工	17
第 11 節	落石雪害防止	1-11-4落石防止網工			135
エ		1-11-5落石防護柵工			135
		1-11-6 防雪柵工			135
		1-11-7雪崩予防柵工			136
第12節	遮音壁工	1-12-4遮音壁基礎工			136
	- <u>-</u>	1-12-5遮音壁本体工			136
第2章	舗装				
第3節	地盤改良工	2-3-2路床安定処理工		第3編2-7-2路床安定処理工	84
21 MI		2-3-3置換工		第3編2-7-3置換工	84
			1		_ ~ '

# 4 節 舗装工		編 道路編】		1		
接工 2-4-6半たわみ性舗装工 第3編2-6-8半たわみ性舗装工 2-4-8 赤水性細装工 第3編2-6-105水性舗装工 5.1 第3編2-6-105水性舗装工 5.1 第3編2-6-105水性舗装工 5.1 第3編2-6-11グースアスファルト舗装工 2-4-9 グースアスファルト舗装工 第3編2-6-12 ジクリート舗装工 2-4-11 ブ層カラー舗装 第3編2-6-12 ジクリート舗装工 2-4 平方 直接					準用する出来形管理基準	頁
接上	第4節	舗装工			第3編2-6-7アスファルト舗装工	24
□ 1					ダッ河2 く 0米ような歴史士	
2 - 4 - 7 歩水性競技工 第 3 編2 - 6 - 9 場 水 性 検 大					第 3 編2-0-8十にわみ性舗装工	36
2-4-8 透水性維軟工 2-4-9 ダースアスファ ルト舗装工 2-4-10コンクリート舗 工 2-4-10コンクリート舗 2-4-12プロック舗装工 2-4-12プロック 2-5-3-12 Miller 2-5-5-12 Miller 2-5-5-12 Miller 2-5-5-12 Miller 2-5-5-12 Miller 2-5-5-12 Miller 2-5-5-12 Miller 2-5-5-12 Miller 2-5-5-12 Miller 2-5-12 Miller 3-3 Miller 3-					第3編2-6-9排水性舗装工	44
ルト編装工 2-4-10コンクリート舗装売工 5 2-4-10コンクリート舗装工 第3編2-6-12コンクリート舗装工 5 2-4-11運層カラー舗装工 第3編2-6-13薄間カラー舗装工 7 2-4 地方需要工 13 2-4 地方舗装工 13 2-4 表層工 13 2-4 表層工 13 2-5 - 3 棚舗工 第3編2-3-29側溝工 17 2-5 - 5 無水性(前袋科) 第3編2-3-29側溝工 17 2-5 - 6 排水性流 第3編2-3-29側溝工 18 第 6 節 総石工 2-5 - 9 排水性結製用器 第3編2-3-29側溝工 18 第 7 節 踏橋版工 2-6 - 3縁石工 9 第 7 節 踏橋版工 2-7-4 韓掛勝区 2-7-4 韓掛所 9 第 7 節 翻橋 2-7-4 韓掛勝区 9 第 8 節 防護棚工 2-8 - 6 正 正 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上						51
下・施技工			-			55
接工						33
2 - 4 - 11 7 7 2 4 4 1 7 7 7 2 4 4 1 7 7 7 7 7 7 7 7 7					第 3 編2-6-12コンクリート舗装	59
第 6 節 縁石工 2 - 4 - 12 プロック編装工 第 3 編2 - 6 - 14 プロック編装工 13 2 - 4 歩道路盤工 13 13 2 - 4 歩道路盤工 13 2 - 4 歩道路盤工 13 2 - 4 歩道論發工 13 2 - 4 歩道論發工 13 2 - 4 表層工 13 2 - 4 表層工 13 2 - 5 - 4 養殖工 第 3 編2 - 3 - 29 順清工 17 2 - 5 - 5 集水構(街梁牌) 第 3 編2 - 3 - 29 順清工 17 2 - 5 - 6 地下排水工 第 3 編2 - 3 - 29 順清工 17 2 - 5 - 8 排水工 (小段排 第 3 編2 - 3 - 29 順清工 17 2 - 5 - 9 排水性補接用路					- 	
第 5 節 様本構造物工 2 - 4 歩道路線工 13 2 - 4 歩道舗装工 13 2 - 4 歩層形式 13 2 - 4 歩層工 第3編2-3-29個港工 15 2 - 5 - 4 管理工 第3編2-3-29個港工 17 2 - 5 - 4 管理工 第3編2-3-29個港工 17 2 - 5 - 4 管理工 第3編2-3-29個港工 17 2 - 5 - 4 管理工 第3編2-3-29個港工 18 2 - 5 - 7 場所打水路工 第3編2-3-29個港工 18 2 - 5 - 7 場所打水路工 第3編2-3-29個港工 17 2 - 5 - 9 排水性舗装用路 第3編2-3-29個港工 17 2 - 5 - 9 排水性舗装用路 第3編2-3-29個港工 17 2 - 5 - 9 排水性舗装用路 第3編2-3-5縁石工 8 第 6 節 縁相工 2 - 6 - 3 縁石工 第3編2-3-5縁石工 8 第 7 節 踏掛版工 2 - 7 - 4 陸掛版 第3編2-3-5縁右工 9 第 8 節 防護棚工 2 - 8 - 4 時止棚工 第3編2-3-7防止棚工 9 第 9 節 標識工 2 - 8 - 4 時止棚工 第3編2-3-7防止棚工 9 第 9 節 標識工 2 - 9 - 3 小型標識工 第3編2-3 - 9 医順設工 8 第 10 節 区庫 第3編2-3 - 9 区 順級工), o , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	77
2 - 4 取合舗装路盤工					第3編2-6-14ブロック舗装工	80
2 - 4 8 肩舗装路盤工 13 13 2 - 4 歩道舗装工 13 2 - 4 を通舗装工 13 2 - 4 を属工 13 2 - 4 表層工 13 3 3 3 3 3 3 3 3			2-4歩道路盤工			137
2 - 4 歩道舗装工 13 13 13 13 13 13 13 1						137
2 - 4 取合舗装工 13 13 13 13 13 13 13 1			· ·			137
第 5 節 排水構造物工 (路面排水工) 2 - 4 表層工 第 3 編2 - 3 - 29 側溝工 17 2 - 5 - 5 集 太桝 (街渠桝) 第 3 編2 - 3 - 29 側溝工 17 2 - 5 - 5 集 太桝 (街渠桝) 第 3 編2 - 3 - 29 側溝工 17 2 - 5 - 5 集 太桝 (街渠桝) 第 3 編2 - 3 - 29 幔栗工 18 2 - 5 - 6 地下排水工 2 - 5 - 6 地下排水工 2 - 5 - 7 場所打水路工 第 3 編2 - 3 - 29 幔栗工 18 2 - 5 - 7 場所打水路工 2 - 5 - 8 排水工 (小段排水、縦排水) 2 - 5 - 9 排水性舗装用路 第 3 編2 - 3 - 29 侧溝工 17 2 - 5 - 9 排水性舗装用路 第 3 編2 - 3 - 29 侧溝工 17 3 第 2 - 3 - 2 対 時間 2 - 2 - 4 時間 版工 2 - 7 - 4 時間 版工 2 - 7 - 4 時間 版工 2 - 7 - 4 時間 版工 2 - 8 - 3 路側防護柵工 2 - 8 - 4 防止槽工 2 - 8 - 3 路側防護柵工 9 - 7 ンカーボルト 13 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 ンカーボルト 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 シカーボルト 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 シカーボルト 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 シカーボルト 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 シカーボルト 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 シカーボルト 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 シカーボルト 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 シカーボルト 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 - 7 シカーボルト 13 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 13 第 12 節 12 節 12 節 13 節 橋梁竹属物工 2 - 10 - 2 区画線工 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 16 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 17 17 17 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18						137
第 5 節 排水構造物工						137
第 5 節 (路面排水工)						137
(路面排水工)			2-4表層工			137
2 - 5 - 5 集水桝 (街栗桝)						17
マンホール工 2 - 5 - 6 地下排水工 第 3 編2 - 3 - 29暗楽工 15 15 15 15 16 15 16 16		(路田排水工)				17
2 - 5 - 6 地下排水工					第 3 編2-3-30集水桝上	18
2 - 5 - 7 場所打水路工 第 3編2 - 3 - 29場所打水路工 18 2 - 5 - 8 排水工 (小段排水・総排水) 2 - 5 - 9 排水性舗装用路 17 18 18 18 18 18 18 18					第3編2-3-29暗 港丁	18
第 6 節 縁石工 2 - 5 - 9 排水性舗装用路						18
第 6 節 縁石工 2 - 6 - 3 縁石工 第 3 編2 - 3 - 5 縁石工 8 第 7 節 踏掛版工 2 - 7 - 4 踏掛版工 3						17
第6節 縁石工 2-6-3縁石工 第3編2-3-5縁石工 8 第7節 踏掛版工 2-7-4踏掛版工 コンクリート工 第3編2-3-5縁石工 8 第8節 防護柵工 2-8-3路側防護柵工 第3編2-3-8路側防護柵工 9 2-8-4防止柵工 第3編2-3-7防止柵工 9 第9節 標識工 2-8-6車止めポスト工 第3編2-3-7防止柵工 9 第9節 標識工 2-9-3小型標識工 第3編2-3-6小型標識工 9 第10節 区画線工 2-10-2区画線工 標識柱工 第3編2-3-6小型標識工 13 第12節 道路付属施設工 2-12-4 道路付属物工 第3編2-3-9区画線工 10 第13節 橋梁付属物工 2-12-6 照明工 照明柱基礎工 第3編2-3-10道路付属物工 10 第3節 本標準下部 第3篇2-3-24伸縮装置工 第3編2-3-24伸縮装置工 13 第3節 工場製作工 3-3-2月口金物製作工 第3編2-12-17月口金物製作工 9 第3節 工場製作工 3-3-2月口金物製作工 第3編2-12-18アンカーフレーム製作工 9 第3 編2-12-18アンカーフレーム製作工 第3編2-12-18アンカーフレーム製作工 9 第3編2-12-18アンカーフレーム製作工 第3編2-12-18アンカーフレーム製作工 9						1 /
第 6 節 縁石工 2-6-3縁石工 第 3編2-3-5縁石工 8 第 7 節 踏掛版工 2-7-4階掛版工 コンクリート工 ラバーシュー アンカーボルト 13 第 8 節 防護柵工 2-8-3路側防護柵工 2-8-4防止柵工 2-8-5ボックスピーム 工 2-8-6車止めポスト工 第 3編2-3-8路側防護柵工 9 9 第 9 節 標識工 2-9-3小型標識工 2-9-4大型標識工 2-9-4大型標識工 第 3編2-3-7防止柵工 第 3編2-3-7防止柵工 標識柱工 9 第 10節 区画線工 2-10-2区画線工 2-12-4道路付属物工 2-12-4道路付属物工 2-12-4道路付属物工 2-12-6照明工 第 3編2-3-9区画線工 標識柱工 13 第 13節 橋梁付属物工 3-3-3 3 御製作工 2-13-2伸縮装置工 3-3-3 3 御製橋脚製作工 3-3-3 3 御製橋脚製作工 3-3-4 7ンカーフレー ム製作工 第 3編2-12-17口口金物製作工 9 14 第 3 編2-12-17口 日金物製作工 3-3-4 7ンカーフレー ム製作工 第 3 編2-12-18アンカーフレー ム製作工 9						138
第 7 節 踏掛版工 2 - 7 - 4 踏掛版工 コンクリート工 ラバーシューアンカーボルト 13 第 8 節 防護柵工 2 - 8 - 3 路側防護柵工	第6節				第3編2-3-5緑石工	Q
第 8 節 防護柵工 2 - 8 - 3 路側防護柵工 第 3 編2 - 3 - 8路側防護柵工 9 3 編2 - 3 - 8路側防護柵工 9 3 編2 - 3 - 8路側防護柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7防止柵工 9 8 3 編2 - 3 - 7防止柵工 9 8 3 編2 - 3 - 7防止柵工 9 8 3 編2 - 3 - 7防止柵工 13 3 編2 - 3 - 7防止柵工 13 3 編2 - 3 - 10 が ឝ 2 - 10 - 10 が ឝ 2 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12				コンクリートT	另 3 M 和 工	138
第 8 節 防護柵工 2 - 8 - 3 路側防護柵工 第 3 編2 - 3 - 8 路側防護柵工 9 3 編2 - 3 - 8 路側防護柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 3 編2 - 3 - 9 区 画線工 13 第 3 編2 - 3 - 9 区 画線工 13 第 3 編2 - 3 - 9 区 画線工 14 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 16 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 16 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 17 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 17 第 3 編2 - 3 - 2 4 伸縮装置工 18 第 3 編2 - 3 - 2 4 伸縮装置工 18 第 3 編2 - 3 - 2 4 伸縮装置工 18 第 3 編2 - 3 - 2 4 伸縮装置工 18 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 物製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 子 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3 編2 - 12 - 1 月 1 全 か製作工 19 第 3	71, 71,					138
第 8 節 防護柵工 2 - 8 - 3 路側防護柵工 第 3 編2 - 3 - 8 路側防護柵工 9 2 - 8 - 4 防止柵工 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 9 節 標識工 2 - 8 - 6 車止めポスト工 第 3 編2 - 3 - 7 防止柵工 9 第 9 節 標識工 2 - 9 - 3 小型標識工 第 3 編2 - 3 - 6 小型標識工 8 2 - 9 - 4 大型標識工 標識基礎工 13 第 10 節 区画線工 2 - 10 - 2 区画線工 第 3 編2 - 3 - 9 区画線工 10 第 12 節 道路付属施設工 2 - 12 - 4 道路付属物工 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 10 第 13 節 橋梁付属物工 2 - 12 - 6 照明工 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 13 第 3 節 工場製作工 3 - 3 - 2 刃口金物製作工 第 3 編2 - 3 - 24伸縮装置工 15 第 3 節 工場製作工 第 3 編2 - 12 - 17 月口金物製作工 9 3 - 3 - 3 銅製橋脚製作工 第 3 編2 - 12 - 17 月口金物製作工 9 3 - 3 - 4 アンカーフレーム製作工 第 3 編2 - 12 - 17 月口金物製作工 9 3 - 3 - 4 アンカーフレーム製作工 第 3 編2 - 12 - 17 月 日本地学社工 9						138
第 3 編2 - 3 - 7防止柵工 第 3 編2 - 3 - 7防止柵工 9 第 9 節 標識工 第 3 編2 - 3 - 7防止柵工 9 第 9 節 標識工 2 - 9 - 3 小型標識工 第 3 編2 - 3 - 6 小型標識工 8 第 10 節 区画線工 2 - 9 - 4 大型標識工 標識基礎工 13 第 12 節 道路付属施設工 2 - 10 - 2 区画線工 第 3 編2 - 3 - 9 区画線工 10 第 12 節 道路付属施設工 2 - 12 - 4 道路付属物工 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 10 2 - 12 - 5 ケーブル配管工 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 13 第 13 節 橋梁付属物工 2 - 13 - 2 伸縮装置工 第 3 編2 - 3 - 24 伸縮装置工 13 第 3 節 工場製作工 3 - 3 - 2 刃口金物製作工 第 3 編2 - 12 - 1 刃口金物製作工 91 第 3 編2 - 12 - 1 刃口金物製作工 3 - 3 - 3 鋼製橋脚製作工 第 3 編2 - 12 - 1 刃口金物製作工 94 3 - 3 - 4 アンカーフレーム製作工 第 3 編2 - 12 - 1 刃口金物製作工 98	笙 8 笛		2-8-3路側防護柵丁	7 7 7 1 1 1	第3編2-3-8路側防護柵丁	9
第 9 節 標識工 第 3 編2 - 3 - 8路側防護柵工 9 第 9 節 標識工 第 3 編2 - 3 - 7防止柵工 9 第 9 節 標識工 第 3 編2 - 3 - 6小型標識工 8 2 - 9 - 4 大型標識工 標識基礎工 13 第 10 節 区画線工 2 - 10 - 2 区画線工 第 3 編2 - 3 - 9 区画線工 16 第 12 節 道路付属施設工 第 3 編2 - 3 - 9 区画線工 16 第 12 節 道路付属施設工 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 16 第 13 節 橋梁付属物工 2 - 12 - 4 道路付属物工 第 3 編2 - 3 - 10 道路付属物工 13 第 13 節 橋梁付属物工 2 - 13 - 2 伸縮装置工 第 3 編2 - 3 - 2 4 伸縮装置工 13 第 3 章 橋梁下部 第 3 編2 - 3 - 2 4 伸縮装置工 15 第 3 篇2 - 12 - 1 为口金物製作工 3 - 3 - 3 銅製橋脚製作工 14 3 - 3 - 3 銅製橋脚製作工 3 - 3 - 4 アンカーフレーム製作工 5 3 編2 - 12 - 17 - 17 口金物製作工 98 3 - 3 - 4 アンカーフレーム製作工 3 - 3 - 5 下間涂井工 第 3 編2 - 12 - 17 - 17 口金物製作工 98	λι Ο τ _Ι ,					9
第9節 標識工 第3編2-3-7防止柵工 9 第9節 標識工 2-9-3小型標識工 第3編2-3-6小型標識工 8 第10節 区画線工 2-10-2区画線工 標識柱工 第3編2-3-9区画線工 13 第12節 道路付属施設工 2-12-4道路付属物工 第3編2-3-10道路付属物工 16 2-12-5ケーブル配管工 13 ハンドホール 13 第13節 橋梁付属物工 2-13-2伸縮装置工 第3編2-3-24伸縮装置工 13 第3章 橋梁下部 第3編2-3-24伸縮装置工 第3編2-12-17月口金物製作工 14 3-3-33鋼製橋脚製作工 第3編2-12-17月口金物製作工 9 第3編2-12-17月口金物製作工 9 14 3-3-4アンカーフレーム製作工 第3編2-12-18アンカーフレーム製作工 9					http://www.	0
第 9 節 標識工 2-9-3小型標識工 第 3編2-3-6小型標識工 8 第 10節 区画線工 2-10-2区画線工 第 3編2-3-9区画線工 13 第 12節 道路付属施設工 2-12-4道路付属物工 第 3編2-3-10道路付属物工 10 2-12-5ケーブル配管工 13 次ンドホール 13 第 13節 橋梁付属物工 2-13-2伸縮装置工 第 3編2-3-24伸縮装置工 13 第 3 章 橋梁下部 第 3 編2-3-24伸縮装置工 15 第 3 節 工場製作工 第 3 編2-12-17月口金物製作工 9 3 - 3 - 3 到製橋脚製作工 第 3 編2-12-17月口金物製作工 9 第 3 編2-12-8アンカーフレーム製作工 4 製作工 2 2 5 下間会体工 9					Maria de la compania	
第10節 区画線工 2-10-2 区画線工 第3編2-3-9区画線工 13 第12節 道路付属施設工 第3編2-3-9区画線工 10 第12節 道路付属施設工 第3編2-3-10道路付属物工 10 2-12-5 ケーブル配管工 13 次ンドホール 13 第13節 橋梁付属物工 2-12-6 照明工 照明柱基礎工 13 第3章 橋梁下部 第3編2-3-24伸縮装置工 第3編2-3-24伸縮装置工 15 第3節 工場製作工 第3編2-12-17月口金物製作工 91 3-3-3 鋼製橋脚製作工 第3編2-12-17月口金物製作工 94 3-3-4アンカーフレーム製作工 49 49 2-12-8アンカーフレーム製作工 49 3-3-4アンカーフレーム製作工 49 49 3-3-4アンカーフレームリードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードリンドボールードルードルードルードルードルードルードルードルードルードルードルードルード	** 0 **	+m=₩ 	, , , , , ,			
第10節 区画線工 2-10-2区画線工 第3編2-3-9区画線工 10 第12節 道路付属施設工 2-12-4道路付属物工 第3編2-3-10道路付属物工 10 2-12-5ケーブル配管工 13 次ンドホール 13 第13節 橋梁付属物工 2-13-2伸縮装置工 第3編2-3-24伸縮装置工 第3章 橋梁下部 第3編2-3-24伸縮装置工 15 第3節 工場製作工 3-3-2刃口金物製作工 第3編2-12-1刃口金物製作工 91 第3編2-12-1刃口金物製作工 3-3-4アンカーフレーム製作工 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 98	弗 9 即	惊 戚上		西	· 另 稿2─3─6/小空	
第10節 区画線工 2-10-2区画線工 第3編2-3-9区画線工 10 第12節 道路付属施設工 2-12-4道路付属物工 第3編2-3-10道路付属物工 10 2-12-5ケーブル配管工 13 次ンドホール 13 第13節 橋梁付属物工 2-13-2伸縮装置工 第3編2-3-24伸縮装置工 15 第3章 橋梁下部 第3編2-12-17月口金物製作工 91 第3節 工場製作工 第3編2-12-17月口金物製作工 91 第3編2-12-17月口金物製作工 3-3-4アンカーフレーム製作工 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 98			2 3 4八至宗畹工			
第12節 道路付属施設工 2-12-4道路付属物工 第3編2-3-10道路付属物工 10 2-12-5ケーブル配管工 13 次ンドホール 13 第13節 橋梁付属物工 2-13-2伸縮装置工 第3編2-3-24伸縮装置工 第3章 橋梁下部 第3編2-3-24伸縮装置工 15 第3節 工場製作工 3-3-2刃口金物製作工 第3編2-12-1刃口金物製作工 91 3-3-3 3鋼製橋脚製作工 第3編2-12-1刃口金物製作工 98 3-3-4アンカーフレーム製作工 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 2 3-3-5 工場発生工 第3編2-12-13-14工場発生工 98	第10節	反面線工	2-10-2 区面線工	小不明江上	第3編2-3-0区画線工	
2-12-5ケーブル配管工 13 ハンドホール 13 第13節 橋梁付属物工 2-13-2伸縮装置工 第3編2-3-24伸縮装置工 15 第3章 橋梁下部 第3編2-12-1刃口金物製作工 第3編2-12-1刃口金物製作工 91 第3編2-12-1刃口金物製作工 14 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 98 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 2-3-5 工場会株工 第3編2-12-12-17月2-17月2-17月2-17月2-17月2-17月2-17			1 1 1 1 1			10
フンドホール 13 2 - 12 - 6 照明工 照明柱基礎工 13 第13節 橋梁付属物工 2 - 13 - 2 伸縮装置工 第3編2 - 3 - 24伸縮装置工 15 第3章 橋梁下部 第3編2 - 12 - 1 刃口金物製作工 3 - 3 - 2 刃口金物製作工 第3編2 - 12 - 1 刃口金物製作工 14 3 - 3 - 4 アンカーフレー ム製作工 第3編2 - 12 - 8アンカーフレー ム製作工 98 98 98 98 98 98 98 9	-1				21. Trime - AVAMENTA //2017/	139
第13節 橋梁付属物工 第3年 2-13-2 申縮装置工 第3編2-3-24申縮装置工 13 第3章 橋梁下部 第3編2-12-17月日金物製作工 第3編2-12-17月日金物製作工 91 第3第2-12-17月日金物製作工 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 98 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 98				ハンドホール		139
第13節 橋梁付属物工 2-13-2伸縮装置工 第3編2-3-24伸縮装置工 15 第3章 橋梁下部 第3編2-12-17月日金物製作工 91 第3節 工場製作工 3-3-2月日金物製作工 第3編2-12-17月日金物製作工 91 3-3-3 新製作工 第3編2-12-17月日金物製作工 98 第3編2-12-17月日金物製作工 第3編2-12-17月日金物製作工 98 第3編2-12-17月日金物製作工 98 第3編2-12-17月日金物製作工 98			2-12-6 照明工	照明柱基礎工		139
第3章 橋梁下部 3-3-2刃口金物製作工 第3編2-12-1刃口金物製作工 91 第3節 工場製作工 3-3-3 鋼製橋脚製作工 14 3-3-4アンカーフレーム製作工 第3編2-12-8アンカーフレーム製作工 98	第13節	橋梁付属物工			第3編2-3-24伸縮装置工	15
3-3-3鋼製橋脚製作工 14 3-3-4アンカーフレー ム製作工 第3編2-12-8アンカーフレー ム製作工 3-3-5 工程冷珠工 第3編2-12-8アンカーフレー ム製作工						
3-3-4アンカーフレー ム製作工 第3編2-12-8アンカーフレー ム製作工 98	第 3 節	工場製作工	3-3-2刃口金物製作工		第3編2-12-1刃口金物製作工	91
ム製作工			3-3-3鋼製橋脚製作工			140
ク表 トエ						00
3-3-5工場塗装工 第3編2-12-11工場塗装工 99					* ***	78
			3-3-5工場塗装工		第3編2-12-11工場塗装工	99
第 5 節 軽量盛土工 3-5-2軽量盛土工 第 1 編2-4-3路体盛土工 6	第5節	軽量盛十工	3-5-2軽量盛十工		第1編2-4-3路体盛十工	6

_	温 追路編】	h-	LL: 	With III 3. or 111-1- and below and the Sale.	
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第6節	橋台工	3-6-3 既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		3-6-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		3-6-5深礎工		第 3 編 2 - 4 - 6 深礎工	21
		3-6-6オープンケーソ		第3編2-4-7オープンケーソ	21
		ン基礎工 3-6-7ニューマチック		ン基礎工	
		3-6-7ニューマナック ケーソン基礎工		第3編2-4-8ニューマッチク ケーソン基礎工	21
		3-6-8橋台躯体工		グークン室候工	141
なった	 RC橋脚工	3-7-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	
第7節	Rし信脚工	3-7-3		第3編2-4-4玩聚机工 第3編2-4-5場所打杭工	20
		3-7-5深礎工		第 3 編 2 - 4 - 6 深礎工	20
第 7 節	RC橋脚工	3-7-6 オープンケーソ		第3編2-4-7オープンケーソ	21
יום י נא		ン基礎工			21
		3-7-7ニューマチック		第3編2-4-8ニューマッチク	
		ケーソン基礎工		ケーソン基礎工	21
		3-7-8鋼管矢板基礎工		第3編2-4-9鋼管矢板基礎工	22
		3-7-9橋脚躯体工	張出式		142
			重力式		142
			半重力式		142
			ラーメン式		143
第8節	鋼製橋脚工	3-8-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
		3-8-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		3-8-5深礎工		第3編2-4-6深礎工	21
		3-8-6オープンケーソ		第3編2-4-7オープンケーソ	2.1
		ン基礎工		ン基礎工	21
		3-8-7ニューマチック		第3編2-4-8ニューマッチク	21
		ケーソン基礎工		ケーソン基礎工	
		3-8-8鋼管矢板基礎工	T Till on Till	第3編2-4-9鋼管矢板基礎工	22
		3-8-9橋脚フーチング 工			144
			門型		144
		3-8-10橋脚架設工	I型・T型		144
			門型		145
		3-8-11現場継手工			145
		3-8-12現場塗装工		第3編2-3-31現場塗装工	19
第9節	護岸基礎工	3-9-3基礎工		第3編2-4-3基礎工(護岸)	19
		3-9-4矢板工		第3編2-3-4矢板工	8
第10節	矢板護岸工	3-10-3 笠コンクリート		第3編2-4-3基礎工(護岸)	19
		I		Ma - /	
hh 11 hh	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	3-10-4矢板工		第 3 編2 - 3 - 4 矢板工	8
第11節	法覆護岸工	3-11-2コンクリートブ		第3編2-5-3コンクリートブ	22
		ロック工 3-11-3護岸付属物工		ロック工 第6編1-7-4護岸付属物工	
		3-11-3 暖岸 () 高初工 3-11-4 緑化ブロックエ			110
				第3編2-5-4緑化ブロックエ	23
		3-11-5環境護岸ブロックエ		第3編2-5-3コンクリートブロックエ	22
第11節	法覆護岸工	3-11-6石積(張)工		第3編2-5-5石積(張)工	23
유 I I 및I	本 復設 干 工	3-11-7法枠工		第3編2-14-4法枠工	104
		3-11-8多自然型護岸工	巨石張り	第3編2-3-26多自然型護岸工	16
		3-11-8多自然型護岸工		第3編2-3-26多自然型護岸工	16
			かごマット	第3編2-3-26多自然型護岸工	16
		3-11-9吹付工	, = , ,	第 3 編2-14-3吹付工	103
		3-11-10植生工		第3編2-14-2植生工	101
		3-11-11覆土工		第1編2-3-5法面整形工	7
		3-11-12羽口工	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
			ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
			かご枠	第3編2-3-27羽口工	17
			連節ブロック張り	第3編2-5-3-2コンクリートブ	22
i				ロック工(連節ブロック張り)	22

【第10	編 道路編】				
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第12節	擁壁護岸工	3-12-3場所打擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		3-12-4プレキャスト擁		第3編2-15-2プレキャスト擁	106
第4章	 鋼橋上部	壁工		壁工	+
第3節	工場製作工	4-3-3桁製作工		第 3 編 2 -12-3桁製作工	92
), J	- 22211 -	4-3-4検査路製作工		第3編2-12-4検査路製作工	97
		- NET HALL LA LANGE - HALL		fate o to a second of the last	
		4-3-5鋼製伸縮継手製作工		第3編2-12-5鋼製伸縮継手製作工	97
		4-3-6落橋防止装置製		第3編2-12-6落橋防止装置製	97
		作工 4-3-7鋼製排水管製作		作工 第3編2−12−10鋼製排水管製作	
		工		工	99
		4-3-8橋梁用防護柵製作工		第3編2-12-7橋梁用防護柵製作工	97
		4-3-9橋梁用高欄製作工			145
		4-3-10横断歩道橋製作 エ		第3編2-12-3桁製作工	92
		工 4-3-12アンカーフレー		第3編2-12-8アンカーフレー	00
		ム製作工		ム製作工	98
年日午	鋼橋架設工	4-3-13工場塗装工 4-5-4架設工(クレー		第3編2-12-11工場塗装工 第3編2-13架設工(鋼橋)	99
第5節	驯 倘未改 工	ン架設)		· 另 3 椭2─13朱放工(刺情)	100
		4-5-5架設工(ケーブ ルクレーン架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-5-6架設工 (ケーブ ルエレクション架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-5-7架設工(架設桁		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		架設)4-5-8架設工(送出し 架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-5-9架設工 (トラベ ラークレーン架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		4-5-10支承工	鋼製支承		146
			ゴム支承		146
第 6 節 エ	橋梁現場塗装	4-6-3現場塗装工		第3編2-3-31現場塗装工	19
第7節	床版工	4-7-2床版工		第3編2-18-2床版工	109
第 8 節	橋梁付属物工	4-8-2伸縮装置工		第3編2-3-24伸縮装置工	15
		4-8-3落橋防止装置工			147
		4-8-5地覆工 4-8-6橋梁用防護柵工			147
第8節	 橋梁付属物工	4-8-7橋梁用高欄工			147
第 0 即	侗未门属初工	4-8-8検査路工			148
第9節	歩道橋本体工	4-9-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	20
2,5 - 2,5	<i>></i> ~	4-9-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	20
		4-9-5橋脚フーチング	I型	第10編3-8-9橋脚フーチング	144
		工	T型	工 第10編3-8-9橋脚フーチング	1
			1 ±	工	144
		4-9-6歩道橋(側道橋) 架設工		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
* = *		4-9-7現場塗装工		第3編2-3-31現場塗装工	19
第5章	コンクリート材			佐り恒2 12 0ピルギ ト田IF	
第 3 節	工場製作工	5-3-2プレビーム用桁 製作工		第3編2-12-9プレビーム用桁 製作工	98
		5-3-3橋梁用防護柵製作工		第3編2-12-7橋梁用防護柵製 作工	97
		1			

	編 道路編】				
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第3節	工場製作工	5-3-4鋼製伸縮継手製		第3編2-12-5鋼製伸縮継手製	97
		作工 5-3-5検査路製作工		作工 第3編2-12-4検査路製作工	97
		5-3-6工場塗装工		第3編2-12-11工場塗装工	99
第5節	PC橋工	5-5-2プレテンション	<u></u> けた橋	第3編2-3-12プレテンション	
		桁製作工 (購入工)		桁製作工(購入工)	10
			スラブ橋	第3編2-3-12プレテンション 桁製作工(購入工)	11
		5-5-3ポストテンション桁製作工		第3編2-3-13ポストテンション桁製作工	11
		5-5-4プレキャストセ グメント製作工 (購入工)		第3編2-3-14プレキャストセ グメント製作工(購入工)	12
		5-5-5プレキャストセグメント主桁組立工		第3編2-3-14プレキャストセ グメント主桁組立工	12
		5-5-6支承工		第10編4-5-10支承工	146
		5-5-7架設工 (クレーン架設)		第3編2-13架設工(コンク リート橋)	101
		5-5-8架設工(架設桁 架設)		第3編2-13架設工(コンク リート橋)	101
		5-5-9床版・横組工		第3編2-18-2床版工	109
		5-5-10落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
第 6 節 橋工	プレビーム桁	5-6-2プレビーム桁製 作工(現場)			148
		5-6-3支承工		第10編4-5-10支承工	146
		5-6-4架設工 (クレーン架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		5-6-5架設工(架設桁 架設)		第3編2-13架設工(鋼橋)	100
		5-6-6床版・横組工		第3編2-18-2床版工	109
		5-6-9落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
第7節	PCホロース ラブ橋エ	5-7-3支承工		第10編4-5-10支承工	146
		5-7-4 P C ホロースラ ブ製作工		第3編2-3-15PCホロースラブ製作工	12
		5-7-5落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
第8節	R Cホロースラ ブ橋エ	5-8-3支承工		第10編4-5-10支承工	146
	ノ恫工	5 – 8 – 4 R C 場所打ホロ ースラブ製作工		第3編2-3-15PCホロースラブ製作工	12
		5-8-5落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
第9節	PC版桁橋工	5-9-2PC版桁製作工		第3編2-3-15PCホロースラブ製作工	12
第10節	PC箱桁橋工	5-10-3支承工		第10編4-5-10支承工	146
		5-10-4 P C 箱桁製作工		第3編2-3-16PC箱桁製作工	13
第11節	DO世性無抗	5-10-5落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
弗 II 即 工	PG万持相桁倘	5-11-2 P C 片持箱桁製 作工		第3編2-3-16PC箱桁製作工	13
		5-11-3支承工		第10編4-5-10支承工	146
		5-11-4架設工(片持架 設)		第3編2-13架設工 (コンク リート橋)	101
第12節 橋工	PC押出し箱桁	5-12-2 P C 押出し箱桁 製作工		第3編2-3-16PC押出し箱桁 製作工	13
		5-12-3架設工(押出し架 設)		第3編2-13架設工(コンク リート橋)	101
第13節	橋梁付属物工	5-13-2伸縮装置工		第3編2-3-24伸縮装置工	15
		5-13-4地覆工		第10編4-8-5地覆工	147
		5-13-5橋梁用防護柵工		第10編4-8-6橋梁用防護柵工、	147
第13節	橋梁付属物工	5-13-6橋梁用高欄工		第10編4-8-7橋梁用高欄工	147
		5-13-7検査路工		第10編4-8-8検査路工	148

【第10	編 道路編】				
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第6章	トンネル(NA	ATM)			
第 4 節	支保工	6-4-3吹付工			148
		6-4-4ロックボルトエ			148
第 5 節	覆工	6-5-3 覆エコンクリー	•		149
		トエ 6-5-4側壁コンクリー	_	第10編6-5-3覆エコンクリー	
		卜工		下工	149
		6-5-5床版コンクリー トエ	-		150
第6節	インバートエ	6-6-4インバート本体 エ			150
第7節	坑内付帯工	<u></u> 6-7-5地下排水工		第 3 編2-3-29暗渠工	18
第8節	坑門工	6-8-4坑門本体工			150
		6-8-5明り巻工			151
第11章	共同溝				
第 3 節	工場製作工	11-3-3工場塗装工		第3編2-12-11工場塗装工	99
第6節	現場打構築工	11-6-2現場打躯体工			151
		11-6-4カラー継手工			151
		11-6-5防水工	防水		152
			防水保護工		152
			防水壁		152
第 7 節 構築工	プレキャスト	· 11 - 7 - 2 プレキャスト躯 体工	Ś		152
第12章	電線共同溝				
第5節	電線共同溝工	12-5-2管路工(管路部)			153
		12-5-3プレキャストボックス工(特殊部)			153
		12-5-4現場打ちボック スエ(特殊部)		第10編11-6-2現場打躯体工	151
第6節	付帯設備工	12-6-2ハンドホールエ			153
第13章	情報ボックスコ				
第 3 節 エ	情報ボックス	13-3-4管路工(管路部)		第10編12-5-2管路工(管路 部)	153
第4節	付帯設備工	13-4-2ハンドホールエ		第10編12-6-2ハンドホール工	153
第14章	道路維持				
第4節	舗装工	14-4-3路面切削工		第3編2-6-15路面切削工	82
		14-4-4舗装打換え工		第3編2-6-16舗装打換え工	82
		14-4-5切削オーバーレイエ			154
		14-4-6オーバーレイエ	面管理の場合	第3編2-6-17オーバーレイエ	82
		14-4-7路上再生工		33 0 Mill 2 0 17 A 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	154
		14-4-8薄層カラー舗装工.	ŝ	第3編2-6-13薄層カラー舗装 工	77
第5節	排水構造物工	14-5-3側溝工		第 3 編2-3-29側溝工	17
-11-	20112111200112	14-5-4管渠工	1	第 3 編 2 - 3 - 2 9 側溝工	17
		14-5-5集水桝・マンホー	-	第 3 編2-3-30集水桝工	18
		ルエ 14-5-6地下排水工		第 3 編2-3-29暗渠工	18
		14-5-7場所打水路工	1	第3編2-3-29場所打水路工	18
		14-5-8排水工	1	第3編2-3-29側溝工	17
第6節		14-6-3路側防護柵工		第3編2-3-8路側防護柵工	9
		14-6-4 防止柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
		14-6-5ボックスビーム エ	,	第3編2-3-8路側防護柵工	9
		<u>上</u> 14-6-6車止めポストエ		第3編2-3-7防止柵工	9
<u> </u>		1. 0 0 7 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		NA O WHILE 2 1 WATER IIII TO	1 /

	編 退路編】	<u> </u>	111-	Marin 1 and 11 to and the send of the last	
	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第7節	標識工	14-7-3小型標識工		第3編2-3-6小型標識工	8
		14-7-4大型標識工		第10編2-9-4大型標識工	138
第 8 節	道路付属施設	14-8-4道路付属物工		第3編2-3-10道路付属物工	10
エ		14-8-5ケーブル配管工		第10編2-12-5ケーブル配管工	139
		14-8-6照明工		第10編2-12-6照明工	139
第9節	軽量盛土工	14-9-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第10節	·	14-10-3場所打擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		14-10-4プレキャスト擁		第3編2-15-2プレキャスト擁壁	106
		壁工		工	100
	石・フロック槓 (張)エ	14-11-3コンクリートブ ロックエ		第3編2-5-3コンクリートブロックエ	22
	(JA) —	14-11-4石積(張)工		第3編2-5-5石積(張)工	23
第12節	カルバートエ	14-12-4場所打函渠工		第10編1-9-6場所打函渠工	135
), <u> </u>	777	14-12-5プレキャストカ		第3編2-3-28プレキャストカル	
		ルバート工		バートエ	17
第13節	法面工	14-13-2植生工		第3編2-14-2植生工	101
		14-13-3法面吹付工		第3編2-14-3吹付工	103
		14-13-4法枠工		第3編2-14-4法枠工	104
		14-13-6アンカーエ		第3編2-14-6アンカーエ	105
		14-13-7カごエ	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
	15 77 (1 1 1 1 1 1 1	and the top of	ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
第15節	橋梁付属物工	14-15-2伸縮継手工		第3編2-3-24伸縮装置工	15
		14-15-4地覆工		第10編4-8-5地覆工	147
		14-15-5橋梁用防護柵工		第10編4-8-6橋梁用防護柵	147
		14-15-6橋梁用高欄工		工、 第10編4-8-7橋梁用高欄工	147
		14-15-7検査路工		第10編4-8-8検査路工	148
第17節	現場塗装工	14-17-6コンクリート面		第3編2-3-11コンクリート面塗	
		塗装工		装工	10
第16章	道路修繕				
第3節	工場製作工	16-3-4桁補強材製作工			155
		16-3-5落橋防止装置製作工		第3編2-12-6落橋防止装置製作工	97
第 5 節	舗装工	16-5-3路面切削工		第3編2-6-15路面切削工	82
		16-5-4舗装打換え工		第3編2-6-16舗装打換え工	82
		16-5-5切削オーバーレ イエ		第10編14-4-5切削オーバーレ	154
		16-5-6オーバーレイエ		イエ 第3編2-6-17オーバーレイエ	82
		16-5-7路上再生工		第10編14-4-7路上再生工	154
		16-5-8薄層カラー舗装		第3編2-6-13薄層カラー舗装工	77
hh	1.1L 1.14L-11 —	I.		Mr. o /= a a a lastyle =	
第6節	排水構造物工	16-6-3側溝工		第 3 編2 — 3 — 29 側溝工	17
		16-6-4管渠工 16-6-5集水枡・マンホー		第3編2-3-29側溝工 第3編2-3-30集水桝工	17
		ルエ		另 5 MHZ 5 50 条 小型工	18
		16-6-6地下排水工		第3編2-3-29暗渠工	18
		16-6-7場所打水路工		第3編2-3-29場所打水路工	18
		16-6-8排水工		第3編2-3-29側溝工	17
第7節	縁石工	16-7-3縁石工		第3編2-3-5縁石工	8
第 8 節	防護柵工	16-8-3路側防護柵工		第3編2-3-8路側防護柵工	9
		16-8-4防止柵工		第3編2-3-7防止柵工	9
		16-8-5ボックスビーム 工		第3編2-3-8路側防護柵工	9
		<u>-</u> 16-8-6車止めポストエ		第3編2-3-7防止柵工	9
第9節	標識工	16-9-3小型標識工		第3編2-3-6小型標識工	8
		16-9-4大型標識工		第10編2-9-4大型標識工	138

■ > V = O/					
-	章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第10節	区画線工	16-10-2区画線工		第3編2-3-9区画線工	10
第12節	道路付属施設工	16-12-4道路付属物工		第3編2-3-10道路付属物工	10
		16-12-5ケーブル配管工		第10編2-12-5ケーブル配管工	139
		16-12-6照明工		第10編2-12-6照明工	139
第13節	軽量盛土工	16-13-2軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	6
第14節	擁壁工	16-14-3場所打擁壁工		第3編2-15-1場所打擁壁工	105
		16-14-4プレキャスト擁 壁工		第3編2-15-2プレキャスト擁壁 工	106
第15節	石・ブロック積	16-15-3コンクリートブ		第3編2-5-3コンクリートブロッ	
210 21	(張)工	ロックエ		クエ	22
		16-15-4石積(張)工		第3編2-5-5石積(張)工	23
第16節	カルバートエ	16-16-4場所打函渠工		第10編1-9-6場所打函渠工	135
		16-16-5プレキャストカ		第3編2-3-28プレキャストカル	17
		ルバート工		バートエ	
第17節	法面工	16-17-2植生工		第3編2-14-2植生工	101
		16-17-3法面吹付工		第3編2-14-3吹付工	103
		16-17-4法枠工		第 3 編2-14-4法枠工	104
		16-17-6アンカーエ		第3編2-14-6アンカーエ	105
		16-17- 7 かごエ	じゃかご	第3編2-3-27羽口工	16
	*		ふとんかご	第3編2-3-27羽口工	17
第18節	落石雪害防止工	16-18-4落石防止網工		第10編1-11-4落石防止網工	135
		16-18-5落石防護柵工		第10編1-11-5落石防護柵工	135
		16-18-6 防雪柵工		第10編1-11-6防雪柵工	135
## 0 0 ##	A⊞ 1/- →	16-18-7雪崩予防柵工		第10編1-11-7雪崩予防柵工	136
第20節	鋼桁工	16-20-3鋼桁補強工		第10編16-3-4桁補強材製作工	155
第21節	橋梁支承工	16-21-3鋼橋支承工		第10編4-5-10支承工	146
		16-21-4 P C橋支承工		第10編4-5-10支承工	146
第22節	橋梁付属物工	16-22-3 伸縮継手工		第3編2-3-24伸縮装置工	15
		16-22-4落橋防止装置工		第10編4-8-3落橋防止装置工	147
		16-22-6地覆工		第10編4-8-5地覆工	147
		16-22-7橋梁用防護柵工		第10編4-8-6橋梁用防護柵	147
				I	
		16-22-8橋梁用高欄工		第10編4-8-7橋梁用高欄工	147
		16-22-9検査路工		第10編4-8-8検査路工	148
第25節	現場塗装工	16-25-3橋梁塗装工		第3編2-3-31現場塗装工	19
		16-25-6 コンクリート面 塗装工		第3編2-3-11コンクリート面塗 装工	10

^{※「}準用する出来形管理基準」は準用先を示す。空白部は「条」の欄に準用先を示す

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規	格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	2 ± ±	3河川・海岸・砂防土工	2	1	掘削工	基 注 法長 ℓ	集 高 ▽ &<5m &≥5m	_	200 - 4 %	施工延 長 40mにつき 1 箇所、延 長 40m 下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ただし、「3 次元計測技術を用いた出ま 管理要領(案)」の規定により測点によ 管理を行う場合は、設計図書の測点毎。 準高は掘削部の両端で測定。	形 る	
				2	掘削工 (面管理の場合)			平均値	個々の 計算値	1.3次元データによる出来形管理によて「3次元計測技術を用いた出来形管理領(案)」に基づき出来形管理を面管理実施する場合、その他本基準に規定する 測精度・計測密度を満たす計測方法によ	要 で ・XeeMのHala	
						平場	標高較差	±50	±150	出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度 して±50mmが含まれている。 3. 計測は平場面と法面(小段を含む)	٤	
						法面 (小段含む	水平または) 標高較差	±70	±160	全面とし、全ての点で設計面との標高彰または水平較差を算出する。計測密度に点/m2(平面投影面積当たり)以上とす4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm以に存在する計測点は、標高較差の評価か除く。同様に、標高方向に±5cm以内にる計測点は水平較差の評価から除く。	1 5。 内 5	
						法面 (軟岩 I) (小段含む	严一败于	±70	±330	5. 評価する範囲は、連続する一つの面することを基本とする。規格値が変わる合は、評価区間を分割するか、あるいは格値の条件の最も厳しい値を採用する。	場	

単位:<u>mm</u>

ſ	編	章	節	条	枝番	I	———— 種	測定	項 目	規	格 値	測		基	準	測		笛	所	摘:	
	1共通編	2 ± ± ±	3河川・海岸・砂防土工	2	3	掘削工 (水中部) (面管理の場合		平場 法面 (小段含む)	標高較差 水平また標高較差	平均值 ±50	個々の 計算値 ±300 ±300	で「3次元計 領(案)」に 実施する場合 計測精度・計 り出来形管理 2.個々の計 して±100mm/ 3.計測は平	則基、則を削が場面とがあるの度施がまる。	を出まをす現れ法標いた管基すれたである。	ニは計測精度と ›。 È面とし、すべ 差を算出する。						
	1 共通編	2 1 1 1	3河川・海岸・砂防土工	3	1	盛土工		法長り	高 ▽ <5m ≥5m w ₁ , w ₂	法县	-50 -100 ₹-2% -100	下のものは1 基準高は各法 ただし、「3 管理要領(案	施工箇 肩で測況 次元計)」の 合は、	所につる 定。 測技術を 規定によ 設計図書	i、延 長 40m以 き 2 箇所。 を用いた出来形 にり測点による 書の測点毎。基	2	W2	w ₁			

																			+11/1/1	
編	章	節	条	枝番	I	種	測定	項目	規	格値	測	定	基準		測	定	箇	所	摘	要
1 共通編	2 ± T	3河三・	3	2	盛土工 (面管理の場合)				平均値	個々の 計測値	1.3次元デー て「3次元計測 領(案)」に基	技術を用 づき出来	引いた出来形 ^り そ形管理を面 ^り	管理要 管理で	天端部の計測	点	11	111		
47110		海岸・砂防土エ					天端	標高較差	-50	-150	実施する場合、 測精度・計測密 出来形管理を 2. 個々の計測 して±50mmが記	度を満た €施する ^は 値の規格	:す計測方法 場合に適用す }値には計測	により ける。	○ 法面部の計測 計測密度 平面積 1点/m	6/				
		Ħ					法面 4割<勾配	標高較差	-50	-170	3. 計測は天蛸 全面とし、全て を算出する。計 影面積当たり)	端面と法面 の点で設 別密度は 以上とす	面(小段を含 g計面との標 は1点/m2(ⁱ する。	高較差 平面投		<i>></i> — ;	<u> </u>	Z *		
							法面 4割≧勾配 (小段含む)	標高較差	-60	-170	4. 法肩、法尻 に存在する計 除く。 5. 評価する することを基準 合は、記	制点は、標 5囲は、連 ちとする。 引を分割す	票高較差の評値 を続する一つで は規格値が変わる。 である。 である。	価から の面と わる場 いは規	小段		天端			
							※ただし、 ここでの勾向 は、鉛直方向 の長さ1に対する、水平方向の長表されである、 と表した もの				格値の条件の最	支も 厳 しし	い値を採用す	ি						

絹	4 章	章 節	条	枝番	工 種		測	定	項目		規	格	・値	i	測	定	基	 準	測	定	箇	所		摘	
1 共通編		土工・海岸土工・砂防土工			盛土補強工 (補強土(テールアルメ) 壁工法) (多数アンカー式補強土 工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)		厚		高 ▽ t 長 さ		設	—50 —50 計值	0		施工延長40m 下のものは11 所。 ただし、「32 管理要る場合は、 計測密度を満れ 理を実施する。	施工箇 欠元計 」に 同要領 こす計	所につき 則技術を 基づき出 ほに規定す 則方法に	2箇 用いた出来形 来形管理を実 する計測精度・	▽		=	_	⊒ī t		
1 共通編	2 1 1 1	22 防: 注	可 		法面整形工(盛土部)		厚		t t			* -:	30		施工延長40mm以下のものの 所以法のするのは ※土沢でのものが ※土沢でのものが だだ理る場合で 施訓密を をする。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	は 1 施 で測定。 ある計 次元計 に 同要計 にす ます	工箇所に 会に適用 則技術を出 基に規定で 則方法に	こつき2箇 。 用いた出来形 来形管理を実 する計測精度・		*>	K T	*			
1 共通編	2 ± ±	2上 区 3河川・海岸・砂防土工			堤防天端工	厚ち t	幅		(15cm ≧15cm w	,		-29 -50 -10	0		幅は、施工延: 長 4 0m以下の 2 箇所。 厚さは、施工 所、100m以 ⁻ 定。	ものに 延 長	t 1施工館 100mに	箇所につき つき 1 箇	<u> </u>	w	,	1_	t		
1 共通編	2 1 1	2 4 道路土工	2	1	掘削工	法長2	基幅	Q<	高 ▽ 5m 5m w		法	±50 -20 長- -10	00 4 %		施工延 長 40m m以下のもの(所。 基準高は、道 定。 ただ旦要領(案) 管理を行う場合	ま1施 路中心 欠元計 」の記	工箇所に ひ線及び 則技術を 閉定によ	こつき2箇 端部で測 用いた出来形 り測点による	1	w v	, J		>		

編	章	節	条	枝 番	エ 種	測定	項目	規	格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1共通編	2HH	4道路土工	2	2	掘削工(面管理の場合)			平值	個の算値	1. 3次元テンステータによる特別では、本のでは、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1	・ 天端部の計測点 ・ 法面部の計測点 ・ 法面部の計測点 ・ 下面積 1点 m2	
						平場	標高較差	±50	±150			
						法面 (小段含 む)	水平または 標高較差	±70	±160			

編	章	節	条	枝番	工種	測	定項目	規	格値	測 定	基	準	測 定 箇 所	摘要
1 共通線		4道路土工	3 4		路床盛土工路床盛土工	法長2幅	準 高 ▽ ℓ<5m ℓ≥5m w _{1.} w ₂	法:	±50 −100 ┣-2% −100	施工延 長 40mにつき m以下のものは 1 施 所。 ただし、「3次元計測 管理要領(案)」の規 管理を行う場合は、記 準高は、道路中心総	工箇所に 別技術を別 別定によ 設計図 課 設 設 対 の び が が が が が が が が が が が が が が が が が が	こつき 2 箇 用いた出来形 り測点による の測点毎。基 語で測定。		
1共通編	НН	4道路土工	3 4	2	路体歴土工(面管理の場合)路床盛土工(面管理の場合)路床のでは、「面管理の場合)	天端面小む	標高較差標高較差	平均値 -50 -80	個々の計測値 -150	1. い管形他度を、と、)標/る、内価、とわ、値、い管形他度を、と、)標/る、内価、とわ、値ので理するによりで、一元案管規計場測m端し算投 尻る。範を、規るの密理2度3むの点す4以評5面変かい値が面、大きによりである場合状況で、面にする計の高2。 法にか評するある採一元案管規計場測m端し算投 尻る。範を、規るのでは、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	別にですることである。 ないは、よいは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	用きる精りるにい小で測り 向標 す。分い出場度出。はる段設密) に高 る規割た 合・来 計。を計度以 土較 一格す出 、計形 測 含面は上 5差 つ値る来 そ測管 精 と1と ㎝の のが	・ 天端部の計測点 ・ 法画部の計測点 ・ 注画報 1点/m2	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	2 ± I	4道路土工	5		法面整形工(盛土部)	厚 さ t	 ₩−30	施工延長 40mにつき1箇所、延長40 m以下のものは1施工箇所につき2箇 所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。	t / susumer	
1共通編	3無筋、鉄筋コンクリート	7鉄筋工	4		組立て	平均間隔 d か ぶ り t	± φ 設計かぶり±φ かつ 最小かぶり	ク d=	コンクリート表面 設計かぶり 最小かぶり サー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

編	章	節	条	枝番	工 種		測	定項	目	規	格	値	測	定	基	準	測 定 箇 所 摘 要
3土木工事共通編	2 m	3共通的	4		矢板工[指定仮設・任 意仮設は除く]		基	準 高	∇		±50		基準高は施 の場合は50				
一工工工	般施工	的工			(鋼矢板) (軽量鋼矢板)		根	入	長	設	計値以.	Ŀ	m (または5 簡	50m)以	下のも	ものは1施	
共通		工種			(コンクリート矢板)		変	位	Q		100		』 所につき2 変位は、施ご	ケ所。	O (SE	引占門原で	
編					(広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)								の場合は25	m) にっ)き1.	ヶ所、延長な	0 "33" "33"
													m (または2 箇	25m)以	下のも	ものは1施:	e i i i
													所につき2 「3次元計》		用いた	出来形管理	要
													領(案)」にる場合は、同	こ基づき	出来形	管理を実施	f '
													計測密度を満	満たす計	測方法	により出来	
														, 0	,,,	•	
3 ±	2	3 共	5		縁石工 (縁石・アスカーブ)		延	長	L		-200		1ヶ所/1施 ただし、「3次		士徒た「	ヨハた山本耳	, de
3土木工事共通編	般施工	3共通的工種			(稼石・アスカーフ)								理要領(案)」				
事共	エ	工 種											は、延長 の変化点で測	定。			
編																	
3	2	3	6		小型標識工	≣ ₹	置 置	高る	ч	載	设計値以	F	1箇所/1基				(2)
3土木工事共通編	一般施工	3 共通的工種						w	(D)	1	—30		基礎 1 基毎				w (D)
事共	Ĭ	五種				基礎		 まさ	h		-30)	「3 次元計測				
通編						從		根入		弧	計値以.		(案)」の規定 ることができ		則点の句	管理方法を用	H h
								ν Λ	. 1X	nX.	.口但以.	_		-			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	規	格	値	測	 定 淮	基	測 定 箇 所 摘 要	編
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	高	付高	h H		-30 -30 +30 -20		単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 1箇所/1施工箇所 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	Н
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	高	付高	w h		-30 -30 +30 -20		1箇所/施工延長 40m 40m以下のものは、2箇所/1施工箇所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 1箇所/1施工箇所 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 高 延 アーブル取	長	w h L H		-30 -30 -100 +30 -20			※ワイヤロー プ式防護柵に も適用する

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ) 幅 w	設計値以上設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
3土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用 いることができる。	h	
3土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	11		コンクリート面塗装工	塗 膜 厚	食便覧Ⅱ-74「表- Ⅱ.5.5 各塗料の 標準使用量と標準 膜厚」の標準使用量	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。		
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	析長 L (m) 断面の外形寸法 橋 桁 の そ り る 1 横方向の曲がり る 2	± L ∕1000 ±5 ±8 ±10	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工 場の成績表にかえることができる。 JIS製品以外はJIS製品に準ずる。	L distribution of the state of	

絙	辛	俖	久	壮采	T 括	测中值日	坦 拔 店	100 中 甘 淮	油 中 笛 託	中位
編3土木工事共通編	章 2一般施工	第 3共通的工種	12	枝番 2	エ 種 プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	測 定 項 目 析長 L (m) 断面の外形寸法 橋 桁 の そ り る」 横方向の曲がり	規格値 ±10··· L≤10m ±L/1000··· L>10m ±5 ±8 ±10	測定基準 桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS製品の場合は、JIS認定工場の成績表にかえることができる。 JIS製品以外はJIS製品に準ずる。	測 定 箇 所 L δ1	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	13		ポストテンション桁 製作工	幅(上) w ₁	+10 -5	析全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3箇所とする。 ②:支間長(m)	W ₁	注ン造下重あ積ボバ作スていの状り「かりが部要る25ッーのトのて鉄況に非いの、大切では、大型をできる25ッーのトので鉄況に非の上標お造空以ス(エレ品種象のびい壊がした。というででででででででいい。
						幅(下) w ₂	± 5]		によるコンク
						高 さ h	+10]		リート構造物
						同 c n	-5			中の配筋状態
						桁 長ℓ支間長	ℓ<15…±10 ℓ≥15…± (ℓ −5) かつ −30mm以内			及びかぶり測定要領」も併せて適用する.
						横方向最大タワミ	0.82			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	14		プレキャストセグメント 製作工(購入工)	桁 長 ℓ 断面の外形寸法(mm)		桁全数について測定。桁断面寸法測定 箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	14		プレキャストセグメント 主桁組立工	析 長 ℓ 支 間 長 横方向最大タワミ	l≥15…± (l-5) かつ -30mm以内	析全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ②と:支間長(m)		
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	15		PCホロースラブ製作工	基 準 高 幅 W ₁ , W ₂ 厚 さ t 析 長 Q 支 間 長	±20 -5~+30 -10~+20 2<15···±10 ℓ≥15···± (ℓ-5) かつ -30mm以内	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-4-12床版・横組工に準ずる。	t W1	注ン造工物積ク(キて対配り「にリ中及定せ 新リ(橋びる以上やの象筋に非よーのび要での、株上要でが場スエ外状つ破るト配か領適の株上要でのよい、製ト種)況い壊コ構筋ぶ」用で換にの及びは験ク物態測併るが、いまではい鉄が、、

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	16	1	PC箱桁製作工	基準高 幅(上) w ₁ 幅(下) w ₂ 内空幅 w ₃ 高さh ₁ 内空高さh ₂	±20 -5~+30 -5~+30 ±5 +10 -5 +10 -5 (<15···±10 ℓ≥15···±(ℓ- 5) かつ -30mm以内	析全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-4-12床版・横組工に準ずる。 ②: 桁長(m)	w1	注ン造下重あ積ボバ作スていの状り「にり中及定せ)ク物部要る25ッ一のトのて鉄況に非よーのび要で新リ(工構内㎡クトプ製工対筋及つ破るト配か領済設一橋お造空以スエレ品種象のびい壊コ構筋ぶ」日のト梁よ物断上カ場キはに外配かは験ク物態測併及コ構・びで面のル製ャ全お)筋ぶ、
3土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	16	2	PC押出し箱桁製作工		-5~+30 -5~+30 ±5 +10 -5 +10 2≤15···±10 ℓ≥15···±(ℓ-5) かつ -30mm以内	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-4-12床版・横組工に準ずる。 ②: 桁長(m)	W1 W3 W2	世注ン造下重あ積ボバ作スていの状り「にリ中及定せて)ク物部要る25ッーのトのて鉄況に非よーのび要て適新リ(工構内㎡クトプ製工対筋及つ破るト配か領適用設一標お造空以ス【レ品種外のびい壊コ構筋ぶ」用すのト渠よ物断上カ場キはに)配かは験ク物態測併る「構造、がで面のル製ャ全お)筋ぶ、

絲	章	節	条	枝番	工種		測 定	項 目	規格	値	測	定	基	準	測	定	箇	 所	摘	
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	17		根固めブロックエ		į	基準高▽	±10)	施工延長40 m m) につき 1 が以下のものは	ァ所、延 1 施工箇	長40m i所につ	(又は50m) き2ヶ所。			Lı	<u> </u>		
編						層積		厚さt	-20	ı	幅、厚さは401	固につき	1ヶ所》	則定。	W ₂ [-	<u></u> } }			
							幅	iw1, w2	-20						[} _	ŀ			
							延	€L1, L2	-200		1施工箇所毎				t I	<u> </u>	\bigcirc			
						乱積	į	基準高▽	± t /	′2	施工延長40m 50m)につき 50m)以下の 2ヶ所。	1ヶ所、	延長4	0m (又は		1		/		
							延	€L1, L2	- t ∕	2	1施工箇所毎				L.	15	L ₁	4		
															_	+ 1	+ + + /	ックの高さ		
3	2	3	18		沈床工		基準	高▽	±15	<u> </u>	1組毎					CIAINE	1022) / V/III C	+	
±	- 一	3 共通的工種					<u>率</u> 幅	同 V W	±30		1						П			
Ī	一般施工	的					监 延	 長 L	-20						¥.		—J''''			
3 土木工事共通編							-									W				
3 ±	2	3 共	19		捨石工		基準	高▽	-10)	施工延長40mm以下のもの					7ı W	v	1		
3 土木工事共通編	般施工	3共通的工種				ı	湢	w	-10		所。	<u> </u>			Ě	,	æ <u>¥</u>	3		
編		1=					延	長 L	-20 ⁱ		-				1		3			

			-					NT - 11 11		中位:
編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	3 共 通	22		階段工	幅 w	-30	1回/1施工箇所	<u> </u>	
工事	施工	共通的工種				高 さ h	-30			
通編		梩				長さし	-30		"][-	
						段 数	±0段		<u>† </u>	
									w	
3 ±	2一般施工	3 共涌	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高	舗装面に対し さ 0~-2	高さについては車道端部及び中央部の 3点	★機動方向	
3土木工事共通編	施工	3 共通的工種				表面の凹		表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方 向)に3mの直線定規で測って凹凸が	③コンクリートの (多ゴムジョイント部材の天曜楽さ (ご舗装の計画楽	
通編		梩				仕上げ高	舗装面に対し0~-2	3mm以下		
									据付け高:「⑤」と「⑥の設計値」との差分 仕上げ高:後打ちコンが有る場合「⑥」と「⑤」の差分、 後打ちコンが無い場合「⑥」と「⑥」の差分	
3 土 木	2 一 般	3 共 通	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージ	据付高。		高さについては車道端部、中央部にお いて橋軸方向に各3点計9点		
3土木工事共通編	一般施工	共通的工種			ョ イント)	高 さ 橋軸方向名 差の相対		表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方 向)に3mの直線定規で測って凹凸が 3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の3	< 構 軸方向 → ▼	
444						表面の凹	凸 3	点		
						歯型板面の歯咬みる 部の高低差	合い 2		C'T	
						歯咬み合い部の縦方 隔W1	一		A 歯型板面の歯咬み 合い部の高低差: W2 咬み合い部中心A,	
						歯咬み合い部の横方 隔W2	一		B点の差 C,L	
						仕 上 げ 高	舗装面に対し さ 0~-2		舗装面 仕上げ高さ あと打ち コンクリート	

編	章	節	条	枝番	工種	測	定 項	頁 目	規	格	値		商 要
3 土木工事共通編	2 般施工	3 共通的工種	24	3	伸縮装置工 (埋設型ジョイント)	表面	i の l	ካ ዑ		3		高さについては車道端部及び中央部の 3点 表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方 向)に3mの直線定規で測って凹凸が 3mm以下	
編						仕上	ゖ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	高 さ		面にう 0~+3		舗装面	
3 ±	2	3 共	26	1	多自然型護岸工(巨石張 り、巨石積み)	基基	集 高	5 ▽	:	±500		施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、延長40m(又は	
3土木工事共通編	般施工	3共通的工種				法	£	₹ l		-200		50m) に Je 1 ヶ所、延長40m (文は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	
共通		種				延	長	L		-200		2770	
編													
3 ±	2	3 共	26	2	多自然型護岸工(かごマット)	法	長	· · · · · ·		-100		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は	
木工工	般施工	3共通的工種				厚	ż	t	_	-0. 2 t		50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	
3土木工事共通編		種				延	長	L		-200		2 7 71 .	
編													
3 土	2	3 共	27	1	羽口工(じゃかご)	法	Q	< 3 m		-50		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長40m (又は	
木工	般施工	3 共通的工種				法 長 ℓ	Q	.≧3 m		-100		50m)以下のものは 1 施工箇所につき	
3 土木工事共通編	_	種				厚	5	, t		-50		2ヶ所。	
· 編													

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	27	2	羽口工(ふとんかご、かご 枠)	高 さ h 延 長 L ₁ , L ₂	-100 -200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、延長40m(又は 50m)以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	L ₁	
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	28		プレキャストカルバート エ (プレキャストボック スエ) (プレキャストパプエ)	基準高▽	±30 -50 ±30 -200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。		
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さ以外の測定項目については「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
						延 長 L	-200	ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。	100 NO.	

編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
3土木工事共通編 3土	2一般施工	3共通的工種 3共	29		側溝工 (場所打水路工)	基 準 高 ▽ 厚さ t 1、t 2 w 高 さ h 1、h 2 延 長 L 基 準 高 ▽	±30 -20 -30 -30 -200 ±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さ以外の測定項目については「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 1施工箇所毎 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。	h ₁
3土木工事共通編	般施工)共通的工種				幅 w ₁ , w ₂ 次 さ h	-50 -30 -200	30m) につぎ1ヶ所。 延長40m (または50m) 以下のものは 1 施工につき2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定に よる測点の管理方法を用いることができる。 1施工箇所毎 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)」の規定により管理を行う場合 は、延長の変化点で測定。	W ₁
3土木工事共通編	2一般施工	3共通的工種	30		集水桝工	基準高∇ ※厚さ t₁~t₅ ※幅 w₁, w₂ ※高さ h₁, h₂	±30 -20 -30 -30	1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合 厚さ以外の測定項目については「3次元 計測技術を用いた出来形管理要領(案」 の規定による測点の管理方法を用いるこ とができる。	t ₃ w ₁ t ₄ t ₁ w ₂ t ₂ h ₁ h ₂ t ₅

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項	目	規格値	測定基準測定箇所	摘要
3土木工事共通編	2 般施工	3共通的工種	31		現場塗装工	塗	膜	厚	a 塗値塗値上・最目合70・分差膜のえだ値目計い限い口膜は膜の。測小標計%測のは厚2なしの標値場りで以下、厚90 定値塗 以定標目合%い、均膜りはでい厚、厚90 定値塗 以定標目合%い、均膜りはでい 値は膜値と値準標計を。測値厚大こは下平目合% 値は膜値と値準標計を。測値厚大こはの均標計以 の、厚の の偏塗値超た定が合きのな	登装終了時に測定。 1ロットの大きさは500m2とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、 各点の測定は5回行い、その平均値を その点の測定値とする。ただし、1 ロットの面積が200m2に満たない場合 は10m2ごとに1点とする。	
3土木工事共通編	2一般施工	4基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	厚さ		w , t ₂	設計値以上 -30 各構造物の規格 値による	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	
3土木工事共通編	2 一般施工	4基礎工	3	1	基礎工(護岸) (現場打)	基幅高延		w h L	±30 -30 -30 -200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	4 基礎工	3	2	基礎工(護岸) (プレキャスト)	基 準 高 ▽ 延 長 L	±30 -200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、延長40m(または 50m)以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定によ る測点の管理方法を用いることができる。		
3土木工事共通編	2一般施工	4基礎工	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (日鋼杭)	基 準 高 ▽ 根 入 長 偏 心 量 d 傾 斜	±50 設計値以上 D/4以内かつ 100以内 1/100以内	全数について杭中心で測定。 傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方 向等)とそれに直交する横断方向の2方向 で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要 領(案)」に基づき出来形管理を実施する 場合は、同要領に規定する計測精度・計測 密度を満たす計測方法により出来形管理 を実施することができる。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ $D \longrightarrow y$ H X H X	
3土木工事共通編	2一般施工	4基礎工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基 準 高 ▽ 根 入 長 偏 心 量 d 傾 斜 杭 径 D	±50 設計値以上 D/4以内かつ 100以内 1/100以内 設計値以上	全数について杭中心で測定 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合 は、同要領に規定する計測精度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実施す ることができる。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ $D \longrightarrow y$ K	
3土木工事共通編	2一般施工	4基礎工	5		場所打杭工	基 準 高 ▽ 根 入 長 偏 心 量 d 杭 径	±50 設計値以上 D/4以内かつ 100以内 設計径(公称 径)以上	全数について杭中心で測定。 傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方向等)とそれに直交する横断方向の2方向で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 ±	2	4 基	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
3土木工事共通編	般施工	基礎工				根入長	設計値以上	傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方向 等)とそれに直交する横断方向の2方向で測	Л	
共	Τ.					偏 心 量 d	150以内	定。	d X	
編						傾斜	1/50以内			•
						基礎径D	径)以上※	※ライナープレートの場合はその内径、補強リングを必要とする場合は補強リングの内径とし、モルタル ライニングの場合はモルタル等の土留め構造の内径 にて測定。		
3 ±	2	4 基礎 工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につい ては各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
不工事	般施工	從工				ケーソンの長さℓ	-50	THE STATE OF THE S	$\mathbf{u} - \sqrt{\mathbf{x} + \mathbf{y}}$	
3土木工事共通編	_					ケーソンの幅 w	-50		TA T. TATE	
編						ケーソンの高さ h	-100		$egin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	
						ケーソンの壁厚 t	-20		$^{ m d}$ \rightarrow	
						偏 心 量 d	300以内		y	
									H	
3 ±	2	4 基	8		ニューマチックケーソ ン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につい ては各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
3土木工事共通編	般施工	基礎工				ケーソンの長さℓ	-50	THE THE PARTY OF T	$\nabla^{\stackrel{W}{\longleftarrow}}$ _ $\stackrel{\ell}{\longleftarrow}$	
共通	_					ケーソンの幅 w	-50			
編						ケーソンの高さ h	-100		t t h	
						ケーソンの壁厚 t	-20		d \	
						偏 心 量 d	300以内			
									x	

編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 ±	2 血 血	4 基礎工	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高 ▽	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
一工事	般施工	工				根入長	設計値以上		┸╫	
3土木工事共通編						偏心量d	300以内			
									x √ d	
3 ±	2	5 石	3	1	コンクリートブロックエ (コンクリートブロック	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または	t ₁ t ₂	
3土木工事共通編	般施工	・ブ			積) (コンクリートブロック	法 長 1 0 2 3 m	-50	50m)以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の		
共通		ロッ			張り)	l ≦ 3 m	-100	2ヶ所を測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領		
祁丽		ク 積				厚さ(ブロック積張) t ₁	-50	(案)の規定によ る測点の管理方法を用いることができ	$\begin{array}{c c} & & & t_1 \\ \hline \downarrow & & & \\ \hline & & & \\ \end{array}$	
		張				厚さ(裏込) t 2	-50	5.	$t_1 t_2$	
		エ				延 長 L	-200			
									t ₁	
3 土 *	2 血	5 石	3	2	コンクリートブロックエ (連節ブロック張り)	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または		
3 土木工事共通編	般施工	・ブ				法長見	-100	50m)以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	L 1	
共通		ロッ				延長 L ₁ , L ₂	-200	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)の規定によ		
お 編		ク積(張)エ						る測点の管理方法を用いることができる。	L 2	

編	章	節	条	枝番	 エ 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3	2	5	3	3	コンクリートブロックエ		±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は		
3 土木工事共通編	般施工	石・			(天端保護ブロック)	—————————————————————————————————————	-100	50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	w	
事	Ĩ	ブロ				 延 長 L	-200	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領		
通編		ック				<u></u> 英 L	-200	(案)」の規定によ		
		積						る測点の管理方法を用いることができ る。	間詰かご	
		張							- 	
		ュ								
									連結プロック	
3	2	5	4		緑化ブロックエ			施工延長40m(測点間隔25mの場合は		
土木	_	石	7		休 プロックエ	基準高▽	±50	50m)につき1ヶ所、延長40m(または	$t_1 \; t_2$	
工事	般施工	ブ				法 長 1	-50	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の		
3土木工事共通編		ロッ				l ≥ 3 m	-100	2ヶ所を測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領		
利用		ク 積				厚さ(ブロック) t ₁	-50	(案)」の規定によ る測点の管理方法を用いることができ	t ₁	
		張				厚さ(裏込) t ₂	-50	る。	→	
		± H				延 長 L	-200		t ₁ t ₂	
		_								
									t_1	
									t ₂	
3土木工事共通編	2 一 fn	5 石	5		石積(張)工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または	.	
工事	般施工	・ブ				法	-50	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の		
共通		ロッ				l≧3m	-100	2ヶ所を測定。		
編		っ ク 積				厚さ(石積・張) t ₁	-50	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定によ		
						厚さ(裏込) t ₂	-50	る測点の管理方法を用いることができ る。		
		張				延 長 L	-200			
		エ								
									t ₂	
									~ 2	

																				単位:	1111111
									規	格値											
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目)測定値 X)	10個の の平均 *面管理の 定値の	場合は測	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下										
3	2	6	7	1	アスファルト舗	装工	基準高▽	±40	±50	_	_	基準高は延長	20m毎	に1ヶ	⊤所の割と	工事規模の考	え方				
一末	般	般			(下層路盤工)		厚さ	-45	-45	-15	-15	し、道路中心				中規模以上の					
土木工事共通編	般施工	般舗装工					幅	-50	-50	_	_	さは各車線40 して測定。幅	-			描いた上での い、舗装施工					
共通		エ					- 1	+		<u> </u>		の割に測定。幅		-		いは使用する					
編												測点によらず				の総使用量が	, 500 t	以上の)場合が該		
												定することが	できる	0		当する。					
												「3次元計測	技術を月	用いた	出来形管理要領	小規模工事とより規模は小	さいも	ወ ው የ	管理結里を		
												(案)」の規定	による派	則点の	管理方法を用い	施工管理に反	映でき	・・・・・ る規模の	の工事をい		
												ることができ	ం			い、同一工種	の施工	が数日泊	連続する場		
																合で、次のい いう。	ずれか	に該当る	するものを		
																いり。 ①施工面積で	2. 000m	2 未満			
																②使用する基			用混合物の		
																総使用量が50					
																厚さは、個々 以上の割合で					
																ならないとと					
																均値(X10)					
																ならない。た					
																10 個未満の均	場合は測	見定値の	平均値は適		
																用しない。					

												_	<u> </u>	111111
									規	格値				
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の (〉	測定値	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3 土木工		6一般舗装工	7	2	アスファルト舗: (下層路盤工) (面管理の場合	_	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「3次元計測技術を用いた出来形管中規模以上の工事とは、管理図等を 里要領(案)」に基づき出来形管理を実施す 描いた上での管理が可能な工事をい		
土木工事共通編	Ī	装工				,	厚さあるい は標高較差	±90	±90	+40 -15	+50	る場合、に基 い、舗装施工面積が 10,000m2 以上あ づき出来形管理を実施する場合、その 也本基準に規定する計測精度・計測密 の総使用量が、3,000 t 以上の場合が		
												度を満たす計測方法により出来形管理 該当する。		
												2. 個々の計測値の規格値には計測精 施工管理に反映できる規模の工事をい 度として±10mmが含まれている。 い、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものを		
												3. 計測は設計幅員の内側全面とし、いう。 全ての点で標高値を算出する。計測密 ①施工面積で 2,000m2 以上 10,000m2 度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 未満		
												以上とする。 ②使用する基層及び表層用混合物の総 使用量が 500t 以上 3,000t 未満 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層		
												の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場		
												ら、ほととははなどといい。 合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。この場合、基準高の		
												でとい左とする。 この場合、 基準 向の 評価は省略する。		

測 定	宦 箇	所	摘	要
事規模の考え方		刃竿た		
いた上での管理	が可能な工事	事をい		
総使用量が、500	00 t 以上の場	合が該		
う。		2002		
使用する基層お	よび表層用涯	混合物の		
		1=9		
以上の割合で規	格値を満足し	しなけれ		
均値(×10)に	ついて満足し	しなけれ		
適用しない。				
規い、は総す規り工、でう施使使さ以な均な10	規模た舗使使る模規管同、。工用用は上ら値ら個人で施す量、事はに工ので積るが個割いXい満のの工るがと小反種いで基50々合と10。の大事理積層、、いで施すのの工るが、とい反種いで基50々合と10。の大事理積層、、いで施れのだと)によりでは、いて流れている。のは、10世紀のでとりにあり、10世紀のでとりによりには、10世紀のでとりには、10世紀のでとりには、10世紀のでとりには、10世紀のでとりには、10世紀のでは、10世紀のは、1	規模の考え方 模以上の工事とは、管理国 た上での管理が可能な工り。 舗装施工も原及び表上の 使用量が、500 t 以上の を開始を表している。 模技は小さいものの規模は に反映のにできる数数当する。 に不変のいがないといる。 工面するが500t 未満層用派 は、の割合とともにいて厚に値をないともにいて厚には、10 個といいて厚いでは、10 個のには、10 個のには、10 個のにないにできるがある。	規模の考え方 模以上の工事とは、管理図等を た上での管理が可能な工事をい 舗装施工面積が2,000m2 以上ある 使用する基層及び表層用混合物 使用量が、500 t 以上の場合が該 る。 模工事とは、中規模以上の工事 規模は小さいものの、管理結果を 管理に反映できる規模の工事を 同一工種の施工が数日連続する場 、次のいずれかに該当するものを 。 工面積で2,000m2 未満 用する基層および表層用混合物の 用量が500t 未満 は、個々の測定値が10 個に9 上の割合で規格値を満足しなけれ らないとともに、10 個の測定値の 値(X10) について満足しなけれ らない。ただし、厚さのデータ数 個未満の場合は測定値の平均値	規模の考え方 模以上の工事とは、管理図等を た上での管理が可能な工事をい 舗装施工面積が2,000m2 以上ある 使用する基層及び表層用混合物 使用量が、500 t 以上の場合が該 る。 模工事とは、中規模以上の工事 規模は小さいものの、管理結果を 管理に反映できる規模の工事をい 同一工種の施工が数日連続する場 、次のいずれかに該当するものを。 工面積で2,000m2 未満 用する基層および表層用混合物の 用量が500t 未満 は、個々の測定値が10 個に9 上の割合で規格値を満足しなけれ らないとともに、10 個の測定値の 値(X10) について満足しなけれ らない。ただし、厚さのデータ数 個未満の場合は測定値の平均値

									規	格値											
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の (〉	測定値	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下										
3土木工事共通編	2 般施工	6一般舗装工	7		アスファルキュー・アスファルを開きます。 (工) 大田		厚さあるいは標高較差	-54	-63	-8		理要領(案)に 場合、その他な 測密度を満た を 実施する場合 2. 個々の計 して±10mm た 3.計測は設計	元基基計 適値ま員の主義を高の十八三年とす に測ぐ十算面直差高の十八三年 一次 はいまれる できまる はいまれる それの	支出規法 ろ見て内。りはこらが未定に 。値る全別と値。評正	用いた実施度・計画を表す。 田本の 田本の 田本の 田本の 田本の 田本の 田本の 田本の	描いた上でのいい。 い、舗装施工 るいは使用量の 該当模する工事が が規模模は小より 施工管理に反	工管面る、 はさ映のず 2、層 とがが層の 中もきエか 2、000m び	可10及0 規のるがに 2 表能00表以 模の規数該 以 層な00表以 以、模日当 上 用	工事をいた		

											<u> </u>	<u> 177 :</u>	111111
								規	格値			_	
編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	ງ(X₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
							中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3 土 木	2 一 般	6 般	7	5	アスファルト舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	- 10	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、		
3土木工事共通編	般施工	般舗装工			セメント(石灰)安定処理エ	幅	-50	-50	_		探取もしくは掘り起こして測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。 小規模とは、一層あたりの施工面積が200㎡以上2、000㎡未満とする。 小規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、合材の使用量が同一配合で50 t 以上の場合が該当する。 コアー採取について標面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。		

														毕业:	ШШ
										規	格値				
ź,	扁	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()	測定値	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
									中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
編	+	2一般施工	6一般舗装工	7		アスファルト舗装 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	I	厚さある いは標高 較差	-54	-63	-8		1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「3次元計測技術を用いた出来形管 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2 以上あ るいは使用する基層及び表層用混合物 の総使用量が、3,000 t 以上の場合が		
													を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高値との差を導高較差として評価する場合は、直下層の目標高さから求まる高さとの差とする。		

		I																		1	· IIIIII
									規	格値											ĺ
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目		D測定値 X)	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下										
3 +	2	6 -	7	7	アスファルト舗		厚さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長40r				工事規模の考		,	TH 500 #5 #		
土木工事共通編	般施工	般舗装工			(加熱アスフ 安定処理工)	アルト	幅	-50	-50	_	_	厚さは、1,000 を採取して測録				中規模以上の 描いた上での					
事	工	装工			文定是41/							書の測点により				い、舗装施工					
通												で測定すること	とができ	きる。		るいは使用す の総使用量が					
1/Mill												┃ 「3次元計測‡	支術を月	用いたり	出来形管理要領	該当する。					
												【条)」の規正	- よる!	則点の	管理方法を用い	小規模工事と より規模は小					
												ることができる	5.			施工管理に反	映でき	る規模	の工事をい		
																い、同一工種 合で、次のい					
																いう。			_		
																①施工面積で 未満	2, 000m	2 以上	.10, 000m2		
																②使用する基					
																使用量が500t 厚さは、個々					
																以上の割合で	規格値	を満足	しなければ		
																ならないとと 均値 (X10)					
																ならない。た	だし、	厚さの	データ数が		
																10個未満の場 用しない。	合は測	定値の	平均値は適		
																точь.					
												1				1					

												単位:	ШШ
								規	格値				
級	;	節	条	枝番	エ 種	測定項目)測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
							中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3.土才工事 去近翁	2 般施工	6一般舗装工	7		アスファルト舗装工 (加熱アエ) 安定の管理の場合)	厚い較差 あ標 る高	-36	-45	_5		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理機(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施でする場合に適用する。。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値と必差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高位との差で算出する。 6. 成立下層の目標高さ十直下層の標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さから求まる高さとの差とする。 コースを関する場合は、直下層の標高を発として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高を発生が多りに以上3,000t 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t 以上3,000t 未満		

接 格 値																					单位:	1111111
										規	格値											
以上 以下 如 如 立 立 立 立 立 立 立 立	編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目			の平均 *面管理の	g(X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
(基層工) 「福 一25 一26 一 一 厚さは、1,000m2 (に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、傾は該封図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領域で案」の規定による過点の管理方法を用いい、同・工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいい。同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいい。同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいい。同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいい。 ①施工面積で2,000m2 未満 ②使用する基預および表層用混合物の総使用量が5001 未満 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個以上の割合で投稿を表足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コーデ採取について 福面舗装等でコアー採取について 福面舗装等でコアー採取について 福面舗装等でコアー採取について 福面舗装等でコアー採取について 福面舗装等でコアー採取によりま版 等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。																						
「3次元計測技術を用いた出来形管理要領当する。 「衆」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 小規模に小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい。 「一種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 「施工面積で2,000m2 未満 ②使用する基層および表層用混合物の 総使用量が500t 未満 厚さはの刺定値が10 個に9 個 以上の割合で規格値を満足しなければならないをともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3	2	6	7	9	アスファル	ト舗装工	厚さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長40	m毎に	1ヶ所の	の割とし、	工事規模の考	え方				
「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 当する。 「案」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 小規模に小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をいい 加模工事とは、中規模以上の工事 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をいいう。 「施工面積で2.000m2 未満 ②使用する基層および表層用混合物の 総使用量が500t 未満 厚定 位 の測定値が10 個に9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値 (X10) について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	末	般	般			(基層工)		幅	-25	-25	_	_						-				
「3次元計測技術を用いた出来形管理要(関当する。 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 小規模に小さいものの、管理結果を加工等をいい。 ・ できる。 ・ が現域に小さいものの、管理結果を加工等をいいう。 ・ では、次のいずれかに該当するものをいう。 ・ でがいた。 ・ では、次のいずれかに該当するものをいう。 ・ では、次のいでは、ともに、10 個の測定値の平均値(メ10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 ・ コアー採取によりにないます。 ・ コアー採取にこいて構画舗装等でコアー採取によりにない。 ・ コアー採取によりにないます。 ・ マー・「採取にこいて構画が表等でコアー・「採取によりにないます。」 ・ マー・「採取によりにないます。」 ・ マー・「はないます。」 ・ マー・「はないまする。」 ・ ではないまする。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事	施工	舗装																			
「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 当する。 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 小規模に小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をいい 加度工商権で2.000m2 未満 ②使用する基層および表層用混合物の 総使用量が500t 未満 厚心 (本の測定値が10 個に9 個以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値 (本のアーダンが 10 個未満の場合は測定値の平均値 (本のアーダンが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取にこいて 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	共温		Î													以下の間隔						
「3次元計測技術を用いた出来形管理要領当する。 (案)の規定による測点の管理方法を用いが規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m2 未満②使用する基層および表層用混合物の総使用量が500t 未満厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。とだし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	編												じ測正りるこ	Z 10 C 7	≥ බං							
(薬)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模がいきいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m2 未満②使用する基層および表層用混合物の総使用量が500t 未満厚さは、個々の測定値が10 個に9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。													「3次元計測	技術を	用いた	出来形管理要领	当する					
より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ()施工面積で2,000m2 未満 (2)使用する基層および表層用混合物の総使用量が500t 未満 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個 以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。													(案)」の規定	による	測点の	管理方法を用し	小規模工事と	は、中	規模以.	上の工事		
い、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m2 未満 ②使用する基層および表層用混合物の総使用量が500t 未満 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個 以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。													ることができ	る。								
合で、次のいずれかに該当するものをいう。 (①施工面積で2,000m2 未満 ②使用する基層および表層用混合物の 総使用量が500t 未満 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。																	施工管理に反	映でき	る規模	の工事をい		
いう。 ①施工面積で2,000m2 未満 ②使用する基層および表層用混合物の 総使用量が500t 未満 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X10)について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。 コアー採取について 橋面面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。																						
①施工面積で2,000m2 未満 ②使用する基層および表層用混合物の 総使用量が500t 未満 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(×10)について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。																		ずれか	に該当	するものを		
②使用する基層および表層用混合物の総使用量が500t 未満厚さは、個々の測定値が10 個に9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しないコアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。																		2 000-	0 ±:#			
総使用量が500t 未満 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値 (X10) について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。																						
厚さは、個々の測定値が10 個に9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。																	_			111111111111111111111111111111111111111		
ならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。																			•	個に9 個		
均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。																	以上の割合で	規格値	を満足	しなければ		
ならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。																	ならないとと	もに、	10 個の)測定値の平		
10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。																						
用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。																						
コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。																		場合は測	ll定値σ)平均値は適		
橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。																		ヘハナ				
等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。																				トリ床版		
他の方法によることが出来る。																						
省略することが出来る。																				性の項目を		

_												·	単位:	1111111
									規	格値				
i	漏	章	節	条	枝番	工種	測定項目)測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下			
	±Ι	2一般施工	6一般舗装工	7	10	アスファルト舗装工(基層工)(面管理の場合)	厚い較差をは、	-20	-25	-3		1. 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として土4mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値十設計厚さから求まる高さとの差とする。 工事規模以上の工事とは、管理図等を描いた出来をいい、舗装施工面積が10,000m2以上あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が、該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より、対域性の影響では、中規模以上の工事とは、中規模以上の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 「施工面積で2,000m2以上10,000m2未満(2使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満		

_												単位:	1111111
								規	格値				
約	章	節	条	枝番	エ種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
							中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3		6	7	11	アスファルト舗装工	厚さ	- 7	-9	-2	-3	幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、 工事規模の考え方		
7	般	般			(表層工)	幅	-25	-25	_	_	厚さは、1,000m2 に1個の割でコアー 中規模以上の工事とは、管理図等を		
17コ事夫追納	般施工	般舗装工				平坦性	-	_	3 mプ ロフィル (σ) 2. 4mm 直読式 (足付き) (σ) 1. 75m 下	以下	を採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。		
											施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m2 未満 ②使用する基層および表層用混合物の総使用量が500t 未満 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		

											<u>-</u>	犁位:	ШШ
								規	格値				
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目)測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
							中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	7	12	アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚は標 単性	-17		-2 3m プロフィル (σ)2.4mm 直読式(気 (σ)1.75m 下	メ-9- 以下 以下 E付き) m 以	1. 3次元データによる出来形管理に おいて「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)」に基づ き出来形管理を実施する場合、その他 本基準に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形管理を 実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として土4mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。 本 2 使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000m2以上10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満		

												毕177.:	шшп
								規	格値				
編	i 章	節	条	枝番	 エ 種	測定項目		D測定値 X)	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
							中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3	2	6	8	1	半たわみ性舗装工	基準高▽	±40	±50			基準高は延長40m毎に1箇所の割と 工事規模の考え方		
Į		—		•	(下層路盤工)	歴年同 >	-45	<u>-45</u>	— —15	 _15	本年間は建設すび間毎に「固所の記と 工事が挟めるえが し、道路中心線及び端部で測定。 中規模とは、1層あたりの施工面積		
本	般施工	粉舖			(1)有好金工/	<u>字 </u>	-50	-50	10	10	厚さは各車線40m毎に1箇所を掘り が2,000㎡以上とする。		
3 土木工事共通編	<u>"</u>	般舗装工				тĦ	- 00	- 00			起こして測定。 中規模以上の工事とは、管理図等を		
共		1									幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。 描いた上での管理が可能な工事をい		
編											い、基層及び表層用混合物の総使用		
											「3次元計測技術を用いた出来形管理要領量が、500 t 以上の場合が該当する。		
											(案)」の規定による測点の管理方法を用い 小規模とは、一層あたりの施工面積		
											ることができる。 が200㎡以上2,000㎡未満とする。		
											小規模工事とは、中規模以上の工事		
											より規模は小さいものの、管理結果を		
											施工管理に反映できる規模の工事をい		
											い、同一工種の施工が数日連続する場		
											合で、合材の使用量が同一配合で50 t		
											以上の場合が該当する。		
		1											
		1											
		1											
		1											
		1											

													<u> </u>	1111111
									規	格値				
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目)測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下			
3 ±	2 一 帆	6 和	8	2	半たわみ性舗装] (下層路盤工)	Ľ	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「「3次元計測技術を用いた出来形管中規模以上の工事は、管理図等を描い		
3土木工事共通編	般施工	般舗装工			(面管理の場合)		厚 さ あ る い は標高較差	±90	±90	+40 -15	+50	理要領(案)」に基づ た上での管理が可能な工事をいい、基		
		1					は標高教差			15				

_												_	毕177.:	ШШ
									規	格値				
希	編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
	3	2	6	8	3	半たわみ性舗装工	厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40m毎に1ヶ所の割と 工事規模の考え方		
]	<u> </u>	般	般			(上層路盤工)	幅	-50	-50	_	_	し、厚さは、各車線40m毎に1ヶ所 中規模とは、1層あたりの施工面積		
/ 二層 せいれ	3.土木工事共通偏	般施工	般舗装工			粒度調整路盤工						を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用「3次元計測技術を用いた出来形管理要領量が、500 t 以上の場合が該当する。 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 小規模とは、一層あたりの施工面積が200㎡以上2,000㎡未満とする。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、合材の使用量が同一配合で50 t 以上の場合が該当する。		
、	3 土木工事共通偏	2一般施工	6一般舗装工	8	4	半たわみ性舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工(面管理の場合)	厚 に 枝 差	-54	-63	-8		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

													単位:	mm
									規	格値				
;	編	章	節	条	枝番	・ エ 種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
	3	2	6	8	5		厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40m毎に1ヶ所の割と 工事規模の考え方		
	3土木工事共通編	般施工	一般舗装工			(上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	中国	<u>50</u>	<u>—50</u>		_	し、厚さは、1,000m2 に1個の割でコ アーを採取もしくは掘り起こして測 定。ただし、幅は設計図書の測点によ らず延長40m以下の間隔で測定する ことができる。		
	3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	8	6	(上層路盤工)	厚さ は 標 整	-54	-63	-8		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が3,000 を基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。と、個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。3.計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。4.厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5.厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

_													毕1江:	ШШ
									規	格値				
ź	編	章	節	条	枝番	エ種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
	3	2	6	8	7	半たわみ性舗装工	厚さ	-15	-20	- 5	- 7	幅は、延長40m毎に1ヶ所の割と 工事規模の考え方		
	‡	船	船			(加熱アスファルト	幅	-50	-50	_	_	し、厚さは、1,000m2 に1個の割でコ 中規模以上の工事は、管理図等を描		
A Company of the Comp	3 土木工事共通編	般施工	般舗装工			安定処理工)	TIM	33	80			アーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 「の間隔で測定することができる。」 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領より規模は小さいものの、管理結果を(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「カストラン・アースを表している。」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「カストラン・アースを表している。」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「カストラン・アースを表している。」の方法によることが出来る。 「おいては、平坦性の項目を省略することが出来る。		
	3 ±	2	6	8	8		厚さあるい	-36	-45	-5	-7	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方		
	3.土木工事共通編	般施工	般舗装工			(加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	は標高較差					おいて「3次元計測技術を用いた出来形管中規模以上の工事は、管理図等を描いた里で領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

類 格 値
#####################
3
本
「3次元計測技術を用いた出来形管理要領より規模は小さいものの、管理結果を (案)」の規定による測点の管理方法を用い 施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を
(案)」の規定による測点の管理方法を用い に、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を
ることができる。 い、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 標面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を
合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を
橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を
に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を
の方法によることが出来る。
維持工事においては、平坦性の項目を

													-	単位:	шш
										規	格値				
ý ň	編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目)測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
									中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
TIVI IN TIVI A	3.土木工事共通編	2 般施工	6一般舗装工	8	10	半たわみ性舗装(基層工)(面管理の場合)		厚 は 較 差	-20	-25	-3		工事規模の考え方		

_													<u> </u>	111111
									規	格値				
希	扁	章	節	条	枝番	エ種	測定項目)測定値 K)	10個の の平均 *面管理の 定値の	場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下			
7	3	2	6	8	11	半たわみ性舗装工	厚き	- 7	- 9	-2	- 3	幅は、延長40m毎に1ヶ所の割と 工事規模の考え方		
		船	船			(表層工)	幅	-25	-25	_	_	し、厚さは、1,000m2 毎に1個の割で 中規模以上の工事は、管理図等を描		
、ニフニ事芸が糸	10日本番属	般施工	般舗装工				平坦性	-	_	3 mプ ロ74 (σ)2.4mn 直読式 (足付き) (σ)1.75r 下	以下	コアーを採取して測定。ただし、幅は いた上での管理が可能な工事をいい、		
										,		ることができる。 い、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。		
	3 E F	2一般施工	6 一般	8	12	半たわみ性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	-17	-20	-2		1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「3次元計測技術を用いた出来形管中規模以上の工事は、管理図等を描い 理要領(案)」に基づ た上での管理が可能な工事をいい、基		
(ニフーニョナ) 非糸	上	施工	般舗装工			(山官垤の場合)	平坦性	_	_	3m プロフィル (σ)2.4mm 直読式(足 (σ)1.75m	メーター 以下 付き)	き出来形管理を実施する場合、その他 本基準に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形管理を 実施する場合に適用する。 層及び表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事 より規模は小さいものの、管理結果を		
												2. 個々の計測値の規格値には計測精度として土4mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

																				里位:	· IIIIII
									規	格値											
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の (X	測定値	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3	2	6	9	1	排水性舗装工		基準高▽	±40	±50	_	_	基準高は延20	m毎に	1ヶ所	fの割とし、	工事規模の考					
3土木工事共通編	般	般			(下層路盤工)		厚さ	-45	-45	-15		道路中心線及				中規模とは、			工面積		
工事	般施工	般舗装工					幅	-50	-50	_		厚さは各車線	40m毎	に1ヶ	・所を掘り起	が 2,000㎡以 中規模以上の			田団生た		
英	_	Ĩ										こして測定。	۷.			サパ侯の工の 描いた上での	-				
温編												幅は、延長40	_			い、基層及び	表層用	混合物の	の総使用		
												定。ただし、 らず延長40m				量が、500 t J					
												とができる。	以下の	国際で	例だりるこ	小規模とは、					
																が200㎡以上2 小規模工事と	/+ :h:	扫描い	トの工車		
												「3次元計測	支術を用	引いた出	出来形管理要领	トリ担様けか	±1,1±.	<u></u> መጠ የ	許押結里 を		
												(条)」の規定	による別	則点の領	管理方法を用し	施工管理に反	映でき	る規模の	の工事をい		
												ることができる	5.			い、同一工種					
																合で、合材の			配合で50 t		
																以上の場合が コアー採取に					
																橋面舗装等で			より床版等		
																に損傷を与え	る恐れ	のあるナ	場合は、他		
																の方法による	ことが	出来る。)		
																+0.+#	000 24	- +++ \	···		
																小規模未満 (ては、平坦性					
																きる。	の項目	石田岬	りの争かで		
																C 0°					

	T								+=	+⁄z /±			<u>早</u> 仏;	
希	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()	測定値	格 値 10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
-	3 ±	2 — 般	6 一 般	9	2	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「3次元計測技術を用いた出来形管中規模以上の工事は、管理図等を描		
\-\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	土木工事共通温	般施工	般舗装工			(面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	±90	±90	+40 -15	⊥ 50	里要領(案)」に基づいた上での管理が可能な工事をいい、 き出来形管理を実施する場合、その他基層及び表層用混合物の総使用量が 本基準に規定する計測精度・計測密度 3,000 t 以上の場合が該当する。		
兼												を満たす計測方法により出来形管理を 実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全での点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の 平価は省略する。		

												単似:	111111
								規	格値				
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目)測定値 X)	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
							中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3	2	6	9	3	排水性舗装工	厚さ		-30	-8	— 10	幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、 工事規模の考え方		
3土木工事共通編	般施工	一般舗装工			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-50	_		厚さは、各車線40m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	9		排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さある。 い較差	-54	-63	-8		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管 世妻領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高を算出する。6. 「東さは、直下層の標高値と当該層の標高を関連する。5. 厚さは、直下層の目標高さ十直下層の標高を半均値十設計厚さから求まる高さとの差とする。		

													<u> </u>	単位:	mm
										規	格値				
編	;	t 1	節	条	枝番	ı	種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
									中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下			
3 +	2	. -	6	9	5	排水性舗装工		厚さ	-25	-30	-8		幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、 工事規模の考え方		
3土木工事共通編	般施工	# 91-31.	般舗装工			(上層路盤工) セメント (石原 安定処理工	灭)	幅	-50	-50			厚さは、1,000m2 に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(本)」の規定による測点の管理方法を用いた。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(本)」の規定による測点の管理方法を用いた。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(本)」の規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要等結いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量がいまり、表層では、中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量がいたとでの管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量がいたとでの管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量がいたとでの管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量がいたとでの管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量がいまり、規模工事とは、中規模以上の工事といい、基層及び表層用混合物の総使用量がいたとでの意味をは、中規模以上の工事といいといるでは、対象に対象に対象を指している。 「3次元計測技術を用することができる。」は、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1		
3	2		6	9	6	排水性舗装工		厚さある					省略することが出来る。 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方		
3土木工事共通編	一般施工	. -	一般舗装工			(上層路盤工) セメント(石灰) 定処理工 (面管理の場合)	安	が は 標差	-54	-63	-8		おいて「3次元計測技術を用いた出来形管中規模以上の工事は、管理図等を描理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高・較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

_													単似:	111111
									規	格値				
糸		章	節	条	枝番	エ種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の: の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3	3 E .	2	6	9	7	排水性舗装工	厚さ	-15	-20 50	-5		幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、 工事規模の考え方		
二フニ聖子が発		一般施工	一般舗装工			(加熱アスファルト 安定処理工)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	—50	—50			厚さは、1,000m2 に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 「3 次元計測技術を用いた出来形管理要のでは、管理の場合が該当する。小規模とは、一層あたりの施工面積が2,000m以上とする。中規模以上の工事とは、管理の等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。小規模とは、一層あたりの施工面積が200m以上2,000m未満とする。小規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事とり、に同一工種の施工が数日連続する。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取について橋面舗装等でコアー採取について橋面舗装等でコアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。小規模未満(200m未満)の工事においては、平坦性の項目を省略する事ができる。		

												毕业:	ШШ
								規	格値				
編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	j(X ₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	9		排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さある いは標 較差	-36	-45	-5		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管中規模以上の工事は、管理図等を描理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5. 厚さは、直下層の標高で算出する。6. 「原本では、直下層の標高でする場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高		
											さとの差とする。		
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	9	9	排水性舗装工 (基層工)	厚幅	- 9 -25	-12 -25	-3		幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000m2 に1個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領域と対し、中規模以上の工事は、中規模以上の工事は、中規模以上の工事は、中規模以上の工事は、中規模以上の工事は、中規模は上の工事は、中規模は上の工事は、中間できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。コアー採取について標面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		

							T									•				半世	• 111111
									規	格値											
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	9	10	排水性舗装工 (基層工) (面管理の場合)		厚さあるいは標較差	-20	-26	-3		1 お理き本を実2度3全度以4の5合いのでは上、では上、標にするタロで割点点すさ値さする。では上、標にするタロでは上、標にするタロでが次)理定測合計・細設標20。、の標層ので次)でである。の標層である。	計に実る法適値が幅値平 下で較測基施計に用の含員を面 層算差技づす測よす規まの算投 の出と	術 る精りる格れ内出影 標すしを 場度出。値て側す面 高るて用 合・来 にい全る積 値。評	引いた 出来 形色出来 化色素 はいる の密理 測し、測り 該の密理 測し、測り 該ののでは、 当は はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいま	工事規模以下 中 が基 3,000 t 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	工事は理用場はいで施ります。	能な工物の総合が該当す規模のの、行る規模のの、行る規模のの、行る規模のの、行るの、行るのは、行きのは、行きのは、行きのは、行きのは、行きのは、行きのは、行きのは、行き	事をいい、 使用量が -る。 上の工事 管理結果を の工事をい		
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	9	11	排水性舗装工 (表層工)		厚は幅		_ 9 25	- 2 - 3mプ ロフィル (の) 2. 4mm 直読式 (足付き) (の) 1. 75mm	- 3 パーター 以下	Schement of the control of the con	目設。 ha 2 。ずが 術よ 高厚	th t	下層の標 求まる高 割とし、 川でコアー 晶は設計図 以下の間隔 出来形管理要領	エ中い基500 t 横い合コ橋にの維省事規た層500 t 模規管同該一舗傷法エす機以でび上工模理一当採装をに事るが上事はでは、1000 を できるいの を かい を できるに するに できるに するに できる おとい 反種 るにできる おと	「工理用房はさ映の。つコるこい事が混が、いで施 いア恐とては可合能中もきエ てーれがは	能物核規のるが 採の出、工総のす模の規数 取あ来平山のおり、模は にるる。山	事をはいいが、 を用量の工業をのは、 の工業をのは、 をい場が、 をい場が、 をいました。 をいました。 をいました。		

																				単位:	1111111
									規	格値	_										
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土木工	2一般施工	6一般舗装工	9	12	排水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)		厚さある いは標高 較差	-17	-20	-2	-3	1. 3次元デポンプ おいて「3次 管理要領(案)	元計測技	支術を月		工事規模の考 中規模以上の いた上での管	工事は、	. – –-			
土木工事共通編	エ	装工					平坦性	_	-	3m プロフィル (σ)2.4mm 直読式(足 (σ)1.75m	以下 付き)	き出来形管理 本基準に規定 を満たす計測 実施する場合	する計測 方法に に適用	馴精度 より出 する。	・計測密度 出来形管理を	基層及び表層 3,000 t 以上の 小規模工事と より規模は小)場合か は、中 さいも(「該当す 規模以」 のの、管	る。 上の工事 き理結果を		
												2. 度3全度以4の5合高さと、ては上、標、は較との土は上、標、は較との土と厚高厚、差のの土と厚高厚、差のの土はとを下均とするは、の標層値はする。、の標層値はする。	■ 計高(直差高の+1が幅値平 下で較目設合員を面 層算差標計	まの 算投 の 出 と 高 る で も も も も も も も も も も も も も	にいる。 別全面とし、 でる。計測的 高値と当該層 る。 ご評価する場	施工管理に反便に、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では	の施工 ⁷ 。 いては、	が数日達 、平坦!	連続する場		
3 ±	2	6	10	1	透水性舗装工 (路盤工)		基準高▽	±	50	_		基準高は片側3 で測定。	延長 40	m毎に	1箇所の割	工事規模の考 中規模以上の		管理 [図笑を描		
工工	般施工	般舗装工			(四無二)		厚さ	15cm	-30	-1	10	厚さは、片側	延長 40)m 毎に	1箇所掘	いた上での管	-		–		
土木工事共通編	_	五					7- 0	t ≧ 15cm	-45	-1	15	り起こして測2 幅は、片側延-		红 1 筐	所測定	基層および表 3.000 t 以上の					
編							幅	-1	00	_	-	TEIOC TROXE	X 10111 P4	, <u>.</u>	2777/20	小規模工事と			- 0		
												※歩道舗装に 「3次元計測 (案)」の規定 ることができ	技術を用 による》	用いたと	出来形管理要 領 管理方法を用し	より規模は小 施工管理に反 い、同一生工種 合が該一舗を 音に担当ない 橋では 等に もの方法に もの方法によ	映の施工。 ついて コアる恐	る規模(が数日) 採取に。 れのあっ	の工事をい 連続する場 より床版 る場合は、		

_																						. !!!!!!!
									規	格値												
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	g(X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	浿	定	籄	ā	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
3 ±	2	6	10	2	透水性舗装工 (路盤工)			t ≧ 15cm	+90 -70	+!		1. 3次元デ おいて「3次	• .					士 答	:理図	等を描		
工事	般施工	般舗装工			(面管理の場合)		基準高▽	t ≧ 15cm	±90	+!	50	管理要領(案)] [基づ		いた上での	管理が	可能な	工事を	をいい、		
土木工事共通編		Î						t <	+90	+:	50	き出来形管理 本基準に規定	する計	測精度	き・計測密度	3,000 t 以_	この場合	が該	当する	0		
祁丽							厚さ	15cm t ≧	-70	+!	50	を満たす計測 実施する場合				小規模工事 より規模は				-		
								15cm	±90		10	2. 個々の計 度として±10				施工管理にい、同一工						
												3. 計測は設全ての点で標	計幅員	の内側	側全面とし、	合が該当す		_,,	. – .	36 7 G 93		
												度は1点/m2										
												以上とする。 4. 厚さは、										
												の標高値との 5. 厚さを標				,						
												合は、直下層 高較差平均値										
												さとの差とす ※歩道舗装に		· Z								
												小少追酬 教[5]	旭川,	<i>•</i>								

																				里位:	. 1111111
									規	格値											
編	章	節	条	枝番	工程	重	測定項目	個々の (X	測定値	10個のž の平均 *面管理の ¹ 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	10	3	透水性舗装工(表層工)		厚 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「			_			延て設の 適 技に 制計間 用 を る ま	Om 毎1 。 書の測定 る。 引いた出	こ 1 ヶ所コ 点によらず することが 出来形管理要領	中規模以上の いた上での管 基層および表	工理層別はさ映の。つコえま可混合中ももれて 一恐	能合が規のるが採れのは、特別のは、模の規数の規数を取るがいます。	事をいい、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で		

																				半世.	******
									規	格値											
編	章	節	条	枝番	т ;	種	測定項目	個々の ()	測定値()	10個の の平均 *面管理の 定値の	J(X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	10	4	透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)		厚は標		20	*		おいて「3次 管理要領(案 き出来形管理 本基準に規定	元)をす方に測m計高(直差高の+る計」実る法適値が幅値平 下で較目設。測に施計に用の含員を面 層算差標計	技基寸測よす規まの算投 の出と高厚術づる精りる格れ内出影 標すしささを は成出。値で傾す面 高るでもか	出来 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	中規模以上のいた上での管基層及び表層 3,000 t 以上の	工理用3場はさ映のは可合が中もき工	能なの 物が該模の 規の 規の 規模の 規模の	事をいい、 使用量が 「る。 上の工事 管理結果を の工事をい		

																						単 位	• 11	Ш
									規	格値		_												
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測	l .	定	基	準		測	定	箇	所	摘	j <u>3</u>	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下													
3	2	6	11	1	グースアスフ	ファルト	厚さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長	40m	毎に1	1 箇所(の割とし、	工事規模	模の考え	え方					
3 土木工事共通編	2 般施工	6一般舗装工	11	1	グ 舗 装工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大		厚 幅			5	_	厚さは、50 採取して測 書の測点に で測定する 「3次元計 (案)」に基	0 m/l 定。た よこ 技 技 技 技 き し 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	こたずが 術出呈に1個し長き 用形記り	の割で 、幅は 40m以 る。 いた出 が管理を	ジョアーを は設計図	が一描い量が一よ施い合以コ橋にの小中2中い、が小20小り工、で上ア面損方規方規を基、規の規定で、の一舗傷法模	模00模上層50模引模模理一合場採装をに未と㎡以で及 t と上工はに工材合取等与よ満は以上のびりは2.事小反種のだってえる(2)	、上の管表上、 00とさ映の支亥つ口ること工管層の一00はいで施用当いア恐とののようで、 100㎡、もきエニュで「れが未200㎡、	るとが混合あ未中のるががる 渓の出満。は可合がた満規の規数同。 取あ来)、「影物諺りと模、模日一」 にるるの	のす以管の がある の は は は は は は は は は は は は は	ı		

											<u> </u>	<u> 早1江:</u>	ШШ
_								規	格値				
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3 土木工	2一般施工	6一般舗装	11	2	グースアスファルト 舗装工 (加熱アスファルト	厚さある いは標高 較差	-36	-45	-5		1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「3次元計測技術を用いた出来形管 中規模以上の工事は、管理図等を描 理要領(案)」に基づ いた上での管理が可能な工事をいい、		
土木工事共通編	Η	装工			安定処理工) (面管理の場合)						き出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	11	3	グースアスファルト 舗装工 (基層工)	厚幅	9 25	-12 -25	_ 3 		幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、500㎡に1個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領は小さいものの、管理結果を(案)」に基づき出来形管理を実施する場合に、同要領に規定する計測制度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する。 ることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。コアー採取について橋面舗集等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		

											<u> </u>	<u> 早1江:</u>	111111
								規	格値				
編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の (〉	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3 土木工	2一般施工	6一般舗装	11	4	グースアスファルト 舗装工 (基層工)	厚さある いは標高 較差	-20	-25	-3		1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「3次元計測技術を用いた出来形管 中規模以上の工事は、管理図等を描 理要領(案)」に基づ いた上での管理が可能な工事をいい、		
土木工事共通編	1	装工			(面管理の場合)						き出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として土4mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 音. 厚さを標高を整差として評価する場合は、直下層の標高さ十直下層の標高を要平均値十設計厚さから求まる高さとの差とする。		
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	11	5	グースアスファルト 舗装工 (表層工)	厚幅	- 7 -25	- 9 -25	-2 3 mプ ロフィ⅓ (σ)2.4mm 直読式 (足付き) (σ)1.75	— ルーター n以下 imm以下	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、		

													里位:	ШШ
								規	格値					
編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の ()	測定値	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定	箇 所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下				
3 土木工	2一般施工	6一般舗装工	11	6	グースアスファルト 舗装工 (表層工)	厚さある いは標高 較差	-17	-20	-2		. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方中 いて「3次元計測技術を用いた出来形管 規模以上の工事は、管 要領(案)」に基づ た上での管理が可能な	:工事をいい、基		
土木工事共通編	I	装工工			(面管理の場合)	平坦性	_	-	3mプ°ロフィ (σ)2.4 直読式() (σ)1.75	mm以下 足付き)	出来形管理を実施する場合、その他 基準に規定する計測精度・計測密度 満たす計測方法により出来形管理を 施する場合に適用する。 第25年第27年第27年第27年第27年第27年第27年第27年第27年第27年第27	核当する。 模以上のエ のの、管理結果		
											. 個々の計測値の規格値には計測精として±4mm が含まれている。 . 計測は設計幅員の内側全面とし、ての点で標高値を算出する。計測密は1点/m2(平面投影面積当たり)上とする。 . 厚さは、直下層の標高値と当該層標高値との差で算出する。 . 厚さを標高較差として評価する場は、直下層の目標高さ十直下層の標較差平均値+設計厚さから求まる高との差とする。	る規模の工事を が数日連続する 平坦性の項目		

																				串似	• 1111111
									規	格値											
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3	2	6	12	1	コンクリート舗	装工	基準高▽	±40	±50		_	基準高は延長	:20m毎	[[C 1 /	テ所の割と	工事規模の考	え方				
1 ‡	₩ —	如			(下層路盤工)		厚さ	-4	5	-1	15	し、道路中心	線及び	端部で	で測定。厚	中規模とは	、1層	あたりの	の施工面積		
土木工事共通編	般施工	般舗装工					幅	-5)	_	_	さは各車線40	m毎に	1ヶ月	所を掘り起	が 2, 000㎡以	上とす。	る。			
事业	エ	装工								<u> </u>		こして測定。				小規模とは	、一層	あたり	の施工面積		
通		_										ヶ所の割に測	定。た	だし、	幅は設計図	が200㎡以上2	, 000 m²	未満と	する。		
編												書の測点によ	らず延	長40n	n以下の間	厚さは、個々	の測定	値 が 1	0個に		
												隔で測定する	ことが	できる	5.	9 個以上の割					
												[0 va = = 1 val	+4:+ o	=1.41		ればならない	ととも	に、10	0個の測定		
												13次元計測:	汶州を用 き出車∓	刊いた。 形管理	田米形官理安育 を宝施する場合	値の平均値	X 10)	につい	て満足しな		
												は、同要領に規	定山木	計測制	で大心りの場に 度・計測密度を	ければならな	い。た	だし、	厚さのデー		
												満たす計測方				- メダル・10 個		場合は	測定値の半		
												ることができ	る。			均値は適用し	ない。				
																コアー採取に					
																橋面舗装等					
																等に損傷を与					
																他の方法によ	ること	か出来	්		

_		-	-			1			Т					<u> 単似:</u>	111111
										規	格値				
f	扁	章	節	条	枝番	エ ホ	種	測定項目	個々の ()	測定値	10個の の平均 *面管理の 定値の](X₁₀) 場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
									中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
7	3 L	2 一 舰	6 血	12	2	コンクリート舗装コ (下層路盤工)	Ľ	基準高▽	±90	±90	+40 -15		1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「3次元計測技術を用いた出来形管中規模とは、1層あたりの施工面積		
1	上大工事も通温	般施工	般舗装工			(面管理の場合)		厚さある いは標高 較差	±90	±90	+40 -15	1.50	里要領(案)」に基づが2,000 ㎡以上とする。 き出来形管理を実施する場合、その他 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 本基準に規定する計測精度・計測密度 スファルト混合物の総使用量が500 t 未		
\$\frac{1}{2}													を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。		

									規	格値											
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	g(X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	籄	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3	2	6	12	3	コンクリート舗	補装工	厚さ	-25	-30	-	8	幅は、延長40	m毎に 1	1ヶ所の	割と	工事規模の考	え方				
茉	般	般			(粒度調整路盤	盤工)	幅	_	50	_	_	し、厚さは、	各車線4	0m毎に	1ヶ所	中規模とは、			施工面積		
3 土木工事共通編	般施工	般舗装工			(粒度調整路盤	整工)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		50			しを計の間隔で割り で起この で し は は は は は り は り り り り り り り り り り り り	て測定。 によらす	ただし げ延長40	、幅は設)m以下	中が小ス未満9れ値け夕均コ橋等他規2.規フ満。個ばのれ数値ア面にの模000模ァあ厚以な平ばがは一舗損方とのとルるさ上ら均な10適採装傷法は㎡はトいはのな値ら「用取等をに、以、混は、割い(なぼしにで与よ	上表合施個合とXい片なつコえと層物エ々でと10。 あいいアるす及の面の規も)たり。て一恐	るび総積測格ににだ。 採れの 屋用:(値を10い) 、	の加熱で to make		

_						1															- 単位	• 1111111
										規	格値											
糸	編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
									中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
・ニフニ聖古ジル条	+	2 一般施工	6一般舗装工	12	4	コンクリート舗装(面管理の場合)	I)	厚さ は 較差	-55	-66		3	1お理き本を実2度3全度以4の5合高さ、い要出基満施・と・では上・標・は較とって領来準たする何では上・標・は較と次「(一家)では上・標・は較と、一家で規計場の土はで/るはとを下均とで、理定測合計の設標で、 の標層値する はい の で の で で で で で で で で で で で で で で で で	元(をすうこ削 = 十高() 直を高の上計に実る法適値が幅値平 「下で較目設削基施計に用のの資を面 「層算差標計」がすります。	技術 る精りる格ま内出影 標すしさを 場度出。値れ側す面 高るて十合・来 にし全る積 値。評直	用いた (計画) (計画) (計画) (計画) (計画) (計画) (計画) (計画)	工事規模の 1 (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7	1層あ 上とす 表層の	る。 び基層 総使用:	の加熱ア 量が500 t 未		

類 格 値											- 単位	• 111111
## (A) 「								規	格値			
以上 以下 以上 以下 以下 以下 以下 以下 以下	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測	測定基準測気	图 所 摘	要
1												
「は、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 「橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、	3			12	5	コンクリート舗装工	厚さ	-25 -30	-8	は、延長 40m毎に1箇所の割とし、 工事規模の考え方		
「は、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 「橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、	十	船				(セメント(石灰・瀝	幅	-50	_	さは、500㎡に1個の割でコアーを 中規模とは、1	層あたりの施工面積	
	3.土木工事共通編	—	_			(セメント(石灰・瀝		<u> </u>	_	きは、500㎡に1個の割でコアーを 取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅 が2,000㎡以上と 小規模とは、一 が200㎡以上2,000 厚さは、個々の測以上の割合で規格 ならないとともに 均値(X_{10})につ ならない。ただし 10個未満の場合は 用しない。	層あたりの施工面積する。 層あたりの施工面積 パ未満とする。 定値が10個に9個 ・値を満足しなければ 、10個の平して満足しなければ 、10個の平 いて満さの平均値はあが 測定値の平均値はある場合は、	

類 格 値																							早 仏	
編 章 節 条 枝番 エ 種 測定項目											規	格値												
以上 以下 以下	編	ā I	章	節	条	枝番	I	種	測定項目			の平均 *面管理の	g(X₁₀))場合は測	測	定	基	準		測	定	箇	所	摘	要
1																								
	3 土木工事共通編		_	_	12		(セメント 瀝 青)安定	〜(石灰・ E処理工)	いは標高	-55	-66			お理き本を実2度3全度以4の5合高では、で、「3次)では上・標・は、といては上・標・は、差を関いては、単にする。といては、上・標・は、差では、では、といいでは、が、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、のでは、で、で、で、で	元」をす方こ則㎜計高(直差高の十計に実る法適値が幅値平 下で較目設計です。 おいまい からして	支づけ削にけ見まり自分 ひおこらさ (を) 場という できない はいり はい にっこう きょう はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいか	用いた 子別管 はい での では では では では できまれる と はい でいまれる と はい と は	中規模と(が2,000 r 小規模と(スファル	ま、 ポ以」 ま、君 ト混合	1 層あが Lとする 長層及び 合物の終	る。 ゾ基層の 総使用量	の加熱ア 量が500 t 未		

															里位:	111111
								規	格値							
糸	幕	章 (節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測 定値の平均	測	定	基	準	測 定 箇 所	摘	要
								中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下							
3	2	2	6	12	7	コンクリート舗装工	厚さ	−9 −12	-3	幅は、延長 40	m毎に	1箇所(の割とし、	工事規模の考え方		
てコスコミシ近縁	2一般放工	– I .	6一般舗装工	12	7	コンクリート舗装工(アスファルト中間層)	厚幅	-9 -12 -25	_	幅は、延長 40、500m保証、500m保証、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、	ポに1個 ただし こよらす	国の割で ノ、幅は げ延長40	コアーを 設)m以下	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10 個に9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(×10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。		

_																			里位:	. 111111
								規	格値											
頳	i 章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の (〉	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3.土才工事去近新	2 一般施工	6 般舗装工	12	8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間 層) (面管理の場合)	厚い較さは差 あ標	-20	-27	-3		1お理き本を実2度3全度以4の5合高さ、い要出基満施、と、ては上、標、は較と3て領来準たす個し計の1と厚高厚、差の、3、、第一はで/るはとを下均とが、3案管規計場の土はで/るはとを下均とが、理定測合計・何設標心。、の標層値す	元」をすちこ削し十高(直差高の十計に実る法適値が幅値平 下で較目設測基施計に用の含員を面 層算差標計行です測よす規まの算投 の出と高厚	はずる精りる格れ内出影 標すしさを 場度出。値て側す面 高るて+ の金子 にい全る積 値。評直	用いた み割管 計画 と計画 という でいます はいない という はいい という はいい はい という はい ない という はい という という はい	工事規模とは m u k l m l m l m l m l m l m l m l m l m l	1層あ 上とす 表層及 合物の	る。 び基層の 総使用	の加熱ア 量が500 t 未		

_																				半世.	
									規	格値											
								個々の	測定値	の平均											
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	(X	()	*面管理の 定値の		測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3	2	6	12	9	コンクリート舗	装工	厚さ		10	-3	3. 5	厚さは各車線	の中心付	寸近で型	2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2	工事規模の考	え方				
十	般	般			(コンクリー	ト舗装	幅		25	_	_	各車線200ma	に水糸	又はレ	ベルによ	中規模とは	、1層	あたり	の施工面積		
土木工事共通編	般施工	般舗装工			版工)					コンクリ		り1測線当た				が 2,000㎡以					
共	1 -	Ĭ								硬化後3		測定、幅は、		-					の施工面積		
川編										フィルメ・		で測定。平坦				が200㎡以上2					
1										ーによりな 設の場合		1 mの線上、 リップフォー				厚さは、個々以上の割合で					
										(σ)2. 4mi		理に関し、打				ならないとと					
							平坦性	_	_	人力舗設		で各車線200n				均値(X ₁₀)					
										(σ)3mm以	下	より1測線当	たり横圏	折方向に	こ3ヶ所以	ならない。た	だし、	厚さの	データ数が		
												上路盤の基準	高を測定	定し、涯	則定打設後	10個未満の場	合は測	定値の	平均値は適		
												に各車線200m				用しない。	000 2-	- +++ \	· - = - + · · ·		
												る。ただし、 らず延長80m				小規模未満(ては、平坦性					
												らり延長oum とができる。	以下のほ	訓幣 で海	∜疋9る∟	きる。	V)-A L	C 8 80) 0 1 10 C		
										<u> </u>		隣接する各目	地に対し	して、道	首路中心線						
							目地段差		=	± 2		及び端部で測				維持工事にお 省略すること			性の項目を		

_							1															• 111111
									規	格値												
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目)測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	場合は測	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12		版工)	リート舗装	厚さある いは標高 較差	-:	22	-3		1 3次元デー おいて「3次 理要領(案) き出来形管理	元計測抗 」に基づ	支術を づ	用いた出来形	が2 が2	事規模の考 規模とは、 2,000 ㎡以 規模とは、	1層あ <i>f</i> 上とする	る。			
共通編		Ī			(面管理の)場合)	平坦性	-	_	3m プロ (σ)2.4 直読式((σ)1.7	lmm以下	本基準に規定を満たす計測実施する場合	する計測 方法によ	削精度 より出き	• 計測密度	ス 未 満。	ファルト混 満あるいは	合物の約 施工面和	総使用量 漬が2,0	量が500 t 000 ㎡未		
												2. 個々の計 度として±4mm 3. 計測は設	か含ま 計幅員 <i>0</i>	まれてい ひ内側≦	いる。 全面とし、		付工事 にの 省略するこ			主の項目		
												全ての点で標底 度は1点/m2 以上とする。 4. 厚さは、[(平面技	设影面和	責当たり)							
												の標高値との記 5. 厚さを標準 合は、直下層の	高較差と の目標高	: してii iiさ+ii	評価する場 直下層の標							
										±2		高較差平均値- さとの差とする 隣接する各目は	5.									
												及び端部で測り	ŧ.									
											0.0											

中規模 小規模 小規模 以下 以下 以下 以下 以下 以下 以下 以	半 177														
## 「					値	規									
3土 大 般 施工 事共通編 12 日 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工 基準高マ 生40 生50 ー 基準高は、延長20m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さい、道路中心線及び端部で測定。厚さい、道路中心線及び端部で測定。厚さい、1 を申執模とは、1 層あたりの施工面積が2,000 が以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 が以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未満。厚さは、個々の測定値が10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適	摘 要	測 定 箇 所	基準	測 定	の平均(X10) 「管理の場合は測			測定項目	種	I	枝番	5 条	節	章	編
土木工事共通編編 (転圧コンクリート版工) 厚さ -45 -15 -15 し、道路中心線及び端部で測定。厚さ に、各車線40m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。ただし、幅は設計図書の別点によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 小規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 ㎡以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未満。厚さは、個々の測定値が10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適															
用しない。維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		規模とは、1層あたりの施工面積2,000 ㎡以上とする。 規模とは、表層及び基層の加熱アファルト混合物の総使用量が500 t 未高るいは施工面積が2,000 ㎡未満。さは、個々の測定値が10 個に9個上の割合で規格値を満足しなければらないとともに、10 個の測定値の平値(X10)について満足しなければらない。ただし、厚さのデータ数が1個未満の場合は測定値の平均値は適しない。	が端部で測定。厚さ こ1ヶ所を掘り起こ 延長40m毎に1ヶ所 ン、幅は設計図書の 0m以下の間隔で	し、道路中心線及び端 は、各車線40m毎に1- して測定。幅は、延長4 の割に測定。ただし、「 測点によらず延長40m」	-15 	-45	_	厚さ	ノクリート	(転圧コン 版工)	11	- '-		—	3土木工事共通編

																			単位:	1111111
								規	格値]									
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の ()	測定値	10個の の平均 *面管理の 定値の	(X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 ± *	2 —	6 一	12	12	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	基準高▽	±90	±90	+40 -15		1. 3次元デー おいて「3次元				工事規模の# 中規模とは、		たりの	施工面積		
土木工事共通編	般施工	般舗装工			版工) 下層路盤工 (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	±90	±90	+40 -15	+40 -15	理要領(案)」 き出来形管理を 本基準に規定す	と実施す	「る場合		が2,000 ㎡以 小規模とは、 スファルト》	表層及	び基層の			
編											を実 2 度 3 全 度 3 全 度 3 全 度 3 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 1 で 1 と 2 に 3 に る は る は る に る は る に る は る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る る に る に る に る に る に る に る に る る に る る に る る に る る る る る に る る る る る る る る る る る る る	こ側m十高(直き寄り上る、適値が幅値平 下で較目設。用の含の質技 原算差標計のすめ	「 R R R R R R R R R R R R R R R R R R R	に は は は は は は も の の の の と が の と が の と が の の の の の の の の の の の の の	満あるいはか	正工 面模	īδ2, 000)而未満。		
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12		コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 粒度調整路盤工	厚を	-25 -	-30 50		_	幅は、延長40n 厚さは、各車線 起こして測定。 の測点によらす 測定することが	泉40m年 ただし げ延長40	まに1ヶ ノ、幅に Om以下	が所を掘り は設計図書	満あるいはが 厚さは、個 ⁴ 以上の割合で ならないとの 均値(X10) ならない。が	1 上表合工の規もにだ場に居と層め面測もにづけ合いでは、し、はには、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	けるのでは、 なび総が2,000 がが2,000 が満に直 10 で 厚定 で アンファイン では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の加熱ア 量が500 t 未 00 ㎡未満。 0 個に9個 しなければの別定値の平 しなければ でである。 0 円 0 円 0 円 0 円 0 円 0 円 0 円 0 円 0 円 0 円		

													単似:	111111
									規	格値				
弁	編	章	節	条	枝番	・・・エ・・種	測定項目)測定値 X)	10個の の平均 *面管理の 定値の	場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
TO THE TAX ASSET	+	2 般施工	6一般舗装工	12		コンクリート舗装工(転圧コンクリート制装工)を選出の場合)	厚さあるいは標差	-55	-66	-8		□ 3次元データによる出来形管理に SUT 「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)」に基づ を出来形管理を実施する場合、その他 基準に規定する計測精度・計測密度 E流たす計測方法により出来形管理を を施する場合に適用する。。。 2. 個々の計測値の規格値には計測精 をして土土10mmが含まれている。。。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密度 は1点/m²(平面投影面積当たり) 人上とする。 1. 厚さは、直下層の標高値と当該層)標高値との差で算出する。 3. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さとも下層の標高を主いら求まる高をとの差とする。 「ないのが以上とする。」 2. 個々の計測値の規令面とし、 全でのよで標高値を当またり。 大上とする。 1. 厚さとは、直下層の標高値と当該層)標高値との差で算出する。 5. 厚さを場高較差として評価する場合は、直下層の目標高さとの差とする。 「ないるがといるが、といるとする。 「ないるのでは、大きでは、しているのでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大き		

																				里位.	• 1111111
									規	格値											
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の (X	測定値	の平均 *面管理の)測定値 タ(X ₁₀))場合は測 D平均	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下										
3	2	6	12	15	コンクリート舗	しょうしょう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅう はいし しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう はいしゅう しゅうしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう しゅうしゅう しゅう	厚さ	-25	-30	_	8	幅は、延長 4)m毎に	1箇所	の割とし、	工事規模の考	きえ方				
土木工事共通編	般	般			(転圧コンク	リート	幅	-:	50	_		厚さは、500				中規模とは、			施工面積		
工	般施工	般舗装工			版工)		TH					採取もしくは				が2,000 ml以					
共	_	Ĭ			セメント(オ							し、幅は設計 40m以下の間				小規模とは、					
通編					瀝青)安定処	<u>l</u> 理工													l量が500 t 未		
4410														用いたは 測点の	出来形管理要領 管理方法を用い	満あるいはが 厚さは、個々 以上の割合で	マの測定	値が10) 個に9個		
												ることができ	る。			ならないとと					
																均值(X10)					
																ならない。た	こだし、	厚さの	データ数が		
																10 個未満の	場合は	則定値の	の平均値は適		
																用しない。					
																コア一採取に					
																橋面舗装等で					
																等に損傷を与					
																他の方法によ	くること	が出来	る。		
																				1	
																				1	
																				1	
																				1	
																				1	
]					

												+	<u> 1177 :</u>	111111
									規	格値				
į	編	章	節	条	枝番	エ種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
	3 土木工事共通漏	2 一般施工	6一般舗装工	12		コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) セメント (石原 ・ 市) 管理の場合)	厚い	-55	-66	{		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として当10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 自戻さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高値との差で算出する。 6. は、直下層の目標高さった評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高を出まる。 5. 企業で開始を表示している。 6. とない。 では、直下層の標高を表示している。 7. は、直下層の標高を表示している。 6. は、直下層の目標高さった。 7. は、直下層の標高を表示している。 7. は、直下層の目標高さった。 7. は、直下層の標高を表示している。 7. は、直下層の目標高さった。 7. は、方に、方に、方に、方に、方に、方に、方に、方に、方に、方に、方に、方に、方に、		

																							単位:	1111111
									規	格値														
編	章	節	条	枝番	ェ	種	測定項目	個々の (X	測定値)	10個の の平均 *面管理の 定値の	場合は測		測	定	基	準			測	定	箇	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下													
3	2	6	12	17	コンクリート	ト舗装工	厚さ	-9	-12	_	3	幅は、延	延長 40	m毎に	1 箇所	の割と		工事規模						
土木工事共通編	般				(転圧コン	クリート	幅	-:	25	_	_	厚さは、					_					拖工面 積		
事	般施工	般舗装工			版工)		ТЩ	-				採取して書の測点	〔測定。 = /= 'ピi	ただし	ノ、幅に	は設計図		が2,000				カ加熱ア		
英		Î			アスファルト	中間層						書の測点				メトの 「	削隔で測	スファル	こら、 っ	公海及の	必使用量	が500 t 未		
温編												AC 9 % C	//	C - 00				満あるし	いは施	工面積	5 2, 000	m 未満。		
																						個に9個		
																						しなければ		
																						測定値の平 しなければ		
																						データ数が		
																						平均値は適		
																		用しない	-					
																		コアー技			₩ H= 1 =	より床版		
																						より休服 る場合は、		
																		他の方法						
																						生の項目を		
																		省略する	ること	が出来	5 。			

																				卑 12	<u> </u>	111111
									規	格値												
<u> </u>	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	筃	所	1	啇	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
S I I V I I I I I I I I I I I I I I I I	+	2一般施工	6一般舗装工	12		コンクリート舗装エ (転圧コンクリート 版エ) アスファルト中間層 (面管理の場合)	厚い較差	-20	-27			1お管き本を実2度3全度以4の5合高さ、い理出基満施・と・ては上・標・は較と3て要来準たす個し計の1と厚高厚、差の次「領形に対計場の土は点でするはとを下均とで、では、「領別の土はでするはとを下均とを下り、実理定測合計・「設標」で、の標層値す	元 をす方こ則「計高(直差高の十計」実る法適値が幅値平 下で較目設別に施計に用の含員を面 層算差標計場を引きています。	技感す削よす視まの算役 の出と高を 場度出。値で側す面 高るで十	用 合・来 にい全る積 値。評直に、 計形 はる面。当 と 価下出 の密理 測 し測り 該 るの来 他度を 精 、密) 層 場標形	工事規模 00 という 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1	1層あ 上とす 表層及 合物の	る。 び基層 総使用	の加熱ア 量が500	t 未		

											単位:mm
							規	格値			
編	章	節	条	枝番	 エ 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測 定値の平均	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
							中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下			
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12	19	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工)	厚さ	—15	-4.5	り1測線当たり横断方向に3ヶ所以上 測定、幅は、延長40m毎に1ヶ所の割 で測定、平坦性は各車線毎に版縁から 1mの線上、全延長とする。ただし、 幅は設計図書の測点によらず延長40m	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未 満あるいは施工面積が2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10 個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければ	
						幅	-35	_	以下の間隔で測定することができる。	ならないとともに、10 個の測定値の平	
						平坦性	-	転圧コンクリー トの硬化後、3m プロフィルメー ターにより (σ)2.4mm以下。	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用い ることができる。	均値(X10)について満足しなければないたない。 ただし 厚さのデータ数が	
						目地段差	:	± 2	隣接する各目地に対して、道路中心線 及び端架で測定	等に損傷を与える恐れのある場合は、	
								± L	及び端部で測定。	他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

	_	1			1	1	T								1					中位:	• 111111
								規	格値												
編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	」(X₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	箇		所	摘	要
							中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12		コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) (面管理の場合)	厚さある いは <u>差</u> 平 坦 性			-4.5 3m プロフィル (σ)2.4mm 直読式(足 (σ)1.75m	メーター 以下 付き) m以下	1お理き本を実2度3全度以4の5合高さ3ヶ(領・経・ででででででででででででででででででででででででででででででででででで	これに こうこれ 一番(こうこう こうこう はい こうこう いっぱい はい こうこう いっぱい こうしい こうしょ こうしょ こうしょ こうしょ しょう はい かいしょ しょう はい かいしょ しょう はい しょう はい かいしょう はい かいしょう はい しょう はい しょう はい いいしょう はい いいしょう はい いいしょう はい いいしょう はい いいしょう はい いいしょう はい いいい いいい はい いいい いいいい	技が る精りる格れ内出影 標すしさ 香 場度出。値で側す面 高るて十	用いた 計形 はる面の 当 と 呼吸 では、 計形 はる面の 当 と す す を で を いっこう は るの で と で で と で で で で で で で で で で で で で で	工事規模の考、 が2,000 ㎡2,000 ㎡3 小規模とは「別様では、 大満では、 大満では、 大海では 大海で 大海で 大海で 大海で 大海で 大海で 大海で 大海で 大海で 大海で	1層を層が取る 1 上表合施 いては	る。 び基履 総使用 積が2 、平均	層の加 用量が , 000 旦性の	熱ア 500 t ㎡未		
3土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽厚 さ 幅		±50 45 50		-	基準高は、延月 は、では は、では は、では は、でいる は、でいる は、でいる は、でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	泉mはた正で 支定及毎、だ長き 術にしている。 だまる をまる	端部で測 を所を を40m毎 幅は記 か以下の	測定。厚さ を掘り起こ ⊊に1ヶ所 设計図書の	工事規模の考 中規模の名 が 2,000㎡以 が 200㎡以とは が 200㎡以とは が 200㎡以とは のない X 10 10個ない。 10個ない。 11の間ない。	、上、,000 規もにだい、ため、なり、なり、なり、なり、なり、なり、ない。	るあ未足を10て厚のた満の満つで	りとが足の足のがる個なりとがした。	施工面積 5。 個に 9 個 はければ で値の平 はければ ータ数が		

_					1														1 1	: 111111	_
								規	格値												
編	章	節	条	枝番	 エ 種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の	」(X₁₀) 場合は測	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
3	2	6	13	2	薄層カラー舗装工	厚さ	-25	-30	-	8	幅は、延長40	m毎に1	1ヶ所(の割とし、	工事規模の考	え方					
土木工事共通編	般	般			(上層路盤工)	幅	_	50	_	-	厚さは、各車	線40m年	事に 1・	ヶ所を掘り	中規模とは	、1層	あたり	の施工面積			
工	般施工	般舗装工			粒度調整路盤工						起こして測定。	-			が 2,000㎡以						
共	_	五									の測点によら			下の間隔で	小規模とは				ŧ		
通											測定すること:	ができる	5.		が200㎡以上2						
孙田											「つか二計測	+士/45 士.日	#1\ <i>+</i> -	山本以祭田田名	厚さは、個々	ての測え	[値が1	0個に9個	.		
											(室)」の担	技術を2	カいだ	出来形管理要領 の管理方法を用	以上の割合で	規格値	を満足	しなければ			
											いることがで	たによっ きる。	יייינאי ס	0) E 2/1/12 E /1.							
															均値 (X ₁₀) ならない。た						
															ならない。た 10個未満の場						
															用しない。	月日 (み次)	た他の	十岁には過			
_									1												
3土木工事共通編	2	<u>6</u>	13	3	薄層カラー舗装工	厚さ	-25	<u> </u>	_		幅は、延長 40	-			工事規模の考		+ + 11	0 ++ - 1 =			
本	般施工	般舗装工			(上層路盤工)	幅	_	50	_	_	厚さは、500n 採取もしくは			_	中規模とは			の他丄囬頇			
事	工	装			セメント(石灰) 安定処理工									_{測走。に} によらず延長4(が 2, 000㎡以 小規模とは			の施工商籍	.		
共		エ			女足处理工						m以下の間隔				が200㎡以上2						
編																- 6 101 -	5 I± 1.84	0 /m /= 0 /m			
											「3次元計測	技術を月	用いた	出来形管理要領の管理方法を用	以上の割合で	規格値	を満足	しなければ	2		
											()] 07/96.	~	る測点	の管理方法を用	ならないとと	もに、	10個の	測定値の平	:		
											いることがで	さる。			均値(X ₁₀)	につい	て満足	しなければ	2		
															ならない。た	だし、	厚さの	データ数が	f		
															10個未満の場	合は測	定値の	平均値は適			
															用しない。						
															コアー採取に	ついて					
															橋面舗装等で	コアー	採取に	より床版等	§		
															に損傷を与え	.る恐れ	のある	場合は、他	1		
															の方法による	ことが	出来る	。維持工事	F		
															においては平	坦性の	項目を	省略するこ			
															とができる。						

類 格 値													单位:	
「本本 「									規	格値				
以上 以下 如為	編	i i 章	Ė	節	条	枝番	・ エ 種	測定項目	 	の平均 *面管理の	り(X₁₀))場合は測	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
1														
	3 土木工事共通編	2 一般施工	_ .	_	13	4	(加熱アスファルト				-	中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 によらず延長40m以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「4、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「4、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「3、2、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「4、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「4、000㎡未満とする。 「4、000㎡未満とする。 「5、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「5、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「5、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「5、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「5、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「5、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「5、000㎡以上2、000㎡未満とする。 「5、000㎡未満とする。「5、000㎡未満とする。 「5、000㎡は、100㎡		

												単位:	1111111
								規	格値				
編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の ())測定値 ()	10個の の平均 *面管理の 定値の](X ₁₀) 場合は測	測定基準測定箇所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3	2	6	13	5	薄層カラー舗装工	厚さ	-9	-12	— ;	3	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、 工事規模の考え方		
土木工事共通編	一般施工	一般舗装工			(基層工)	幅		25			早さは、500㎡に1個の割でコアーを 採取して測定。ただし、幅は設計図書の測 点によらず延長40m以下の間隔で測定する。 点とができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (本)」の制定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(メ10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。維持工事においては平坦性の項目を省略することができる。		
3 土 木	2 — 般	6 一般	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50		-	基準高は、延長20m毎に1ヶ所の割と 工事規模の考え方 し、道路中心線及び端部で測定。 中規模とは、1層あたりの施工面積		
工	般施工	般舗装工				厚さ		45	-1		厚さは、各車線100m毎に1ヶ所を掘が 2,000m以上とする。		
3土木工事共通編	+	衣工				幅		50	_		り起こして測定。 福は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。 本表に、 の制定値が10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	.	

																					111111
								規	格値												
編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	個々の測 (X)		10個の の平均 *面管理の 定値の	」(X₁₀) 場合は測	測	定	基	準		測	定	籄	所	摘	要
								小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
3	2	6	14	2	ブロック舗装工	厚さ		-30	-		幅は、延長4	-			•	工事規模の考					
末	般	般			(上層路盤工)	幅	-50)	_	_	厚さは、各事	***	n毎に	1 箇所		中規模とは			の施工面積		
土木工事共通編	般施工	舗装工			粒度調整路盤工						り起こして測					あるいは施コ は、個々の測 合で規格値を ともに、10 個 ついて満足し	表物積値足測な数がし定れ10	及総 2,000 10 個に 10 個に 10 の個に 10 の 10 の 10 の 10 の 10 の 10 の 10 の 10 の	層の加熱ア 量が500 t 未満 ㎡未満。厚き こ9個以上の割 ばならないと 均値(X10)に ない。ただし、 なの場合は測定		
事 3	エ 2 一般	接 6 T	14	3	ブロック舗装工	厚さ		-30	_		幅は、延長 4				•	工事規模の考					
通太	45	- 一			(上層路盤工)	幅	-50)	_		厚さは、500				_	中規模とは			の施工面積		
編工	施	舗			セメント(石灰) 安定処理工						採取もしくは	掘り起る	こして	測定。		が 2,000㎡以 小規模とは			の施工面積		
Ι3	施 2	铺 6	14	4	ブロック舗装工	厚さ	-15	-20	_	-	幅は、延長 40					が200㎡以上2	, 000 m²	未満とす	する。		
事土共木	工 — 血	工般			(加熱アスファルト	幅	-50)	_		厚さは、500		固の割	でコア	'ーを	厚さは、個人					
				_	安定処理工)	 			1		採取して測定					以上の割合で					
3 ±	2	6	14	5	ブロック舗装工	<u>厚 さ</u> 幅	-9 -25	<u>-12</u>			幅は、延長 40	-				ならないとと					
3土木工事共通編	般施工	般舗装工			(基層工)	l lie	—23	0			厚さは、500 採取して測定		回の割	617	_	均値 (X ₁₀) ならない。た 10個未満の場 用しない。	だし、	厚さの	データ数が		
編																コアー採取に 橋面舗装等で に損傷を与え の方法による	コアー る恐れ	採取に のある:	場合は、他		

							規	 格 値			<u> </u>
編	章	節	条	枝番		測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (・)	測 定 基 準	測定簡所	摘 要
ა ††	2	6 5	15	1	路面切削工	厚 さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準 高の差で算出する。		
不工事	般施工	般舗装工				幅 w	-25		測定点は車道中心線、車道端及びその 中心とする。	€.	
3 土木工事共通編									延長 40m未満の場合は、2箇所/施工 箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によること が出来る。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	現舗装 w	
3 土木 上事 共風 課	2一般施工	6一般舗装工	15		路面切削工 (面管理の場合) 標高較差または厚さ t のみ	厚さ t (標高較差)	-17 (17) (面管理として 緩和)	-2 (2)	1 . 施工履歴データを用いた出来形管理要領 (案)に基づき出来形管理を実施する場合に 適用する。 2 . 計測は切削面の全面とし、すべての点で 設計面との厚さ t または標高較差を算出す		
-1-110	-					幅 w	-25	_	る。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり) 以上とする。 3 . 厚さ t または標高較差は、現舗装高切削 後の基準高との差で算出する。 4 . 幅は、延長40m毎に測定するものとし、延 長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とす る。	現舗装 w	
3 ±	2 — 血	6 血 血	16		舗装打換え工	路盤工	幅 w 延長L	-50 -100	各層毎1箇所/1施工箇所	TI	
小工事	一般施工	般舗装工				工	遅技し 厚さ t		「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いる	w	
3 土木工事共通編		Ĩ				舗設工	幅 w 延長L 厚さt	-25 -100 該当工種	ことができる。	L w	
3 土木	2一般施工	6 一般	17	1	オーバーレイエ	厚 さ t	– 9		厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその	Ę	
3土木工事共通編	ル エ	般舗装工				幅 w	-25		州に思いる年度中心線、年度端及いての中心とする。 幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、	<u> </u>	
編						延 長 L	-100		延長20m未満の場合は、2箇所/施工 箇所とする。	t + 100 4 100	
						平 坦 性		3mプ ロイルーター (の)2.4mm以下 直読式 (足付き) (の)1.75mm以 下	断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	現舗装 w	

							規 :	格 値		平位:111111
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (・)	測定基準測定管	節 所 摘 要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	17	2		厚さあるいは標 高較差	-20	3	3 次元データによる出来形管理 いて「3次元計測技術を用いた出来形管 夏(案)」に基づき出来形管理を 「る場合、その他本基準に規定	
争共通編		装工				平 坦 性		3 mプ ロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以下	一る場合、その他本基準に規定 計測度・計測密度を満たす計 により出来形管理を実施する に適用する。 個々の計測値の規格値には計測 ・して土4mmが含まれている。 計測は設計幅員の内側全面と ・での点で標高値を算出する。 密度は1 点ノ m2 (平面投影面積 り) 以上とする。 厚さは、施工前の標高値とオーレイ後の標高値との差で算出す 厚さを標高較差として評価する は、オーパーレイ後の目標高さ ・バーレイ後の標高値との差で ・る。	

編	章	節	条	枝番	エ種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	<u>甲</u> 加. : IIIIII 摘 要
			彩 2		エーニー 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性			脚 定 基 年 延長20m毎に1ヶ所の割で測定。		- 描 安
3土木工事共通編	2	7地盤改良工	_		的床女足処理工	基準高 ▽		延長20m毎に「ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。	ę.	
木	般	盤				施工厚さ t	—50	基準同は、追路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
l 포	般施工	啓				幅 w	-100		F\	
# #	_	보				延 長 L	-200	「3次元計測技術を用いた出来形管理	/	
通		_						要領(案)」による管理の場合は、	$/ \triangledown \ \ $	
編								全体改良範囲図を用いて、施工厚さ		
								t、天端幅w、天端延長Lを確認(実測		
								は不要)。	w	
									 	
3	2	7	3		置換工	基準高 ▽	±50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20		
1 ±	<u>—</u>	,地盤改良工				置換厚さ t	-50	m以下のものは1施工箇所につき2ヶ	G.	
1 1	般施工	盗				幅 w	-100	所。	Ī	
事	工	良				 延 長 L	-200	厚さは中心線及び端部で測定。	;	
3 土木工事共通編		エ				<u></u> 连	-200		i \	
進									$\overline{\lor}$	
dam										
									t	
									w ·	
									' '	
									i	
									l t	
									\ / /	
									w	
									г 1	

編	章	節	条	枝番	エ種	測定	項		規格値	測 定 基 準	測	定箇	所	摘要
	2		4		表層安定処理工	基準			特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5				
一士	般	地盤			(サンドマット海上)		長		-500	点以上測定。	2	3 4)	
3土木工事共通編	2一般施工	7地盤改良エ								W (1) (1 th - 77 5 40 1 th 4 ft			\	
井	_	Ĭ				天端				W. (L)は施工延長40mにつき1箇 所、40m以下のものは1施工箇所につ	1) /		(5)	
通編						天端延	攴	<u>L</u>		き3箇所。				
4500										(L)はセンターライン及び表裏法肩				
										で行う。	1	w.(L)		
											λ	1	★	
											l / /		(\e	
											4/		1>	
											1			
3 土木工事共通編	2一般施工	7 m	4	2	表層安定処理工 (ICT施工の場合)	基準	喜	∇	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5		2 3 (4	
末	般	盤			(101池土の場合)	• +	l L	•	1,1012121212121	点以上測定。				
事	工	地盤改良工				法	長	Q	-500		① /		(5)	
五通									222	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領				
編						天 端	幅	W	-300	(案) 」に記載の全体改良平面				
						天端延	長	L	-500	図を用いて天端幅w、天端延長Lを確認		w.(L)	.1	
										(実測は不要)	λ	•	7	
											e / /		\ e	
											√ /		1	
											1/_			
		_	_		.° / 11 + T					# T 7 F 10 1 0 2 1 # F				
3土木工事共通編	2	フ 地	5		パイルネットエ	基準	高	∇		施工延長 40mにつき 1 箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして		G		
十二	般施工	盤改								測定。		ī		
事	Ĩ	地盤改良工				厚	2	t		杭については、当該杭の項目に準ず		ı İw		
通		_				幅		w	-100	న .			7	
編						l'H		vv	100		/		t	
						延	長	L	-200					

編	章	倍	条	枝番	エ種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	<u>甲</u> 加
		節フ	末		<u>エ 性</u> サンドマットエ			<u>機 佐 巻 卒 </u> 施工延長 40mにつき 1 箇所。	例 足 固 別	1 万 安
3土木工事共通編	2 一般	7カ盤改良工	O		JOHN JIE	加工厚さ t	-50	厚さは中心線及び両端で掘り起こして	Ģ.	
事	般施工	改良				幅 w	-100	測定。	'\'\	
通編						延 長 L	-200			
									w w	
3 土木工事共通編	3 2	フ 地 盤	7		バーチカルドレーンエ (サンドドレーンエ)	位置・間隔w	±100	20本に1箇所。 20本以下は2箇所測定。1箇所に4本	w →	
工事	般施工	,地盤改良工			(ペーパードレーンエ) (袋詰式サンドドレー	杭 径 D	設計値以上	測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対	T P P T	
共通		I			ンエ)			象外とする。	w	
49111			8		締固め改良工	打込長さ h	設計値以上	全本数	<u> </u>	
					ンパイルエ)	サンドドレーン、袋詰 式サンドドレーン、サ		全本数 計器管理にかえることができる。	· w	
						ンドコンパクションパ イルの砂投入量	_			
									h	
									※余長は、適用除外	
1				l					1	

編	章	存在	久	枝番	エ種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	<u>半</u> 位 :
		節	条 9	权		基準高▽		脚 足 基 学 20本に1箇所。	測 走 固 川	-
3土木工事共通編	2	7カ盤改良工	9	'	ロモン (粉体噴射撹拌工)			20本に「歯所。 20本以下は2箇所測定。		
木	般	盤			(高圧噴射撹拌工)	位置・間隔w	D/4以内	1 箇所に4本測定。	w L	
土	般施工	以自			(スラリー撹拌工)	杭 径 D	設計値以上		100	
一井	_	Ĭ			(スプリー現件工) (生石灰パイルエ)	深 度 ℓ	設計値以上	全本数	+ 0 	
通					(生石灰ハイルエ)					
編								$L = \ell 1 - \ell 2$	w	
								ℓ1 は改良体先端深度	+ 4 - 4 +	
								02 は改良体天端深度	Ĭ Ĭ	
									w w	
									C.L.	
									!	
									G.I.	
									\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
									AL T	
									¥ ¥ !	
3	2一般施工	7	9	2	固結工	# # = -	AN E	杭芯位置管理表により基準高を確		
3土木工事共通編	血	7 地盤改良工			(スラリー撹拌工)	基 準 高 ▽	0以上	認		
至	施	费			「3次元計測技術を			全本数	4.	
事	エ	良			用いた出来形管理要			施工履歴データから作成した杭芯位	ki di	
一八百					領(案)第8編固結工	位 置	D/8以内	置管理表により設計杭芯位置と施工		
編					(スラリー撹拌工) 編」による管理の場合			した杭芯位置との距離を確認	Ψ 7 7	
					帰」にある日生の物口			(掘起しによる実測確認は不要)		
								工事毎に1回 施工前の撹拌翼の寸法実測により確		
						杭 径 D	設計値以上	施工前の境件異の寸法美測により唯 認	Φ	
								(掘起しによる実測確認は不要)	0 0	
								全本数		
								施工履歴データから作成した杭打設		
						改良長L	設計値以上	結果表により確認		
								(残尺計測による確認は不要)		
									C. L.	
									C. L.	
									G. L.	
									↑ e ₂ \$	
									*	
									<u></u>	
									*1 L	
									$\downarrow \downarrow \square$	
										

編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	7 地盤改良工	9	3	固結工(中層混合処理)	基 準 高 ▽	設計値以上設計値以上設計値以上設計値以上	1,000m3~4,000m3につき1ヶ所、又は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。 1,000m3以下、又は施工延長40m(50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 施工厚さは施工時の改良深度確認を出来形とする。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工厚さ、幅w、延長Lを確認(実測は不要)。	CL t	
3土木工事共通編	2一般施工	10 仮設工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高▽ 根入長	±100 設計値以上	基準高は施工延長20mにつき1ヶ所。 延長20m以下のものは、1施工箇所に つき2ヶ所。(任意仮設は除く)	-rememen	
3 土木工事共通編	2一般施工	10 仮設工	5	2	土留・仮締切工 (アンカーエ)	削 孔 深 さ l 配 置 誤 差 d	設計深さ以上 100	全数(任意仮設は除く)	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
3土木工事共通編	2一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 l 延長 L ₁ L ₂	-100 -200	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	エ種	測定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所	中心 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	2	10	5		土留・仮締切工	基準高▽	—————————————————————————————————————	施工延長20mにつき1ヶ所。		加女
Į ±	-	仮		-	(締切盛土)	天端幅w	-100	延長20m以下のものは1施工箇所につ		
一个	般施工	設				法長ℓ	-100	き2ヶ所。(任意仮設は除く)		
事	Ĩ	エ				<u>Д</u> <u> </u>	100		. w .	
3土木工事共通編										
編									\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
									\ / / /	
									IRIIR	
通3	2一般施工	10	5	5	土留・仮締切工	基 準 高 ▽	-50	施工延長20mにつき1ヶ所。		
州太	般	仮			(中詰盛土)			延長20m以下のものは、1施工箇所に		
エ	施	設 工						つき2ヶ所。(任意仮設は除く)		
通編 3 土木工事共		_								
共										
3	2	10	9		地中連続壁工(壁式)	基 準 高 ▽	±50	基準高は施工延長20mにつき1ヶ所。		
一業	船	仮				連壁の長さ ℓ	-50	延長20m以下のものについては1施工	l l	
3 土木工事共通編	般施工	設				変 位	300	箇所につき2ヶ所。		
事		エ				壁 体 長 L	-200	変位は施工延長10mにつき1ヶ所。延		
通								長10m以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	ı ı	
編								27 1010	▼ ├────────────────────────────────────	
									<u> </u>	
3	2	10	10		地中連続壁工(柱列式)	基 準 高 ▽	±50	基準高は施工延長20mにつき1ヶ所。		D: 杭径
‡	船	仮						延長20m以下のものについては1施工	L L	
工工	般施工	設				連壁の長さℓ	-50	箇所につき2ヶ所。		
3 土木工事共通編	_	エ				変 位	D/4以内	変位は施工延長10mにつき1ヶ所。延 長10m以下のものは1施工箇所につき	115000000000000000000000000000000000000	
通編						壁 体 長 L	-200	2ヶ所。	▽	
									L L	

編	章	節	条	枝番	エ	種	涯	則定	項目	規格値	測	定	基	準		測	定	笛	所	摘	要
	2	12	1		鋳造費					+ 2	製品全数を測定		_	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	†					21-3	
‡	<u>—</u>				(金属支承工)		下	1	しの直径差	- 0											
3土木工事共通編	般施工	工場製作工					ボルト孔 上下部構造物との接合用		ボスの)突起を基準	※1) ガス切断寸										
事	エ	作					ボ造			孔の位置ずれ	※2) 片面のみの										
通							かと	中心距離	≦1000mm	± 1	※3) ソールプし 及び橋軸直角方	ノート(ル接門 ほ	町の偽軸 :ノニ☆! て							
編		共通					£ õ	距)突起を基準	はCT13を適用す										
		地					接合	離		えんと 本土 孔の位置ずれ	※4) 全移動量分										
							角		>1000mm	±1.5	るのかをする。										
										+3	※5)組立て後に	測定									
							ン	ドリ	≦100mm	- 1	=+	-2. 正 数	÷ 077								
							アンカーア・ファー	ル			詳細は道路橋支	承 (天)	少炽								
							アンカーバー	加工孔	>100mm	+ 4											
							<u> </u>	芤	> 100mm	-2											
							ボ孔														
							ーボルトー用孔(鋳放し)	귀.	の中心距離	JIS B 0403-1995											
							放	,,,	※ 1	CT13											
							ی														
							セ	7	ドスの直径	+0											
							ンター			- 1											
							1	-	ボスの高さ	+ 1											
							ボス	,	い人の周	- 0											
									*- o + /2	+0											
							ボス	7	ドスの直径	– 1											
							<u>**</u> 5	1	ドスの古さ	+ 1											
							5	,	ドスの高さ	-0											
									軸及び橋軸直	JIS B 0403-1995											
									の長さ寸法	CT13											
							全移		l≦300mm	± 2											
							※動		ℓ>300mm	±ℓ∕100											
							全移動量		,	_~, 100											
								上、	下面加工仕上げ	±3											
							<u>寸</u>		H≦300mm	± 3											
							H 穀	ト構造品	,	(H/200+3) 小数											
							組立絶対高さ	ト構造用	H>300mm	点以下切り捨											
							_ ~			て JIS B 0403-1995											
									2)、※3)	CT14											
							**			JIS B 0403-1995											
							普通寸法		*2)	CT15											
							等	和山	り加工寸法	JIS B 0405-1991											
							法	ĦI	ッ加工リ法	粗級											
								ガ	ス切断寸法	JIS B 0417-1979											
]			B級											

編	章	節	条	枝番	エ種	3	則定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 ±	2一般施工	12 工	1	2	鋳造費 (大型ゴム支承工)	幅 w	w, L, D≦500		製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t)		
3土木工事共通編	施工	工場製作工				長 さ L	500 < w, L, D ≦1500mm	0~+1%	の最大相対誤差 詳細は道路橋支承便覧参照	補強材	
通編		共通				直 径 D	1500 <w, d<="" l,="" td=""><td>0~+15</td><td></td><td>L L</td><td></td></w,>	0~+15		L L	
							t ≦20mm	±0.5		w	
						厚 さ t	20< t ≦160	±2.5%			
							160 < t	± 4			
						相対	w, L, D≦1000mm	1		D D	
						相対誤差	1000mm < w, L, D	(w, L, D)/1000			
3土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 共通	1		仮設材製作工	部材	部材長ℓ(m)	± 3 ······ℓ≤10 ± 4 ······ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。		
3土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 共通	1	4	刃口金物製作工	3	了 口 高 さ h (m)	$\pm 2 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot$ $h \le 0.5$ $\pm 3 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot$ $0.5 < h \le 1.0$ $\pm 4 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot$ $1.0 < h \le 2.0$	図面の寸法表示箇所で測定。	h	
						5	外周長L(m)	± (10+L/10)			

単位:<u>mm</u>

												測 定	基	—————— 準		平江
編	章	節	条	枝番	工 種		測	定	項	目	規格値				測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 共通	3		析製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)		腹机	高	h	(m) (m) (m)	$\pm 2 \cdots$ $w \le 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$	鋼げた等 主げた・主構 各支点及び各支間中 床組など 構造別に、5部材に 取った部材の中央付近	快付近 Dき 1	個抜き	h	
						部	δ (≣)	ス板 箱ス鋼	の部 た及 のフ	びトラ 3材の腹 びトラッキ)デッキ	h / 250	主げた 各支点及び各支間中 h:腹板高 (mm) b:腹板又はリブの w:フランジ幅 (m	間隔		b 8	
						材精度	フ [.]	ランシ	ジの直 <i>δ</i> (直角度 (mm)	w/200				₩/2 1 δ	
							部材長~ (E)	鋼げ トラー		Ĕ	±3 ℓ≤10 ±4 ℓ>10 ±2 ℓ≤10 ±3 ℓ>10	原則として仮組立を について、主要部材金				
									の曲; δ	(mm)	2∕1000	<u> </u>	È.	材全数を測 才長(mm)	8	
											する数値はm単位の δ, フランジの直角		の規	格値のh, b, w,	lに代入する数値はmm単位の数値とする。	

4=	±	7/-	<i>b</i> y	44.77	- IF		'aı	- - -	+0 +0 ++	測 定	基準		+ <u></u>
編	章	節	条	枝番	エ 種		測定	垻 日	規格値	鋼げた等	トラス・アーチ等	測 定 箇 所	摘 要
3土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 共通	ര	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)		全長、支門	間長 L(m)	± (10+L/10)	各桁毎に全数測定。		単径間の場合	
		通					間距離	主構の中心 B(m)	± 4 ······B≦ 2 ± (3+B/2) ······B> 2	各支点及び各支間中	央付近を測定。	Internal B	
							主構の組ま	立高さ h (m)	$\begin{array}{c} \pm 5 \cdot \dots \cdot h \leq 5 \\ \pm (2.5 + h/2) \\ \dots \cdot h > 5 \end{array}$	_	両端部及び中心部 を測定。	hII	
							主げた、	主構の通り δ (mm)	5+L/5······ L≦100 25······L>100	最も外側の主げた又 点及び支間中央の1 L:測線上(m)	点を測定。	並げた	
						仮組立精	主げた、	主構のそり δ (mm)	-5~+5····L≦20 -5~+10····· 20 < L ≤ 40 -5~+15····· 40 < L ≤ 80 -5~+25····· 80 < L ≤ 200	支間長(m)	測定。 L:主構の支間長 (m)	L	
							におけると	主構の橋端 出入差 δ(mm)	設計値±10	どちらか一方の主げ 測定。		8 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
							度	主構の鉛直 δ(mm)	3+h/1, 000	h:主げたの高さ (mm)	付近を測定。 h:主構の高さ (mm)	δ	
								部のすき間 δ_2 (mm) $-$	設計値±5	主げた、主構の全継 測定。 δ1、δ2のうち大き 設計値が5mm以下の を認めない。	いもの	δ ₁ δ ₂	
										m単位の数値である。 規格値のhに代入す	。 る数値はmm単位の数値	直とする。	

編	章	節	条	枝番	エ種		測	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 共通	3		析製作工 (仮組立検査を実施し ない場合)		フラ腹根	ランジ幅w(m) 坂高 h(m) 坂間隔 b´ m)	± 2······ w≤0.5 ± 3······	主げた、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取っ た部材の中央付近を測定。	h w I 型鋼げた	
						•	板の平面度	鋼げた等の部材 の腹板	h ∕250	主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。 h:腹板高(mm)	b	
							02	箱げた等のフラ ンジ鋼床版のデ ッキプレート	b /150	b:腹板又はリブの間隔(mm) w:フランジ幅(mm)	Υ · δ · Ϊ	
						部材精度	フ	ランジの直角度 δ (mm)	w/200		ν/2	
							部材長ℓ(m)	鋼げた	± 3 ···ℓ≤10 ± 4 ···ℓ>10	主要部材全数を測定。		
								・ 根格値のw, Qに代入す じし、「板の平面度		D数値である。 角度δ」の規格値のh, b, wに代入する数値は	tmm単位の数値とする。	

編	章	節	条	技番 エ 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	進	測 定 箇 所	中 征,ⅢⅢ 摘 要
		12		3 桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮	部材の水平度	10	全数を測定			
3 土木工事共通編	2一般施工	工場製作工		組立時))	堤 長 L	±30			L	
共					堤 長 ℓ	±10			h TT	
和		共 通			堤 幅 W	±30			H	
					堤 幅 w	±10				
					高さH	±10			W W W W	
					ベースプレートの高さ	±10	L		h	
					本体の傾き	± H/0.5		h h		
								h h	H	
							H) _	L. Coler	
							w		W	
									1	
							H		hH	
								- A	h	
							H			
							W	e	w w e e e e	
									W	
							h h	1	LLL	
							00000000	i		
								1	H 4	
							ococoooo h	1	H H	
							88888	+		
							, L ,			
					(次項に続く)					

編	章	笛	条	枝悉	エ	種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
	2 般施工	節 12 工場製作工 共通	<u>条</u> 3	<u>核</u> 3	Ţ		测 定 填 日		用 定 基 华	H E B PT	

編	章	節	久	枝番	エ 種	I	油 中	項目	±B	格	佔	測	定	基	 準			定	箇		 所	中12.	要
	<u>부</u> 2	12	<u>未</u> 4				川 上	垻 日		<u>ma</u> …l≦10					华	-	炽	上	百		ולז	桐	安
土木工事共通編	一般施工	工場製作工 共通				部材	部材長((m)		…v≥10				浏 疋。									
3	2	12	5		鋼製伸縮継手製作工							製品全数を測定	Ē.						w				
3土木工事共通編	般施工	工場製作工					部材長v		0~+	-30								+		*			
編		共通					組合せ	る伸縮装置	設	計(直	両端及び中央部	『付近を	測定。									
		通					との高る	さの差 ı(mm)	± 4									石	Г	╁	\		
						/ ⊑	フィン	」(IIIII) ガーの食い	± 2									<u>/U</u>	<u></u>	110			
							違い												δι		\rightarrow		
						品時	δ	₂ (mm)															
		10	-										. ht = -	NO			(実測値) δ2	ŧ-				
3土木工事共通編	2一般施工	12 エ	6		落橋防止装置製作工							図面の寸法表示	で固かで	測疋。									
工工	施施	工場製作工																					
サ共	エ	作				部材	部材	長l (m)		ℓ≦													
通編						HIPTO	HIVIT	Z~ (111)	± 4 ·	l>	10												
47/10		共通																					
3	2	12	7		橋梁用防護柵製作工							図面の寸法表示	箇所で	測定。									
末	般施工	場																					
3土木工事共通編	工	工場製作工																					
共通																							
編		共通				部材	部材	長l (m)	± 3.	ℓ≦ ℓ>	10												
		雌							' ' '	×/	10												

編	章	節	条	枝番	工種		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工	8		アンカーフレーム製作工		上面水平度 δ ₁ (mm) 鉛直度 δ ₂ (mm)	b / 500 h / 500	軸心上全数測定。	<u> </u>	
共通編		五 共通				仮組立時	高さ h (mm)	±5		$h \int \frac{\partial A}{\partial x} dx = \delta_1$	
3土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 共通	9		プレビーム用桁製作工		w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \le 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3 + w \angle 2) \cdots 2.0 < w$	各支点及び各支間中央付近を測定。	h I型鋼げた	
						部材	フランジの直角度 δ (mm)	w/200	各支点及び各支間中央付近を測定。	<u>Ψ/2</u> δ	
							部材長ℓ(m)	± 3 ···ℓ ≤10 ± 4 ···ℓ >10	原則として仮組立をしない部材につい て主要部材全数で測定。	£	
						仮組立時	主げたのそり	-5~+5 L≤20 -5~+10 20 <l≤40< td=""><td>各主げたについて10~12m間隔を測定。</td><td>L</td><td></td></l≤40<>	各主げたについて10~12m間隔を測定。	L	

2-		terber .	A-7	14.70		_	NO.						NO.1		-	*#-	18. 1		h-h-		中心	
編		節	条			÷n	測	定項	1 目		規格		測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
3 土木工事共通編	一般施工	12 工場製作工 共通	10		鋼製排水管製作工	材	部	材長即	l (m)	±	3 ···ℓ≦ 4 ···ℓ>	·10	図面の寸法表									
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	11		工場塗装工			膜	厚	膜は厚90 b小厚70 c分差膜20なし平塗よ合	厚、合以測は計上に上にませる。	平票値。値拝値。定票目十超た定が合きの均塗 の漆 値準標値 値目計い限値膜の 最勝の の偏塗のえだの標値場り	りり食りは、おは、おは、おは、おいでは、まで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これ	る定(ンきりいき)な装塗のは定をするを変のは定をりまる。	は、下塗 系の場 を布後に 500㎡ 故は 25 ロットの	とする。 点とし、各点の 重をその点の測定 O面積が200m2 に						

編	章	節	条	枝番	エ種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	13 橋梁架設工			架設工(鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブ ルエレクシ	全 長 L(m) 支間長 Ln(m)	± (20+L/5) ± (20+Ln/5)	各けた毎に全数測定。	単径間の場合 L L L1 L2 L3	
					ョン架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	通り	± (10+L/5)	L:主げた・主構の支間長(m)	± if to the total	
						そり	± (25+L/2)	主げた、主構を全数測定。 L:主げた・主構の支間長(m)	, s	
						※主げた、主構の 中心間距離 B (m)	±4···B≦2 ± (3+B/2)··· B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。	B THOMPHON	
						※主げたの橋端に おける出入差 	設計値 ±10	どちらか一方の主げた(主構)端を測定。	δ 	
						※主げた、主構の 鉛直度 & (mm)	3+h/1, 000	各主げたの両端部を測定。 h:主げた・主構の高さ(mm)	δ h	
						※現場継手部 のすき間 る ₁ 、る ₂ (mm)	設計値 ±5	主析、主構の全継手数の1/2を測定。 δ1,δ2のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、す き間の許容範囲の下限値を0mm とす る。(例:設計値が3mmの場合、すき 間の許容範囲は0mm~8mm)	δ 1 	
								※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
						 		 数値である。 各値のhlに代入する数値はmm単位の数値とする	J	

4=		h-h-	AT	14.77	_ 74	1	NO			1 40	16	-	ND-I			*#	NO.		trtr		中心	
編	章	節	枀	枝番			測に	項	<u> </u>	規	格		測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	安
3土木工事共通編	2一般施工	13 橋梁			架設工(コンクリート橋)	全 :	長・支	間					各桁毎に全数測									
事共通	工	橋梁架設工			(クレーン架設) (架設桁架設)	桁の	中心間	距離		_			一連毎の両端 間を測定。	及び支	間中央に	こついて各上 ⁻	F					
編					架設工支保工	そ		Ŋ					主桁を全数測定	i.								
					(固定) (移動)																	
					架設桁架設 (片持架設) (押出し架設)																	
3 土 木	2 一 般	14 法 面	2	1	植生工 (種子散布工)	切土法長ℓ		l<5	m	-200)		施工延長40m 50m) につき									
3土木工事共通編	般施工	エ			(張芝工) (筋芝工)	長見		l≧5			の-4	%	50m)以下の 2ヶ所。									
通		共通			(市松芝工)	成		l<5	m	-100)		ただし、計測									
गमा					(植生シートエ) (植生マットエ) (植生筋エ) (人工張芝エ)	盛土法長ℓ		l≧ 5	m	法長の	の-2	%	管理のほかに 来形管理要領 する出来形計 いることがで	(案) 則性能	」で規2	定	H					
					(植生穴工)		延	長	L	-200)		1 施工管理のほかに 計判に 管理のほから できまから できまから できまかい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい か	- 3 次元 (案) 」 性能を	計測技 で規定	術を用いた出						

						1				T				<u> </u>	
編	章	節	条				測	定項	目	規	格			摘	要
3土木工事共通編	2一般施工	14 法面工 共通	2	2	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)			l<5	m	-200	0		工延長40mにつき 1 ヶ所、40m以下 ものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 だし、計測手法については、従来 理のほかに「3 次元計測技術を用いた出 形管理要領(案)」で規定する出来形 測性能を有する機器を用いることが きる。		
						法長2		ℓ ≧ 5	m	法長	⊘ – 4	l %			
								t < 5	i cm	-10			: 工面積100㎡につき1箇所、面積100㎡以 のものは、1施工箇所につき2箇所。		
						厚さ		t ≧ 5	cm	-20			査孔により測定。		
						t	\J\[し、吹付 欠付厚は。 匀厚は設	、設計厚	の50					
							延	長	L	-200	0		施工箇所毎 だし、計測手法については、従来管 即はかに「3次元計測技術を用いた出来形・理要領(案)」で 定する出来形計測性能を有する機器 用いることができる。		

					ī									于江、皿
編	章	節	条	枝番	エ	種		測定項目	規格値	測 定 基 準		測 定	箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2	14	3		吹付工			l<3 m	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下				
1 ‡	— 6Л	法面工			(コンクリート)			l≧3 m	-100	のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
1 🕆	般施工	重			(モルタル)					測定断面に凹凸があり、曲線法長の測				
事	ヹ				(= , , , , , ,						,	`		
共		#					法			定が困難な場合は直線法長とする。	-			
通		共通					法長ℓ			ただし、計測手法については、従来管		The same		
編		~					L L			理のほかに「3次元計測技術を用いた出来			· l	
										形管理要領(案)」で規定する出来				
										形計測性能を有する機器を用いること			\ \	
													\ \	
										ができる。	l		\ \	
								t < 5 cm	-10	200㎡につき1ヶ所以上、200㎡以下			\ <u></u>	
							一	t ≧ 5 cm	-20	は、2ヶ所をせん孔により測定。				
							厚さ t	但し、吹付面に凹凸		1				
							ť					. /		
								最小吹付厚は、設計			40			
								とし、平均厚は設計原	『以上		100))		
								延 長 L	-200	1施工箇所毎	1	110		
								建 攻 L	200	ただし、計測手法については、従来管		(/ *		
										理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形		11		
										管理要領(案)」で規定する出来				
										形計測性能を有する機器を用いること			V _	
										ができる。				
												*		
												")\		
												()	2	
												ζ,	\	
												7	. \	
												-) \	
													< \	
													1 1	
													×-	
													-	
1														
1														
1														
1														
1														
1														
1														
1														
1														
1														
				l	I		I							Ī

編	章	節	条	枝番	エ種		測定項目	規格値	測定基準測定箇所	摘要
	2 血 ^{飯几}	14 法	4		法枠工 (現場打法枠工)		l<10m	-100		曲線部は設計図書によ
3 土木工事共通編	般施工	法面工 共通			(現場吹付法枠工)	法長ℓ	l≧10m	-200	50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 計測手法については、従来管理のほか に「3 次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」で規定する出来形計測 性能を有する機器を用いることが出来 る。	ర
						ф	i w	-30	枠延延長100mにつき1ヶ所、枠延延 ← ⁸ →	
							高 さ h	-30	長100m以下のものは 1 施工箇所につ き2 ヶ所。	
						ţ	欠付枠中心間隔 a	±100	計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。	
							延 長 L	-200	1施工箇所毎 計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」で規定する出来形計測 性能を有する機器を用いることが出来 る。	
3 土 木	2 一般	14 法面工	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法	l<10m	-100	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20 m以下のものは1施工箇所につき2	
3土木工事共通編	般施工	工 共通				法長ℓ	l≧10m	-200	ケ所。	
· 編		通					延 長 L	-200	1 施工箇所毎	

編	章	節	冬	枝番	エ 種	重	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3土木工事共通編	- 2一般施工	14 法面工	6	1/4	アンカーエ	±	削孔深さ ℓ	設計値以上	全数(任意仮設は除く)	/AI AL EI 1/1	※鉄筋挿入工にも適用する
事共通編		共通				-	配置誤差 d	100			
							せん孔方向 $ heta$	±2.5度		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
3	2	15	1		(一般事項)				施工延長20mにつき1ヶ所、延長20	W:	
土木	_	擁 壁 工			場所打擁壁工		基準高▽	±50	m以下のものは1施工箇所につき2ヶ	 	
3土木工事共通編	般施工	主 共通					厚 さ t	-20	所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	/ h	
- 選 - 編		通					裏 込 厚 さ	-50	(案) 」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測制度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実施する		
							幅 w ₁ , w ₂	-30	両に9 計測力法により山米形官理を美施9 る ことができる。	W1 W1	
						-	高 h < 3 m	-50			
							h h≧3m	-100			
							延 長 L	-200	1施工箇所毎 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	W ₂	
									「3次元計測技術を用いた出来が管理を製 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合 は、同要領に規定する計測制度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実施する ことができる。	7	

編	章	節	条	枝番	エ種	;	則	定	項	目	規	格	値		摘 要
3土木工事共通編	2一般施工	15 擁壁工 共通	2		プレキャスト擁壁工				高			±50		施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測制度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	7
						Ī	延		長	L		-200	0	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合 は、同要領に規定する計測制度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実施する	
3	2	15	3		<u></u>									ことができる。	
土木	一般施工	推 壁 工	0		補強土壁工 (補強土(テールアルメ) 壁工法)	į	基	準	高	∇		±30)	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20 △ m以下のものは1施工箇所につき2ヶ →	
3土木工事共通編	上 上				室工法》 (多数アンカー式補強土工法)	高		h	< 3 r	m		—50)	所。	
通編		共通			グ (ジオテキスタイルを用い た補強土工法)	高 さ h		h	≧ 3 r	m		-10	0	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合 は、同要領に規定する計測制度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実施する	
							鉛	直	度	Δ		0. 03h :300 มี		一点にする。	
									長 設計		設	計値」	以上		
														1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合 は、同要領に規定する計測制度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実施する ことができる。	
							延	長		L		-20	0		

編	章	節	条	枝番	エ	種		測	定	項	目	規	格	値		測	定	基	準	浿	1 定	善	所	摘要
3土木工事共通編	2一般施工	15 擁 壁 工	4		井桁ブロックエ			基	準	高	∇		±50	١	n				所、延長20 所につき2ヶ		- -	L ₁	— 	
共通編		共通					法長ℓ		高さ	h < ;	3 m		-50)										
							Q		高さ	h≧∶	3 m		-100)							-	L2	-	
							J	厚さ	t ₁ ,	t ₂ ,	t 3		-50	١						<u>l /</u>	1/2		¶ É ≒3	
							:	延	長	L	1, L ₂		-200)		1 施工箇所毎				*/2	***************************************	t ₂	* 4	
																				£.	≧ 3 m	4	t,	

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定	項目	規	格値	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	16 浚渫工	3	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)				上限	下限	延長方向は、設計図書により指定され た測点毎。 横断方向は、5m毎。	
事共通		土井通						200ps	+200	- 800	また、斜面は法尻、法肩とし必要に応 じ中間点も加える。ただし、各測定値 の平均値の設計基準高以下であるこ	
祁田							電気船	500ps	+200	-1000	¿.	
						基準高▽		1000ps	+200	-1200		
						▽	ディ	250ps	+200	- 800		
							ーゼル	420ps 600ps	+200	-1000		
							船	1350ps 畐	+200	-1200 -200		
							<u>"</u> 延	_囲 長		-200		
3土木工事共通編	2 一般	16 浚渫工	3	2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)	Ž	基差	準 高 ▽	+20	00以下	延長方向は、設計図書により指定され た測点毎。 横断方向は、5m毎。	
事	般施工				(パンノバン及/末川)		¢	画	_	-200	また、斜面は法尻、法肩とし必要に応	
通編	: I	共通					延	長	_	-200	じ中間点も加える。ただし、各測定値 の平均値の設計基準高以下であること。	
3 ±	2	16 浚	3	3	浚渫船運転工 (バックホウ浚渫船)				平均値	個々の 計測値	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来	
十二事	般施工	浚渫工			(面管理の場合)		標	高較差	0 以下	+400 以7	形管理要領 (案) 」に基づき出 来形管理を面管理で実施する場合、	
3 土木工事共通編		共通									未形管理を固管性で実施する場合、 その他本基準に規定する計測精度・ 計測密度を満たす計測方法により出 来形管理を実施する場合に適用す る。 2. 個々の計測値の規格値には計測 精度として±100mm が含まれている。 3. 計測は平場面と法面の全面と し、全ての点で設計面との標高較差 を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。	

編	章	節	条	枝番	工 種	浿	〕 定	項	i 目	規格	値	測定基準測定箇所摘	要
3 土木 工	2一般施工	18 床版工	2		床版工	基	準	高	i ∨	±20		基準高は、1径間当たり2箇所(支点 付近)で、1箇所当たり両端と中央部 の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚	
3 土木工事共通編	芏					幅	Ī		w	0~+3	0	さは型枠設置時におおむね10 ㎡に1 箇所測定。	
गुश्रात						厚	<u>[</u>	さ	t	-10~+	-20	える。)	
						4	跌筋(のかん	ぶり	設計値以	止	1径間当たり3断面(両端及び中央) 測定。1断面の測定箇所は断面変化毎 1箇所とする。	
						銰	筋の	有効	高さ	±10			
						鉄	節	5 間	見 隔	±20		1 径間当たり 3 箇所(両端及び中央) 測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全	
							高		鉄筋の す マイナ			数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎 に2mの範囲を測定。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項	目	規	格	値	測	定	基	準	測定箇所摘要
6河川編	1築堤護岸工	7 法覆護岸工	4		護岸付属物工	幅		w		-30		「3次元計測技領 (案)」の規 理方法を用いる	定による	る測点の	の管	w d
	Ŧ	Ξ				高	<u>さ</u>	h		—30						h
6	1	10	8		15山 1 小型 7							1 41年				L.L23L.J
6河川編	1築堤護岸工	10 水制工	8		杭出し水制工	基準	高	∇		±50		1組毎				w
	岸工	_				幅		w		±300						+ <u> </u>
						方		向	=	±7°						
						延	長	L		-200						
6河川編		13 光 ケーブ	3		配管工	埋討	没深		С) ~ +50		接続部(地上機	器部)間	間毎に	1 箇所。	() t O O O O
		・ル配管エ				延長	L			-200		接続部(地上機 【管路センター			全数。	<u>L</u> →
		_														接続部 接続部 (地上機器部)

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 河 川 編	1 築堤	13 光	4		ハンドホールエ	基準高 ▽	±30	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合	t s T	
編	·築堤護岸工	ケーブ				※厚さ t₁~t₅	-20		w ₁	
		ァ ル 配				※幅 w ₁ , w ₂	-30		t1 W2 t2	
		管 工				※高さ h,h ₂	-30		h ₁ h ₂ ts	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6河川編	3 樋門・	5樋門•	6	1	函渠工 (本体工)	基準高▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷前) に測定する。	ts [
	樋管	樋管本体工				厚さ t ₁ ~t ₈	-20	函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び 図面の寸法表示箇所で測定。	te t7	
		体工				幅 W ₁ , W ₂	-30	門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇	t ₃ +	
		_				内空幅 w ₃	-30	所で測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品	h ₁	
						内空高 w ₁	±30	寸法を規格証明書で確認するものと し、『基準高』と『延長』を測定。	t+	
						延 長 L	-200	し、『埜华同』と『処技』を例た。	t ₁ t ₂	
									ts ts	
6 河川編	3 樋門 •	5 樋門	6	2	函渠工 (ヒューム管)	基 準 高 ▽	±30	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ		
編	• 樋 管				(PC管) (コルゲートパイプ)	 延 長 L	-200	所。 1 施工箇所毎		
		樋管本体工			(ダクタイル鋳鉄管)	类 · K · L	-200			

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項	目	規格	値	測	基 基	準	測 定 箇 所	摘要
6河川編	3 樋 門	5 樋 門	7 8		翼壁工 水叩工	基	準 高	∇	±30		図面の寸法表示領	所で測定。		t w t	
編					7.4-2	厚	 خ	t	-20						
	樋管	樋管本体工				幅		w	-30					h h	
		体 工				高	さ	h	±30					w w t	
						延	長	L	-50						
														\\\\ ///	
6	4	6	7		床版工						図面の寸法表示領	1年7月中			
6河川編	水門	水脂	8		堰柱工	基	準 高	∇	±30		凶風の 小 本衣 小園	別で例定。			
編	1 1	6水門本体工	9 10		門柱工 ゲート操作台工	厚	₹	t	-20						
		エ	11		胸壁工	幅		w	-30						
						高	さ	h	±30						
						延	長	L	-50						
6河川編	5 堰	6回	13 14		閘門工 土砂吐工	基	準 高	∇	±30		図面の寸法表示簡	所で測定。			
編		6可動堰本体エ				厚	さ	t	-20						
		体 工				幅		w	-30						
						高	さ	h	±30						
						延	長	L	-50						
6 河川編	5堰	7 固定	8 9		堰本体工 水叩工	基	準 高	∇	±30		基準高、幅、高 継手箇所及び構造				
編		固定堰本体工	10		土砂吐工	厚	さ	t	-20		測定。			w	
		1 1				幅		w	-30						
						高	خ	h	±30					h I t	
						堰長	L<	(20m	-50					<u>+</u> ,	
						L	L≧	≧20m	-100						

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6河川編	5 堰	8魚道工	3		魚道本体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長20mにつき1ヶ所、20m以下 のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
編		道 工				厚さ t ₁ , t ₂	-20	(なお、製品使用の場合の製品寸法は、 規格証明書等による)		
						幅 w	-30	风俗証明音寺による)	+ + + + +	
						高さ h ₁ , h ₂	-30		h ₂	
						延長L	-200		h1	
									1	
6河川編	5 堰	9管理橋下部エ	2		管理橋橋台工	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は図面の寸法表示箇所で測		
編		橋下				厚 さ t	-20	定。		
		部工				天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-10		W2 W1 W2 W1	
						天 端 幅 w ₂ (橋軸方向)	-10		h ₂ t	
						敷 幅 w₃ (橋軸方向)	-50		İ	
						高 さ h ₁	-50		w ₃ w ₃	
						胸壁の高さ h ₂	-30		W2 W1 W2 W1	
						天 端 長 🛭 🗜	-50		HH HH	
						敷 長 ℓ2	-50			
						胸壁間距離 0	±30		h1 h1 t	
						支 点 長 及 び 中心線の変 化	±50		<u> </u>	
									w ₃ w ₃	

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6河川編	6 排	4 機	6		本体工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。	L	
編	排水機場	機場本体工				厚 さ t	-20			
	793	Ĭ				幅 w	-30		<u> </u>	
						高さ h ₁ , h ₂	±30		[
						延 長 L	-50			
									h2 v t h1	
6	6	4	7		燃料貯油槽工			図面の表示箇所で測定。		
6河川編	6排水機場	4機場本体工	,		KK(1719. JU16 -1-	基準高▽	±30	四面の状外画がて対定。	L	
編	機場	本体				厚 さ t	-20		T	
						幅 w	-30			
						高 さ h	±30			
						延 長 L	-50			
									L L	
6	6	5	7		コンクリート床版工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。		
6河川編	6排水機場	5 沈砂池工				厚 さ t	-20			
4410	場	ヹ				幅 w	-30		L T	
						高 さ h	±30		w	
						延 長 L	-50			
									h	
									, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6河川編	7床止め	4床止めエ	6		本体工 (床固め本体工)	基 準 高 ▽ 天 端 幅 w₁	±30 -30	図面に表示してある箇所で測定。		
	・床固め	I				堤 幅 w ₂	-30		L1 wi	
	0,7					堤 長 L₁, L₂	-100			
						水通し幅1, 02	±50		Ψ μ / Ι	
									L ₂	
6河川編	7 床	4 床	8		水叩工	基 準 高 ▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある 箇所で測定。		
編	床止め・	4床止めエ				厚 さ t	-30	厚さは目地及びその中間点で測定。	L J	
	床固め	_				幅 w	-100		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
	Ø					延 長 L	-100			
									w	
6河川編	7床止め	5床固め	6		側壁工	基 準 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端		
編	止め・	直 め エ				天 端 幅 w ₁	-30	幅・天端高で各測点及びジョイント毎に		
	・床固め	_				堤 幅 w ₂	-30	測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又	L wi	
	め					長 さし	-100	は、測点に直角な水平延長を測定。		
									W2	

_					I					半江,Ш
編	章	節		枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
7	1 堤 防	5護岸基礎工	5		場所打コンクリートエ	基準高▽		施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ		
河川海岸編		基礎				幅 w	-30	所。	/ PV I	
編	護岸	Ĭ				高 さ h	-30		L L	
						延 長 L	-200		h w	
7 河	1 堤	5護	6		海岸コンクリートブロ ックエ	基 準 高 ▽		ブロック個数20 個につき1ヶ所の割で 測定。基準高、延長は施工延長20mに	/ On/	
河川海岸編	·堤 防 • 鑵	5護岸基礎工				ブロック厚 t		かた。		
編	護岸	工				ブロック縦幅w ₁ ブロック横幅w ₂	-20 -20	心上自かに フさとうが。		
						延 長 L	-200		t	
									\mathbf{w}_1	
7	1 堤 防	6護岸工	4		海岸コンクリートブロ ックエ	基 準 高 ▽	±50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ		
河川海岸編	iyi 護岸	工				法 見 0>5m	-100	所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領		
編	岸					l≥5 m	l× (−2%)	(案)」の規定による 測点の管理方法を用いることができ	$\stackrel{\wedge}{\Longrightarrow}$	
						厚 さ t	-50	る。	1////	
						延 長 L	-200		/ De t	
									A CONTRACTOR OF THE PARTY OF TH	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
	1		5		コンクリート被覆エ	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m		
7河川海岸編	· 堤 防 •	6護岸工					—50	以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	V	
岸編	護岸					法 ℓ ℓ ℓ≥3 m	-100	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による	1 2 200	
						~= 0	-20	測点の管理方法を用いることができ	1 to	
						厚 t <100 t t ≥100	-30	ప .		
								-		
						裹 込 材 厚 t'	—50			
						延 長 L	-200			
<u> </u>			•					#=7500 /= + 4 7 7 7500 WT 0		
フ河川海岸編	1 堤 防	8天端被覆工	2		コンクリート被覆工	基準高▽	±50	施工延長20m につき1ヶ所、延長20m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。		
海岸	謹	被覆				幅 w	-50			
編	護岸	Ï				厚 さ t	-10		W W	
						基 礎 厚 t'	-45			
						延長L	-200		/: \frac{t}{t},	
									7.1	
7	1	a	3		波返工			施工延長20m につき1ヶ所、延長20m以下の		
河川	· 堤 防 •	9波返工	0			基準高▽	±50	ルエ延及2011にファイケが、延及2011以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。		
フ河川海岸編	護岸	Ĩ				幅 w ₁ , w ₂	-30			
編	岸					高さ h<3 m h1、h2、h3	-50		W ₁ W ₂	
						高さ h≧3m h₁, h₂, h₃	-100		T h ₂	
						 延 長 L	-200		h ₁) h ₃	
						~ ^ -			1 13	
									/ /	
									</td <td></td>	

編	章	節	条	枝番	工種		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
7	2 突堤	4 突	4		捨石工		本 均 し	±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。		
7河川海岸編		突堤基礎工					表 面 均 し	±100			
編	人工岬	エ				基準	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500		0 5	
						高	以外の高さ は 以外の高さ	±300		w ₁ .(L ₁)	
						▽-	関形ブロック据付面 (乱積)の高さ 復り 以下では、現代では、現代では、現代では、対策を表現して、対策を表現りを表現して、対策を表現して、対策を表現して、対策を表現して、対策を表現して、対策を表現して、対策を表現して、対策を表現して、対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対	±500		2	
							均 し 異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300			
							法 長 ℓ	-100	幅は施工延長20m につき1ヶ所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、延		
							天 端 幅 w ₁	-100	長はセンターライン及び表裏法肩。		
						7	∈ 端 延 長 L₁	-200			
7 河	2 突堤	4 突	5		吸出し防止工		幅 w	-300	施工延長20m につき1ヶ所、延長20m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。	L L	
フ河川海岸編		4 突堤基礎工					延 長 L	-500			
編	人工岬	Ĭ.								w	
7	2 突 堤	5 突 _世	2		捨石工	基準高▽	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。		
7河川海岸編	人工	突堤本体工				高▽	異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300		2 3 4	
柳田	神	_					法 長 ℓ	-100	幅は施工延長20m につき1ヶ所、延長 20m 以下のものは1施工箇所につき2	0 0	
							天 端 幅 w ₁	-100	ヶ所、延長はセンターライン及び表裏 法肩。		
						-	€ 端 延 長 L₁	-200	/AA/13 0	W1.(L1)	

Г	細	쇼	44	々	++-==	T #		+19 +1/2 /広	201 - + 44		+ 元
-	編 7可川毎羊編	章 2突堤・人工岬	節 5突堤本体工	条 5	枝番	エ 種 海岸コンクリートブロックエ	測 定 項 目 (層積) ブロック 規格26 t 未満 (層積) ブロック 規格26 t 以上 (乱 積) 天 端 幅 w 天 端 延 長 L	規格値 ±300 ±500 ±ブロックの 高さの1/2 ーブロックの 高さの1/2 ーブロックの 高さの1/2	測 定 基 準 施工延長20m につき1ヶ所、延長20m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。延長は、セ ンターラインで行う。	測定箇所	摘要
	7可川毎岩編	2突堤・人工岬	5突堤本体工	9		石枠工	基準高 ▽ 厚 さ t 高さh h ≤ 3 m 延 長 L	±50 -50 -50 -100 -200	施工延長20m につき1ヶ所、延長20m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。	h #	
	7可川毎羊編	2突堤・人工岬	5突堤本体工	10		場所打コンクリートエ	基準高▽ 幅 w 高さh 延長L	±30 -30 -30 -200	施工延長20m につき1ヶ所、延長20m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。	h V	

編	章	節	条	枝番	工 種		測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
7 河	2 突 堤	5 突	11	1	ケーソンエ (ケーソンエ製作)	バ	砕 石 、 砂	±100	各室中央部 1 箇所		
7河川海岸編	炎 人工岬	5突堤本体工				ラストの基準高マ	コンクリート	±50		h ₁	
						-	壁 厚 t ₁	±10	底版完成時、各壁 1 箇所	$\frac{1}{1}$ $\frac{t_2}{t_2}$ $\frac{t_2}{1}$ $\frac{1}{1}$ $\frac{1}{1}$	
							幅 w	+30, -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端	t ₁	
							高 さ h ₁	+30, -10	完成時、四隅		
							長 さ L	+30, -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端		
							底版厚さ t ₂	+30, -10	底版完成時、各室中央部 1 箇 所	L	
						,	フーチング高さ h₂	+30, -10	底版完成時、四隅		
7河川海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	11	2	ケーソンエ (ケーソンエ据付)	;	法線に対する出入 1 、2	ケーソン重量 2000 t 未満 ±100 ケーソン重量 2000 t 以上 ±150	据付完了後、両端2箇所		
							据付目地間隔	ケーソン重量 2000 t 未満 100以下	据付完了後、天端2箇所	H 2'	
							1'、2'	ケーソン重量 2000 t 以上 200以下		_	
河川	2 突堤・	5 突 堤	11	3	ケーソンエ(突堤上部工)	基準高▽	陸上	±30	1室につき1箇所(中心)	w w	
7河川海岸編	· 人工岬	5 突堤本体工			場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	高▽	水中	±50			
	岬						厚 さ t	±30		<u> </u>	
							幅 w	±30		T T	
							長 さし	±30			

編	章	節	条	枝番	工 種	;	則定項	1 目	規格	値	測	定	基	準	測 定 箇 所	i	摘要
7河川海岸編	2突堤・人工岬	5突堤本体工	12	1	セルラーエ (セルラーエ製作)	, i		ţ t w \$ h	±10 +20, - +20, - +20, -	10	型枠取外し後	全数			h t t	t	
7河川海岸編	2 突堤・人工岬	5突堤本体工	12	2	セルラーエ (セルラー工据付)	Į.	法線に対 出入 1 群接ブロッ 間隔 1	、 <u>2</u> ックと	±50 50以下		据付後ブロッ	ク1個	に2箇所	f(各段毎)	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	= _	
7河川海岸編	2突堤・人工岬	5突堤本体工	12	3	セルラーエ (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	幅		上 中 s t w	±30 ±50 ±30 ±30		1室につき1	箇所(中心)			t	
7河川海岸編	2 突堤・人工岬	6根固め工	2		捨石工	7	(乱積 異形プロ (乱積) 」		±500 ±300 -100 -100 -200		施工延長 10m 点以上測定。 幅は施工延長 以下のものは 長はセンター	20m に 1施工	:つき 1 · 箇所につ	ヶ所、延長20m)き2ヶ所、延	Zan Zan		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
7 河	2 突堤·	6根	3		根固めブロックエ	基準高	層積	±300	施工延長 40mにつき 1 箇所、延長 40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇	L ₁	
河川海岸編	堤・	根固めエ				∇	乱 積	± t ∕ 2	所。		
編	人工岬					厚	è t	-20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。		
	μт					幅w₁	層積	-20			
						\mathbf{w}_2	乱積	- t ∕ 2		L ₂	
						延長L₁	層積	-200	1 施工箇所毎		
						L ₂	乱積	- t ∕ 2		t [
7 河	2 突堤・	7消	3		消波ブロックエ	基準高	層積	±300	施工延長20m につき1ヶ所、延長20m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。	L ₁	
河川海岸編	堤・	消波工				∇	乱積	± t / 2		W1	
編	人工岬					厚	ð t	-20	幅、厚さは20 個につき1ヶ所測定。		
						幅	\mathbf{w}_1 , \mathbf{w}_2	-20			
						延	長 L ₁ , L ₂	-200			
7 河	3 海	3 海	3		捨石工	4	ち 均 し	±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。		
フ河川海岸編	3海域堤防	3海域堤基礎工				基 荒均し	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500	点以上例此。	2 3 4	
編	・(人エリ	礎工				準しる	異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300		0/ 8_	
	リーフ、					▽被覆均	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500			
	、離岸堤、					均し	異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300		W1.(L1)	
						法	長し	-100	幅は施工延長20mにつき1箇所、延長 20m以下のものは1施工箇所につき2		
	潜堤)					天	端 幅 w ₁	-100	箇所、延長はセンターライン及び表裏 法肩。		
						天立	湍 延 長 L₁	-200			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
8砂防編	· 堤	3工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	部 材	±3 ℓ≤10 ±4 ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。		
8砂防編	1砂防堰堤	8コンクリート堰堤工	4		コンクリート堰堤本体工	基準高マ 天端部 W ₁ , W ₃ 堤幅 W ₂ 水通しの幅ℓ₁ℓ ₂ 堤長 L ₁ , L ₂	±30 -30 ±50 -100	図面の表示箇所で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定により管理を行う場合は、堤長の変化点で測定。	L1 W1	
8砂防編	1 砂防堰堤	8コンクリート堰堤工	6		コンクリート側壁エ	基 準 高 ▽ 幅 w ₁ , w ₂ 長 さ L	±30 -30 -100	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定により管理を行う場合は、堤長の変化点で測定。	X / /	

編	章	節	条	枝番	I	種		測定	項	目	規	格	値	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
8砂防編	1砂防堰堤	8コンクリート堰堤エ	8		水叩工			基幅厚延	高き長	w t		±30 -100 -30		領(案)」の 用いることか 測技術を用い	:。 びその 則技術で 規定 さる いた出来	中間点できまれた。たればしまれたが、これで理事		Г	t	L w			
8砂防編	1砂防堰堤	9鉄製堰堤工	5	1	鋼製堰堤本体工 (不透過型)		7k	堤		-		±50		1. 図面の表 2. ダブルウ 高、幅、袖	オール	構造の対	場合は、堤]				
が開	· 堤	堤工					水通し部	長 幅 下流(w ₁ ,	± ℓ • w ₃		±100 ±50 :0.021		同、幅、作	igits i	0 7 <i>)</i> , т п	ᄗᄰᄱᄺ	\ <u>_</u>	01 02	_/	W1 W3 		
							袖部	福下流	制倒れ	w ₂		±50 ±50						7		,	H ₁ W 2 Δ		

単位:mm

編	章	節	条	枝番		種	測定項目	規	! 格値			 準	測 定 箇 所	摘要
8砂防編	1砂防堰堤	9鉄製堰堤工	5	2	鋼製堰堤本体工 (透過型)		堤長L		±50		図面の寸法表示箇所で測定			
							堤長ℓ		±10	1			h H	
							堤幅W		±30				li i	
							堤幅w		±10				$\mathbb{E}_{\mathbf{W}+\mathbf{W}+\mathbf{W}}^{\mathbb{I}} = \mathbb{E}_{e}^{\mathbb{I}} e^{e}$	
							高さH		±10				 	
							高さh		±10		H W P P	in hin h	H www e lee e e www. www. e e e e e e e e e e e e	
					(次頁に続	·<)								

編	節	条		エ	種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
編8砂防編	節 9鉄製堰堤工	条 5	枝番 2	I	種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
								H	LH	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8砂防編	1 砂防堰堤	9鋼製堰堤工	6		鋼製側壁工	堤 高 ▽ L 幅 w ₁ , w ₂ 下流側倒れ ⊿ 高さ h ← 3 m h ≥ 3 m	±50 ±100 ±50 ±0.02 H -50	1. 図面に表示してある箇所で測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤 高、幅、袖高は+の規格値は適用し ない。	$\frac{\mathbb{E}}{\mathbb{E}}$ \mathbb{E}	
8 砂防編	2 流路	5床固め工	8		魚道工	基準高▽ 幅 w 高さh ₁ , h ₂ 厚さt ₁ , t ₂ 延長 L	-30 -30	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。なお、製品使用の場合は、製品寸 法については規格証明書等による。	h ₁	
8砂防編	3 斜面対策	6山腹水路工	4			基準高▽ 厚さt ₁ , t ₂ 幅 w 幅 W ₁ , W ₂ 高さh ₁ , h ₂ 深さh ₃ 延長 L	-20 -30	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。(なお製品使用の場合は、製品寸法 は、規格証明書等による)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	描 要
8 #b	3 쉮	7 #h	4		集排水ボーリングエ	削 孔 深 さ 0	設計値以上	全数		
8砂防編	3 斜面対策	地下水排除工					100		d 、	
	策	排除工				せん孔方向 <i>θ</i>	±2.5度			
		_								
									x	
									$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
									u – γx + y	
					16			A Wil water		
8砂防編	3斜面対策	7地下水排除工	5		集水井工	基準高▽	±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。	w	
編	対策	水排				偏心量 d	150			
		除工				長 さ L	-100		(3) I y	
						巻 立 て 幅 w	-50		Ŭ U	
						巻立て厚さ t	-30		x	
									$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
									- VA I y	
8	3	9	6		合成杭工	基 準 高 ▽	±50	全数測定。		
8 砂 防 編	3斜面対策	9抑止杭工				偏心量 d	D/4以内			
17110	策	Ï				<u>™ 'U' </u>	かつ100以内			

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規格値		測 定 箇 所	摘要
	1	4 ダ			コンクリートダムエ		±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。	··· ·- - ···	
9 ダム編	・コンクリ	ム			(本体)	天端幅	±20	2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。	天端幅	
4710	Ú 	コンクリ				ジョイント間隔	±30	①天端高(越流部堤頂高を含む)は、 各ジョイントについて測定。	Ä	
	トダム	ĺ				リフト高	±50	②堤幅、リフト高は、各ジョイント		
	Д	H,					-30, +50	について5リフトごとに測定。 (注)堤幅、リフト高の測定は、	堤幅	
						- 堤 長	-100	上下流面型枠と水平打継目の接 触部とする。(堤幅は、中心線又	-181 181 181	
						· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	100	は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔(横継目)は、5	堤幅	
								リフトごと上流端、下流端を対象	堤長	
								に測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。	* ************************************	
								3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平		
								坦性の測定方法は、監督職員の指 示による。		
								②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性	ジョイント関隔	
								などの測定方法は監督職員の指示 による。	(注)1. j:ジョイント	
									(11)	
9ダム編	1 ロン	4 ダム			コンクリートダムエ (水叩)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標		
編	ンクリ	ムコン			(23.11)	ジョイント間隔	±30	準とする。 (①天端高(敷高)、ジョイント間は各	<u>長さ</u>	
	۲ 	クリ				幅	±40	ジョイント、各測点の交点部を測	V V	
	ダム					長 さ	-100, +60	定。 ②長さは、各ジョイントごとに測定。		
		エ						③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督職員の	n\ /n	
								指示による。		
									\\	
									. 	
									1 2/13/公司 選	
									長さくし、一〇八一 別点	
									- 福 - I	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
9ダム編	1 1.	4 ダム コンクリ			コンクリートダムエ (副ダム)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標		
編	・コンクリ	ムロン				ジョイント間隔	±30	準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測	堤幅	
	li	クリ				リフト高	±50	定。	リフト高	
	トダム	H7—				堤幅	−30 , +50	②堤幅、リフト高は、各ジョイント について3リフトごとに測定。	堤幅 181 181	
		_				堤 長	±40	(注) 堤幅、リフト高の測定は、 上下流面型枠と水平打継目の接	八、堤長、八	
								触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。		
									提長 測点 測点 測点 測点 測点 測点 測点	
									測点 拠点 上 上 上 フ:ジョイント	
									1.23427	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
9 ダム編	1	4 ダ			コンクリートダムエ (導流壁)	天 端 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標		
ム編	・コンクリ	4ダムコンクリ			(守 加 主/	ジョイント間隔	±20	準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又は		
	1					リフト高	±50	ジョイントごとに測定。		
	- ダ ム	H7—				長き	±100	②リフト高、厚さは、各測点、又は ジョイントについて3リフトごと	天端幅	
						厚さ	±20	に測定。 (注)リフト高、厚さの測定は、	├ ─	
								(注) リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。	原	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
9ダム編	2フィルダム	4盛立工	D C		コアの盛立	基準高 ▽ 外側境界線	- o - o, +500	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種(タンピング ローラ)の場合		
9ダム編	2フィルダム	4盛立工	6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽ 外 側 境 界 線 盛 立 幅	-0 -0, +1000 -0, +1000	各測点について5層毎に測定。	ロック幅	
9ダム編	2フィルダム	4盛立工	7		ロックの盛立	基 準 高 ▽ 外 側 境 界 線	-100 - o, +2000	各測点について盛立5m毎に測定。		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
9 ダム編	2 フ ィ				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 1回/1施工箇所		
編編	イルダム				()()()(±/)	ジョイント間隔	±30	2. 1四2 1加工回기		
	Ĺ					厚 さ t	±20		w .	
						幅 w	±40			
						リフト高さ	±20		↓ ↓ ↓ リフト高	
						長 さし	±100			
									ジョイント間隔	
9 ダム編	3 基	3ボーリングエ			ボーリングエ	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で		
編	グラ	リリン				配置誤差	100	行うカーテングラウトに適用する。		
	3基礎グラウチング	グエ								
	グ								_	
									97	
									L	
									U*	

_																						111111
編	章	節	条	枝番	工 種		測	直項	目	規	格	直	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
10 道路編	1道路改良	3 製作工	2		遮音壁支柱製作工	部材	部	材長ℓ	(m)		3····ℓ≦ ····ℓ>		図面の寸法表	示箇所	で測定。							
10 道	1 道	9 力	6		場所打函渠工		基	単 高	∇		±30		両端、施工継 所で測定。	手及び	図面の	寸法表示 箇	t1 ,	v t ₂		L		
路	路改良	ルバ					厚さ	t 1~	t ₄		-20		所で測定。				, → - -	11	<u> </u>			
編	良						幅(内	(法)	w		-30						t ₃ +					
		Ţ					高	さ	h		-30						h					
						L 延 長		L<20)m		-50						t4 4 (22)	(2)	(222)			
						一長		L≧20)m		-100											
10 道	良 1 道	害11 防落	4		落石防止網工		幅		w		-200		1施工箇所毎 「3次元計測技術を	を用いた!	出来形管理要	要領(案)」の規定に						
路編	路改						延	長	L		-200		よる測点の管理方法	きを用いる	らことができ	きる。ただし、「3次 ③)」の規定により管						
10 道 路 編	1道路改良	11 落石雪害防止工	5		落石防護柵工		高		h		±30		理を行う場合は、3 施工延長20 n 20 m 以下の 2 ケ所。 「3次元計測技術者 よる測点の管理方法 1 施工箇所毎	n に つ も の は E用いた出 まを用いる	き 1 ヶ戸 : 1 施 エ : _{来形管理要}	簡所につき	[:]	h	ŀ	L		
							<u>~</u>	K			200		規定による測点の ただし、「3次5 (案)」の規定に 点で測定。)管理方 記計測技 より管理	法を用いる 術を用いた 目を行う場	た出来形管理要領 合は、延長の変化	AN	ह्या /				
10 道路編	1道路改良	11 落石雪害防止	6		防雪柵工		高	ż	h		±30		よる測点の管理方法	のは	1 施工筐	前所につき 2 ^{要領 (案)} 」の規定に		h h	I			
		生					延	長	L	-	-200		る測点の管理方法を	用いること 形管理要例	とができる。 顏(案)」 <i>の</i>	【(案)」の規定によ ただし、「3次元計 が規定により管理を行	_		h E			
						基礎	幅	v	v ₁ , w ₂		-30		基礎1基毎 「3次元計測技術を	用いた出	出来形管理要	要領(案)」の規定に				4 6 6 7 6		
						礎	高	ō	≛ h		-30		よる測点の管理方法					W1	-	W2		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工	種		測	定 項	i 🛮	規 格 値	測	定 基	準	測 定 箇 所 摘	要
10 道路編	1道路改良	11 落石雪害防止工	7		雪崩予防柵工			高	ż	h	±30	20m 以下のも ヶ所。		⊤所、施工延長 Ľ箇所につき2	4/12 <u>L</u>	
1110	良	害防						延	長	L	-200	1施工箇所毎				
		뱦					基礎	幅		w ₁ , w ₂	-30	基礎1基毎				
							诞	高		さ h	-30				dat Alva	
							アンカー	打	込	み l	-10%	全数			h (AVV)	
							長	埋	込	みl	-5%				W1 W2	
10 道	1 道	12 遮	4		遮音壁基礎工		幅			w	-30			ヶ所、施工延長 工箇所につき2		
路編	-道路改良	音						高	5	h	-30	ヶ所。			<u> </u>	
柳	戍	壁 工						延	長	L	-200	1 施工箇所毎				
															h	
															_*	
1 0	1 道	1 2	5		遮音壁本体工			間		隔 w	±15	施工延長5ス	パンにつき	:1箇所	<u>, L</u>	
道路	1道路改良	遮音					支	ず		ћ a	10	_			<u>k d</u>	
路編	艮	壁					柱	ね	じォ	b-c	5	1				
		エ						倒		れ d	h × 0. 5%					
								高	2	h	+30, -20				——————————————————————————————————————	
								延	長	L	-200	1施工箇所毎	_		h TX T C	

					1					1				1					• 111111
								規	格値										
編	章	節	条	枝番	ェ	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均 (X ₁₀)	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模小規模以上以下	中規模 以上										
10 道	2舗装	4舗装工			歩道路盤工 取合舗装路盤工		基準高▽	±50	_	基準高は片側で測定。	延長20m	1 毎に1	ヶ所の割	工事規模の考中規模とは、		たりのタ	拖工面積		
路編	表	五			路肩舗装路盤工		厚さ	t < 15cm -30	-10	厚さは、片側 起こして測定		m毎に1	ヶ所掘り	が2000 ㎡以」 小規模とは、		-	D加熱ア		
							F C	t ≧ 15cm -45	—15	幅は、片側延 ※両端部2点		-	r 所測定。	スファルト混 未満あるいは					
							幅	-100	_	「3次元計測	技術を原	用いた出	出来形管理要領	厚さは、個々 上の割合で規	投店も	# P I #	こしかしぎょこ		
										(案)」の規いることがで	定により	る測点 <i>0</i>	D管理方法を用	らないという。 値(X 10)にない。ただし 未満の場合はない。 本満の場合はない。 本ではない。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	に、10、10、原定 のででは、いてきでは、いてきでは、アラスのではないでは、アラスのではないではないでは、アラスのではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	個の測 満のの 開足で 野 取 取 ある 場	定値の平均 にければなら な数が10 個 直は適用し より床版等 場合は、他		
10	2	4			歩道舗装工		后 +	-		幅は、片側延	長 40m	毎に 11	簡所の割で	-					
道路	2 舗 装	舗装			取合舗装工路肩舗装工		厚さ	-9	-3	測定。厚さは 所コアーを採	、片側?	延長40r							
編		Ĭ			表層工		幅	—25 ———————————————————————————————————	_	「3次元計測	技術を原定による	用いた出	出来形管理要領 D管理方法を用						

_		_	-		1										平位, IIIII
彩	= 章	章 食	節	条	枝番	エ種	測	定	項	目	規	格	値	測定基準測定箇所	摘 要
1() 追	新装	2.捕麦 15封刃棒造牧工		9		排水性舗装用路肩排水工	基	準	高	\triangleright		±30		施工延長20m につき1ヶ所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術 を用いた出来形管理要領 (案)」の規定によ る測点の管理 方法を用いることができる。	
							延		長	٦		-200	1	1ヶ所/1施工箇所 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術 を用いた出来形管理要領 (案)」の規定によ る測点の管理 方法を用いることができる。	
10 道		2 7 消 路	7 沓	4		踏掛版工 (コンクリートエ)	基	準		高		±20		1箇所/1踏掛版	
路	ì	講は対対を対しています。	卦				各音	ß の	厚	خ خ		±20		1箇所/1踏掛版	
絲	Ħ		-				各音	ß の	長	خ خ		±30		1箇所/1踏掛版	
						(ラバーシュー)	各音	ß の	長	خ		±20		全数	
							厚					_			
						(アンカーボルト)	中心	〉の	ず	れ		±20		全数	
							アン	ノ カ	_	長		±20		全数	
10 追		2 捕 横 装 詰	9 票	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅	,	w ₁ ,	\mathbf{w}_2		-30		基礎一基毎	
路線	1	支	戦 L				高		さ	h		-30		「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用 いることができる。	
														w ₂	
10 道		2 捕 枝 詰	9 票	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置	高き		Н	設	計値以	止	1 箇所/1 基	
経解	1	支 請	戦 上			Уканеро (д. — 7								「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10		12	5		ケーブル配管エ			接続部間毎に1箇所		100 女
道 路	2 舗装	道				埋設深t	0.5 +30	接続部間毎で全数	E t	
路編		路 付				延 長 L	-200	技術の門町毎で主数	000	
		属施							i	
		設							k L	
		エ								
									接続部 接続部 (地上機器部)	
									(地工機备即) (地工機备即)	
10 道	2 舗装	12 道	5	2	ケーブル配管エ (ハンドホール)	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		
路	装	路			(12 14 72)	※厚さ t₁∼t₅	-20	W.1-10-(90 8) 1 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	t _s —	
編		付 属				※幅 w ₁ , w ₂	-30		w ₁	
		施 設				※高さ h ₁ , h ₂	-30		t ₁ W ₂ t ₂	
		ĭ							h ₁ h ₂	
									ts	
10	2 舗 装	12	6		照明工	·····································	-30	1箇所/1施工箇所		
道 路	装	道 路			(照明柱基礎工)	高 さ h	-30			
編		付 属								
		施								
		設 工							(°) w	
									₩ ₩	
									h h	
									"	

編	章	節	条	枝番	I	種		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路編	3橋梁下部	3工場製作工	თ		鋼製橋脚製作工		部	脚柱とベースプレ 一トの鉛直度 よ (mm)	w/500	各脚柱、ベースプレートを測定。	脚柱 ベースプレート	
							材	ベ 孔の位置 ス	± 2	全数を測定。	\$\sqrt{008}	
								プ レ I 孔 の 径 ト	0~5	全数を測定。	^d 8	
							仮組	柱の中心間隔、 対角長L(m)	±5 L≤10m ±10 10 <l≤20m ± (10+ (L- 20)/10) 20m<l< td=""><td>両端部及び片持ばり部を測定。</td><td>L L</td><td></td></l<></l≤20m 	両端部及び片持ばり部を測定。	L L	
							立 時	はりのキャンバー 及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000	各主構の各格点を測定。	8 → ★ 6 8 → 8 ● 8 ● 1 ● 1 ● 1 ● 1 ● 1 ● 1 ● 1 ● 1 ●	
								柱の鉛直度 δ (mm)	10···H≤10 H···H>10	各柱及び片持ばり部を測定。 H:高さ(m) -	● ● ● ● 画 図 正 画 図	

編	章	節	条	枝番	工種		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路編	3橋梁下部	6橋台工	8		橋台躯体工		基 準 高 ▽ 厚 さ t	±20 -20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。	h ₂ W ₁ W ₂ W ₁	
							天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-10	なお、従来管理のほかに「3次元計測技術 を用いた出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いること	İ T	
							天 端 幅 w ₂ (橋軸方向)	-10	ができる。(アンカーボルト孔の鉛直度を 除く)	w ₂ w ₃ w ₃ w ₃ w ₄ w ₂ w ₃	
							敷 幅 w ₃ (橋軸方向)	-50	ただし、「3次元計測技術を用いた出来形 管理要領 (案) 」に基づき出来形管理を実施 する場合は、同要領に規定する計測精度・	h ₁	
							高 さ h	-50	計測密度を満たす計測方法により出来形管 理を実施することができる。	Wa Wa	
							胸壁の高さ h2	-30		X88	
							天 端 長 🛭 1	-50			
							敷 長 ℓ₂	-50		c c	
							胸壁間距離 0	±30		al	
							支 間 長 及 び 中心線の変位	±50		h1 - 1 - 1	
						2.7	ž B	+10~-20	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値の半面位置は沓座の中心ではなくアンカーボルトの箱抜きの中心で測定。 アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸	1.2	
						7	ァート 平面位置	±20	方向、橋軸鉛直方向で十字に切った2隅で 計測。	# #	
						7 6 分 书 表 表 木 们	う 直 フンカーホ [*] ルト孔の 記 鉛直度	1/50以下		中国記者 - 実験 - 実験 - 受計 - 受計 - 受計 - 受計 - 受計 - 受計 - 受計 - 受	
										アンカーボルトスの発音度 実施的 学者図 ・・ 海野	

編	章	節	条	枝番	I	種	;	BI '	定 ュ	百 月		規	格	値			定	基	———— 進		;	 測 定	籄	5 i	 所	摘要
10 道		7 R	9		一 橋脚躯体工 (張出式)	1,12			<u>*</u>			796	±20		ŧ	グライス	折面寸:	去は中共	・ 央及び両 ^立	5端		w ₁	 e 81	. ,		IM X
路編	3橋梁下部	C橋脚工			(重力式) (半重力式)		J	孠	;	<u> </u>	t		-20)	Â	箱抜き形状の 支承便覧」	D詳細 こよる。	こついっ	ては「道路		-	<u>▼</u>	h	1		
							Э		端 輔力		w ₁		-20)	7	なお、従来管 を用いた出来 出来形計測性	形管理	要領(第	閣)」で規定	定する		w ₂	# #2	≓ [∓]		
							男	女 (桾	軸方	in)	v ₂		-50)	7	ができる。 (除く)					_5	<u>-</u> 7	h	7.		
							ř	高	;	ŧ I	h		-50)		ただし、「3							L <u>L</u>	÷		
							17.	Ę	端	長り	Q_1		-50)		管理要領(案) する場合は、							心理問題	<u>e</u>		
							Ī	敦		長(Q_2		-50)		計測密度を満 理を実施する				l来形管		<u> r - r r r r r r </u>	122	1		
							橋	脚中	心間	距离	雅 0		±30)								Щ	Ţ	Щ		
							支		長 線の				±50)								,	ç L	-		
							支承部		計	画高	·	+	10~-	-20	<u> </u>	支承部アンカ 面位置は沓座 トの箱抜きの アンカーボル	の中心 中心で	ではな [。] 測定。	くアンカー	ーボル]h		→! a1			
							アンカーボル		平司	面位置	翌		±20)		, フグ					al	(a1: (a2	I.2 繰り変化 機軸直角方 振軸方向	(A)		
							トの箱抜き規格値	Ī	?ンカーホ 鉛	がル子直度		1	بر50/	以下							F	#### F	**************************************		₹	
																					55° B	アンカーボル	一孔の知直度	BE	1960 1867	

編	章	節	条	枝番	エ	種	浿	ll d	三 項	目	規	格	i f	直	測	定	基	準			測 5	Ē	筃	所		摘要
10 道	3 橋	7 R	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)		基	<u> </u>	声高	∇		±2	0		橋軸方向の脚部、その他に				5端			w:				
路編	橋梁下部	C橋脚					厚	Ī	5	t		-2	0		箱抜き形状の 支承便覧」			ては「道	道路橋		Ţ	ΤĎ				
祁田	마	Ĭ T					天	站	片幅	\mathbf{w}_1		-2	0		なお、従来管	埋のほれ	かに「3]) <u> </u>	t		
							敷	ζ	幅	\mathbf{w}_2		-2	0		用いた出来形 来形計測性能	を有す	る機器	を用いる	らことが			w ₂	· ·			
							言	<u>,</u>	さ	h		-5	0		できる。(ア く)	ンカー	・ボルト	・孔の鉛直	重度を除		T	<u> </u>		1		
							1	Ę	さ	Q		-2	0		ただし、「3岁	7元計測	技術を	用いた出	来形管		h	47	H: H	1		
							橋服	却中小	心間 跙	離 0		±3	0		理要領(案)」 る場合は、同	要領に	現定する	る計測精度	度•計測			W ₂	w ₂ w ₂	2		
									長 ジ 線の変	及 び E位		±5	0		密度を満たす 実施すること			り出来形	が 管理を		r	東京中心関係 主集多		=		
							支承部ア		計画	高	+	10~	-2	0	支承部アンカ 面位置は沓座 トの箱抜きの アンカーボル 方向、橋軸鉛	の中心 中心で ト孔の	ではな 測定。 鉛直度	くアンカ	ーボルを橋軸			中心線の変	位			
							ンカーボルトの		平面	位置		±2	0		計測。	IE刀P	IC 1 1	-1-9377	_ Z PPA C			2:50				
							の箱抜き規格値			い孔の	1,	∕50J	以下							→ • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	**************************************		7×h-≪h	ルトイルの設置を	平高四 一 通助	

横 章 京 章 東京 現 格 値 別 定 章 所 摘 3 1 名	_						T	1				F 1
高さ h -50 長さ l -50 長さ l -50 最 お n -50 10 3 信報子市部 加工 基準 高 マ ±20 幅 w, w₂ -50 高 さ h -50 高 さ h -50 福 w, w₂ -50 高 さ h -50 高 さ h -50 高 さ h -50 福 w, w₂ -50 高 さ h -50 高 さ h -50 最 x 高 マ ±20 福 w, w₂ -50 高 さ h -50	i							測定項目	規格値		測 定 箇 所	摘 要
高さ h -50 長さ l -50 長さ l -50 最 お n -50 10 3 信報子市部 加工 基準 高 マ ±20 幅 w, w₂ -50 高 さ h -50 高 さ h -50 福 w, w₂ -50 高 さ h -50 高 さ h -50 高 さ h -50 福 w, w₂ -50 高 さ h -50 高 さ h -50 最 x 高 マ ±20 福 w, w₂ -50 高 さ h -50		0	3 橋梁	8 鋼製	9	1	橋脚フーチングエ (I 型・T型)		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。		
高 さ h		追路	下部	橋脚工					-50		T.L.	
10		編						高 さ h	-50		Zii ∠iiV → h	
T								長さり	-50		N/A	
T											₩ + h	
T	1	0 耸	3 橋	8	9	2	橋脚フーチングエ (関型)	基 準 高 ▽				
T	5	路	梁下部	製橋脚			(1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	幅 w ₁ , w ₂		即、その間は引及数外面別。	h 1 -	
文間長及び中心線の変位 ±50 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 (a1:機動度角方向) (a2:横軸方向)	1	洲	ПÞ	工				高 さ h	-50		w ₁	
文間長及び中心線の変位 ±50											I I	
文間長及び中心線の変位 ±50 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 (a1:機動度角方向) (a2:横軸方向)											W ₂ W ₂	
文間長及び中心線の変位 ±50 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 中心線の変位 (a1:機動度角方向) (a2:横軸方向)												
文間長及び中心線の変位 ±50	1	0 首	3橋	8	10	1		基 準 高 ▽				
文間長及び中心線の変位 ±50	5	路區	梁 下郊	製橋脚			(12)			THE CONTROL OF THE PARTY OF THE		
(a1:機軸页角方向) (a2:橋軸方向)	1	洲	пÞ	工					±50			
(a1:機軸页角方向) (a2:橋軸方向)												
											(a1:機軸直角方向)	
											41 42 4	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道	3橋梁下部	8	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。		
道路編	楽下が	8鋼製橋脚工			(1327)	橋脚中心間 距 離 0	±30	ALCONICIO PARAMENTO	Ä	
	司	型工				支 間 長 及 び 中心線の変位	±50		7	
									中心線の変位 (a1:接軸直角方向) (a2:横軸方向)	
									al a2	
									/ !i \ /!i\	
10 道	3 橋	8	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1 , δ_2 (mm)	5 ※± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		
路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚工				0 1, 0 2 (IIII)	<u> </u>			
49(11)	н	Ξ΄								
10 道	4 鋼	3 I	9		橋梁用高欄製作工		± 3······	図面の寸法表示箇所で測定。		
路編	4鋼橋上部	3工場製作工				部材長((m)	l≦10 ±4			
dam	HIP	芷					ℓ >10			

編	章	節	条	枝番	工種		測	定	項目	規	格	値		涯	則 定	基	ŧ	準		;	則	定	箇	所	摘	要
10 道路編	4 鋼橋上部	5鋼橋仮設工	10	1	支承工(鋼製支承)	水平度	可可可 支橋 可 同 一	対能 承軸 橋軸 すのみ対 動き 中直 標 種 すのみ対 動き	(の移動 注2) 心間隔向) 曲方向 向 角方向 向 紙のずれ が線上の	コンクリー 橋 ±5	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	量以上 鋼橋 4+0.5 × 3-2))	B 支はる場注定注し慮の注完詳 (の対象) の (の対象) で (のが、) に対象) で (の対象) で (のが、) に対象) で (のが	の水なを、る、支に格、後、平平お除先。可承、値可に面面、く固、動振移を動実	心 寸の支。定 支付動満 が低を 場 のの能す	800mmJ 差勾 合 遊十量ニ移 は 間フがと動 でも道を量	myり 支 La、B確検 は、A、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、B、	下とす : 据付ける : 上面 で : 上面 を計測 支承の 支表の こ。架 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。								
10 道路編	4鋼橋上部	5鋼橋仮設工	10	2	支承工(ゴム支承)	水平度	可可支橋	対影 承軸 橋 助ち一相 可 注 支量 中直 橋 軸 承の承対 動 支	成の移動 注2) 心間局方向 軸方向 直角方向 なのずれ が終上の	土5	±((B 1/3) 5	量以上 4+0.5 × -2)	上触接支はる場注定注し慮の注完詳部面触承、。合1)す2)、し規3)了細	I及面の水なを る 支で格 後びに平平お除先。可承、値可にゴ肌面面、く固 動振移を動実	おはずいの支。定 支付動満の水がが低を 場 ののの能す	と無800mの 含善遊す量二多。台いのを配 は 間フがと動座これ でも道を量	モとソミリ 支 にッ路確検ルを01に 承 しト橋認査	カ場合すける ・据 由) δ 承る、 ・ 上) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	U)							

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道路編	4 鋼橋上部	8橋梁付属物工	3		落橋防止装置工	アンカーボ ルト孔の削 孔長	設計値以上	全数測定		
						アンカーボ ルト定着長	-20以内 かつ-1D以内	全数測定 D:アンカーボルト径(mm)		
10 道 路	4 鋼橋上部	8橋梁付属物工	5		地覆工	地覆の幅 w ₁	−10~+20	1径間当たり両端と中央部の3箇所測 定。	W1 W2	
編	部	属 物 工				地覆の高さ h	−10~+20		h	
						有効幅員 w ₂	o~+30			
10 道 路	4鋼橋上部	8橋梁付属物工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	天 端 幅 w	1 -5~+10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測 定。	(C) †	
編	部	馬 物 工				地 覆 の 幅 w2	−10~+20		h1	
						高 さ h1	−20~+30			
						高 さ h2	-10 ~ +20			
						有 効 幅 員 w3	0~+30		W2 W1 W3	
									h1	
									h2	

編	章	節	条	枝番	エ 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道 路 編	4 鋼橋上部	8橋梁付属物工	8		検査路工	幅	± 3	1 ブロックを抽出して測定。		
					0	高さ	± 4	La A disc		
10 道	5 コン	6プレビ-	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	± 5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ		
路編	コンクリ					高 さ h	+10 -5	シング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央	T	
	ト橋上部	-				桁 長ℓスパン長	<pre>l<15···±10 l≥15··· ± (l-5) かつ -30mm以内</pre>	部の3箇所とする。 ℓ:スパン長	h	
						横方向最大タワミ	0.80		w	
10 道路編	6トンネル(NATM)	4支保工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設以良施部箇付3する。計上好工等所け以るのは厚上も付だ盤突珠計1確とけしまる。	施工延長 20m毎に図に示す。 (1) ~ (7) 及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)・同解説にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。	(2) (1) Q (3) 東エコンクリート 吹付コンクリート (4) (5) S.L. (6) (7)	
10 道	6 h	4支保工	4		ロックボルトエ	位 置 間 隔	_	施工延長 20m毎に断面全本数検測。		
路編	ンネル	1年 工				角度	_			
गुशा	\widehat{N}					削 孔 深 さ	_			
	A T M					孔 径	_			
	<u>\</u> \(\)					突 出 量	プレート下面 から10㎝以内			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道	6 -	5 覆 工	3		覆エコンクリートエ	基準高(拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工20mに つき1箇所。		
路編	ンネル	-				幅 w(全幅)	—50	(2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間		
4700	\widehat{N}					高さh(内法)	—50	を1打設長の終点を図に示す各点 で測定。中間部はコンクリート打		
	A T M					厚 さ t ₁ , t ₂	設計値以上	設口で測定。		
	l W					延 長 L	_	(ロ) コンクリート打設後、覆エコン クリートについて 1 打設長の端面		
								「他工経手の位置」において、図に示する場合の巻厚測定を行う。 (水) 検測孔による巻厚の測定は図の (1)は 40mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が40m以下のものについては、1トンよルルッ当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、適用除外とする。 ・良好な地山における岩又はで、の規格値は適用除外とするのに取り上の部分的な突出で、なお、変形が収束しているものに限る。 ・良好な地山における岩又はで、型やの据を地山による覆工が確認でで、かの1以下のものに限る。 ・異常付け時にによる覆工が確認されている。 ・異常付け時的にで、型やの据構造場合。 ・銅手法についば、を理のほ形を理要領(案)」で規定する出来形計理要領(案)」で規定する出来形計測性を有する機器を用いることが出来る。	t i (1) (3) 種エコンクリート (4) (5) (7) : (5) (7)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道路編	6トンネル(NATM)	5 覆 工	5		床版コンクリートエ	幅 w 厚 さ t	-50 -30	施工延長20m につき1ヶ所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。		
10 道路編	6トンネル(NATM)	6インバートエ	4		インバート本体工	幅 w (全幅) 厚 さ t ₁ , t ₂ 延 長 L	—50 設計値以上 —	(1) 幅は、施工20mにつき1箇所。 (2) 厚さ (4) コンクリート打設前の巻立空間 を1打設長の終点を図に示す各点 で測定。中間部はコンクリート打 設口で測定。 (D) コンクリート打設後、覆エコン クリートについて1打設長の端面 (施工継手の位置)において、図 に示す各点の巻厚測定を行う。	9. 8.L. (1) (2) (3)	
10 道路編	6トンネル(NATM)	8坑門工	4		坑門本体工	基準高▽ 幅 w ₁ , w ₂ 高さh h < 3 m h ≥ 3 m 延長L	±50 -30 -50 -100 -200	図面の主要寸法表示箇所で測定。	$\begin{array}{c c} L & w_1 \\ \hline \end{array}$	

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
	0 道	6 -	8 坑 門 工	5		明り巻工	基準高(拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長 20mにつき1箇所を測定。	t	
	路編	-ンネル	門工				幅w(全幅)	-50	なお、厚さについては図に示す各点① ~⑩において、厚さの測定を行う。	h	
1	姍	N N					高さh(内法)	-50	- 〜 (())において、厚さの測定を行う。	(w)	
		A T					厚 さ t	-20			
		<u>M</u>					延 長 L	_		2 P 3	
										(アーチ部) 600 600	
										(側壁部) (側壁部) ⑦	
										(インパート部)	
										8 9 0	
		11 共	6 現	2		現場打躯体工	基 準 高 ▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表 示箇所で測定。		
į į	路	同溝	6 現場打構築工				厚 さ t	-20	TEM TIME		
'	MH)	/ F3	築工				内空幅w	-30		[2000]	
							内空高h	±30		t w t w t w t w t	
							ブロック長 L	—50		MAMA	
		11 共	6 現	4		カラー継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所で測定。		
l	路	同	場打				幅 w	-20			
1	編	溝	6現場打構築工				長 さし	-20		t L	
										w w	

		1							ī	T		<u> </u>
編		節	条	枝番		測定	至 項	目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	商 要
10 道路編	共 同	6現場打構築工	5	1	防水工 (防水)	幅		w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。	W W	
10 道路編	共 同	6現場打構築工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚	3	t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。	t]	
10		6 珥	5	3	防水工	高	ż	h	-20	図面の寸法表示箇所で測定。	Ţ	
道路編	同	場打			(防水壁)	幅		w	±50			
補	溝	6現場打構築工				厚	 خ	t	-20		h	
											₩ →	
10 道路編	共 同	7プレキャスト構築エ	2		プレキャスト躯体工	基	革 高	∇	±30	施工延長 20mにつき1箇所、延長20m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。ただし、基準高の適用は据付後の 段階検査時のみ適用する。	L L	
		人ト構				延	長	L	-200	延長: 1 施工箇所毎		
		二										

編	章	節	条	枝番	工種	 測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10	부 12		2		生 性 管路工(管路部)			関	期 足 固 別	拘 安
道	電	5電	_		官的工(官的部)	埋 設 深	0~+50			
路	線	科				延 長 L	-200	接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】	G t	
編	共同	電線共同溝工								
	溝	_							00.00	
									00 00 00	
									VIII AUD	
									L d	
									接続部 接続部	
									(地上機器部) (地上機器部)	
10 道	12 電	5 電	3		プレキャストボックスエ (特殊部)	基 準 高 ▽	±30	接続部(地上機器部)間毎に1箇所。		
路	線	電線共同溝工			(1378HP)					
編	共同	同溝								
	溝	エ							C 5	
10	12	6	2		ハンドホールエ			1箇所毎		
道	電	付帯	-		7.4.	基 準 高 ▽	±30	※は現場打部分のある場合		
路編	線共	付帯設備工				※厚 さt₁~t₅	-20		t ₃	
1,110	同	Ï				※幅 w ₁ , w ₂	-30		w ₁	
	溝					※高 さh₁, h₂	-30		t.4	
									t ₁ W ₂ t ₂	
									h. hz	
									h1	
									ts	

	1		ī	ı	1	ī		1		<u> </u>				ı				- 単位	• 111111
頳	1	章 節	条	枝番	工種		測定項目	規 個々の 測定値 (X)	格 値 平均の 測定値 (X ₁₀)	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
1() 追 解	i i i	を	5	1	切削オーバーレイエ	ф 3	厚さ t	-	-9 -25 -100 3 mプロフィルメー ター (σ) 2. 4mm以 下 直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm	厚イ測中幅延箇断と小できて、 は440年車る。 は2年車る。 は2年車のは、40年の が規はる。 で3、次元計ではる。 で3、次元計ではる。 で3、次元計ではる。 で4、満にいてきて、3、次元計ではる。 で4、満にいてきて、3、次元計ではる。 で4、満にいてきて、3、次元計では、3、次元計で	の差で線 中心線 0m毎に 高の場 間隔、 200㎡未 の項目:	算出する。 は本道 がは、点数の の で が が が が が が が が の の の の の の の の の	る。 端及びその の割とし、 箇所/施工 を変えるこ 工事におい	維持工事におる	現	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
追路	10 14 道路編 持	を	5	2	切削オーバーレイエ (面管理の場合) 厚さ t または標高較差 (切削)のみ	(;	厚さ t 標高較差) (切削) 厚さ t オーバ・レイ)	-17 (17) (面管理と して緩和)	-2 (2) -9 -25	領(案)」とのが 原イ測中幅延箇断と小て は404準車る。40 はのはは長所面が規といて は大いは長所面が規といる。 が規に は、40 は、40 は、40 は、40 は、40 は、40 は、40 は、40	規で に る。 調で 親 で 線 に た の 中 り い の の 間 に る の に る に る に る に る る に る る に る る に る る 。 る る 。 る る 。 る る 。 る る 。 る る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 ま る 。 る 。	よる 装件 、 1 は 測 満 に	高の管理方法を オーバーレ る。 端及びその の簡所 を の を 変 れこ エ まこにい	維持工事においい出来る。 維持することが出来る。					
		4 4	7		路上再生工		延長 L 平 坦 性	_	3mプ ロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	きる。	· 乞 [- 1	笹瓜の	割が細守						
1() 追解	道 道	新	,		岭上冉生上	路船	厚さ t 幅 W 盤工 延長 L		-30 -50	厚さは、各車	福は延長40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、各車線40m毎に左右両端及び 中央の3点を掘り起こして測定。	<u>£</u>							
171	" 持					盛 工		_	-100					* 〒					

単位:mm

									測			<u>+ 17. </u>
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	規格値	 鋼げた等	トラス・アーチ等	測 定 箇 所	摘 要
10 道路編	16 道路修繕	3工場製作工	4		桁補強材製作工		フランジ幅 w(m) 腹板高h(m) 腹板間隔 b'(m)	$\pm 2 \cdots$ w≤0.5 $\pm 3 \cdots$ 0.5 <w≤1.0 <math="">\pm 4 \cdots 1.0<w≤2.0 <math="">\pm (3+w/2) \cdots2.0<w< td=""><td>主げた・主構 床組など</td><td>各支点及び各支間中央 付近を測定。 構造別に、5部材につ き1個抜き取った部材 の中央付近を測定。</td><td>h h h h h h h h h h h h h h h h h h h</td><td></td></w<></w≤2.0></w≤1.0>	主げた・主構 床組など	各支点及び各支間中央 付近を測定。 構造別に、5部材につ き1個抜き取った部材 の中央付近を測定。	h h h h h h h h h h h h h h h h h h h	
							フランジの直角度 δ (mm)	w/200	主げた	各支点及び各支間中央 付近を測定。	Ψ/2	
							圧縮材の曲がり δ (mm)	2∕1000	_	主要部材全数を測定。 û: 部材長 (mm)	e S	